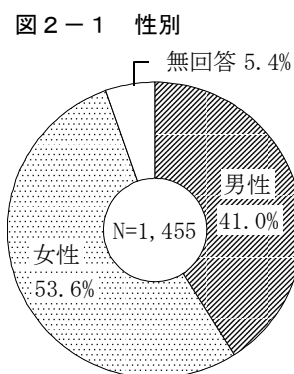


# 第2 調査結果

## 1 基本属性

### (1) 性別・年齢別

調査対象者の性別は、男性が41.0%、女性が53.6%です（図2-1）。



年齢別にみると、65～74歳の前期高齢者が55.8%を占め、75歳以上の後期高齢者は40.2%となっています。男性が前期高齢者60.1%、後期高齢者38.8%、女性が前期高齢者56.5%、後期高齢者42.6%です（図2-2）。

図2-3は、平成22年4月1日現在の住民基本台帳による高齢者の人口比率ですが、後期高齢者の比率は調査よりやや高くなっています。これは、前期高齢者より後期高齢者のほうが要介護・要支援認定者の率が高いことと、後期高齢者の回収率が低かったことなどの理由が考えられます。

図2-2 性別・年齢別

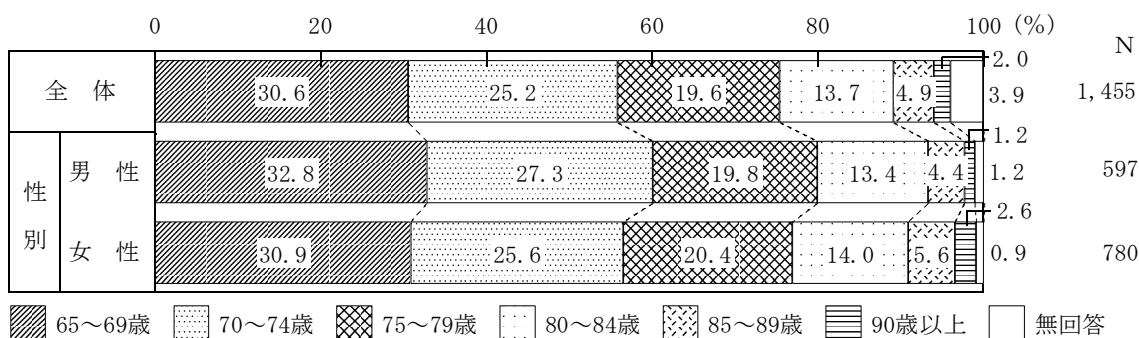
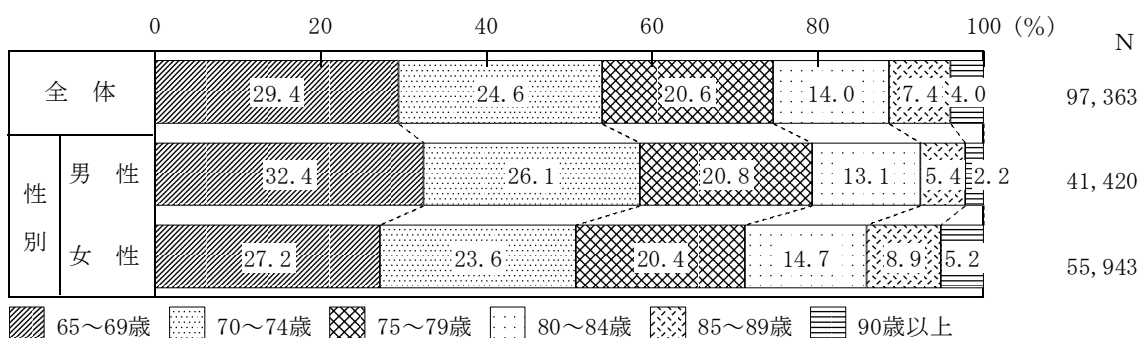


図2-3 実際の人口比率



資料：住民基本台帳人口（平成22年4月1日）

## (2) 日常生活圏域・ブロック別調査対象数

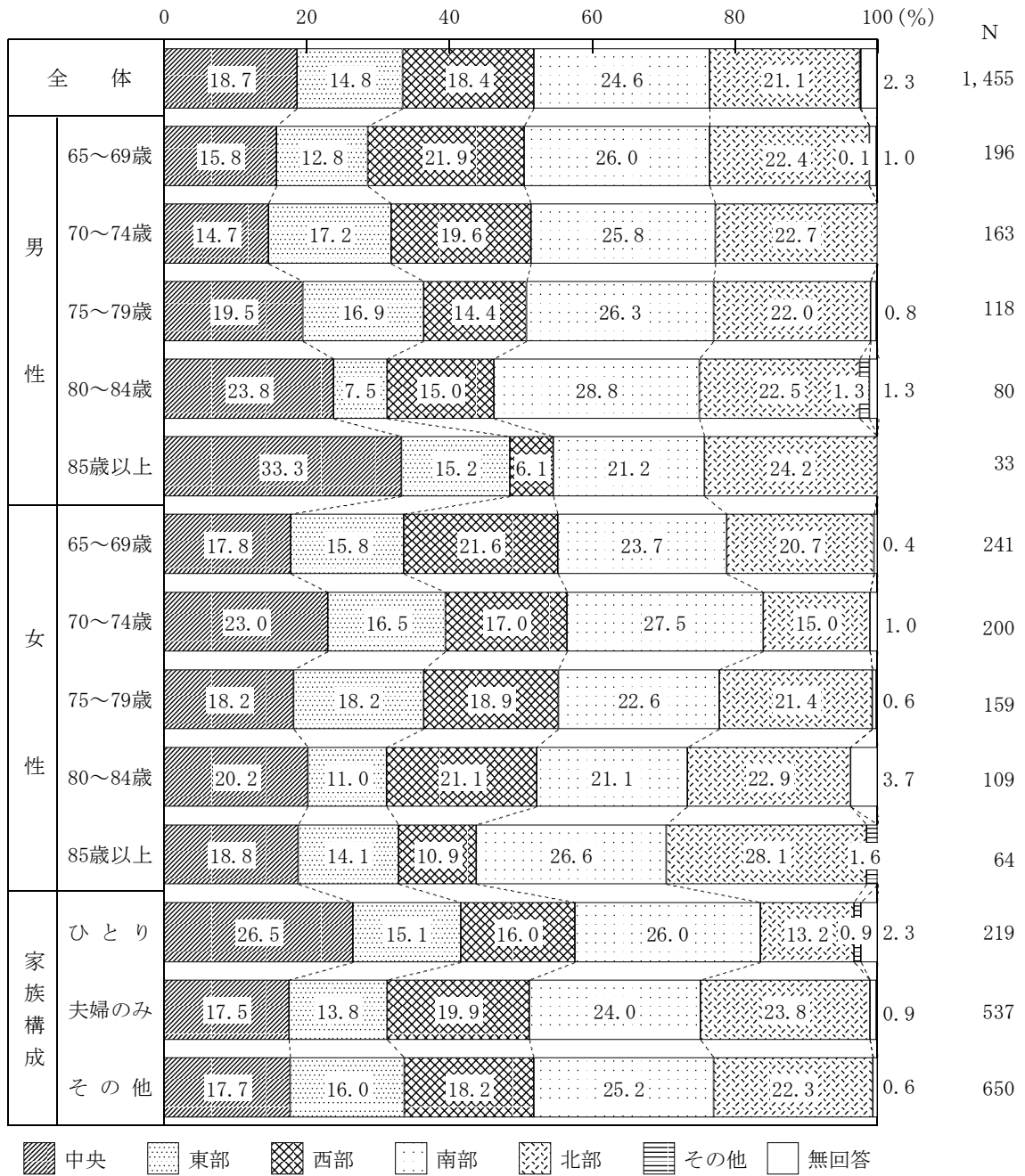
本市においては、日常生活圏域として市域を13に区割し、それぞれに地域包括支援センターを設置しています。表2-1は、日常生活圏域別・地区別の調査対象者数とその割合です。日常生活圏域別調査対象者数は、最も高い「中央南」が10.6%、最も低い「西部」が3.9%です。

図2-4は、調査対象者をブロック別にみたものです。最も高いのが「南部」(24.6%)、最も低いのが「東部」(14.8%)となっています。

表2-1 日常生活圏域別・地区別調査対象者数

圏域	地 区	人数計	比率
中央北	金華32人(2.2%) 京町25人(1.7%) 明德19人(1.3%) 本郷42人(2.9%)	118人	8.1%
中央南	徹明19人(1.3%) 梅林31人(2.1%) 白山37人(2.5%) 華陽37人(2.5%) 木之本30人(2.1%)	154人	10.6%
日 光	島29人(2.0%) 早田41人(2.8%) 城西33人(2.3%) 則武25人(1.7%)	128人	8.8%
西 部	木田9人(0.6%) 七郷33人(2.3%) 合渡15人(1.0%)	57人	3.9%
岐 北	黒野42人(2.9%) 方県12人(0.8%) 西郷21人(1.4%) 網代8人(0.5%)	83人	5.7%
長 良	長良37人(2.5%) 長良西43人(3.0%) 長良東31人(2.1%)	111人	7.6%
北 部	鷺山49人(3.4%) 常磐27人(1.9%) 岩野田39人(2.7%) 岩野田北23人(1.6%)	138人	9.5%
北東部	藍川21人(1.4%) 三輪南29人(2.0%) 三輪北8人(0.5%)	58人	4.0%
市 橋	本荘51人(3.5%) 三里27人(1.9%) 市橋26人(1.8%) 鏡島43人(3.0%)	147人	10.1%
境 川	鶉25人(1.7%) 日置江11人(0.8%) 柳津29人(2.0%)	65人	4.5%
南 部	加納東35人(2.4%) 加納西35人(2.4%) 茜部24人(1.6%) 厚見52人(3.6%)	146人	10.0%
長 森	日野11人(0.8%) 長森南44人(3.0%) 長森北22人(1.5%) 長森東24人(1.6%) 長森西17人(1.2%)	118人	8.1%
東 部	岩22人(1.5%) 芥見33人(2.3%) 芥見東30人(2.1%) 芥見南12人(0.8%)	97人	6.7%
その他	その他2人(0.1%) (他市町転居者等)	2人	0.1%
無回答	無回答33人(2.3%)	33人	2.3%

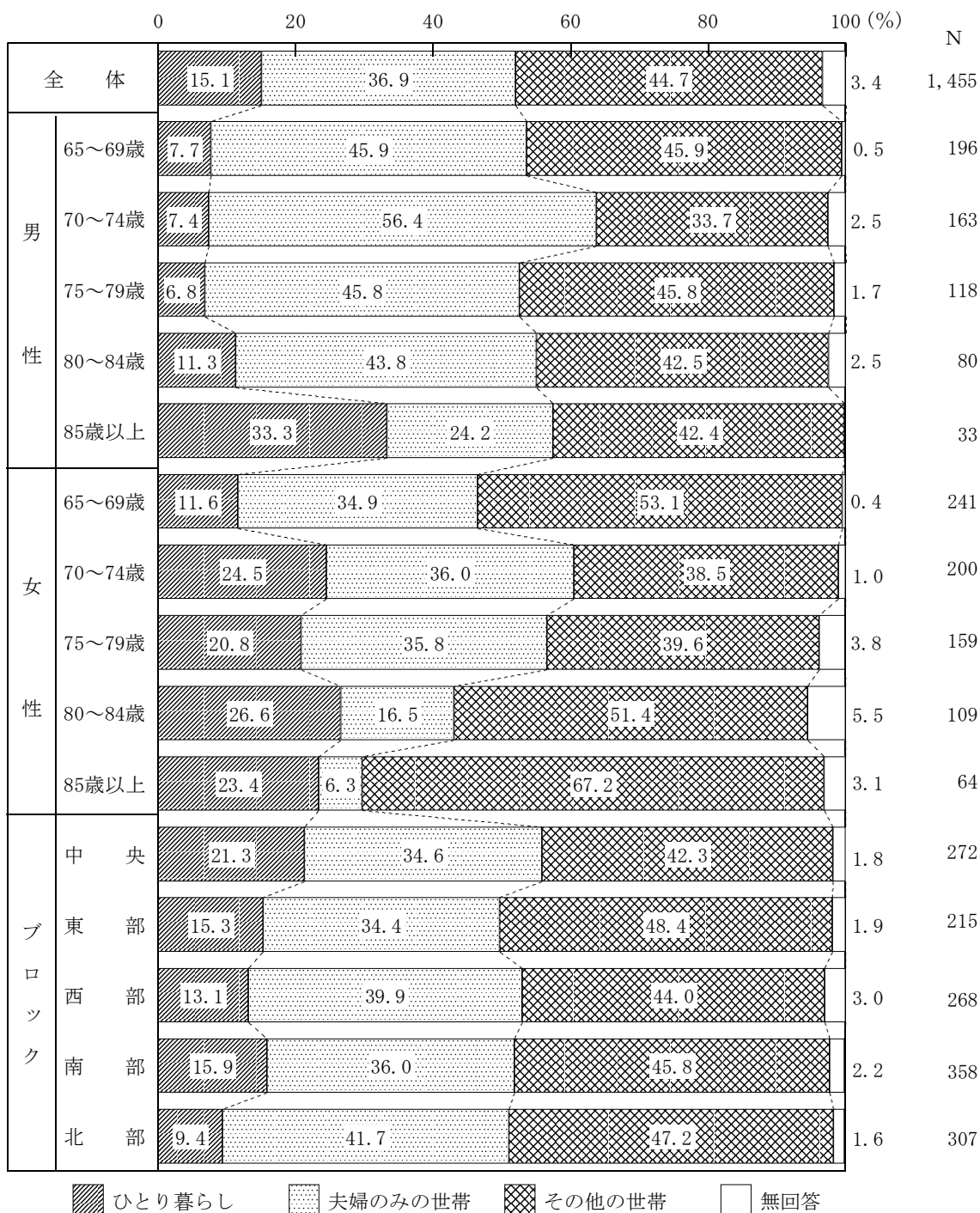
図2-4 ブロック別調査対象者数



(3) 家族構成

家族構成は、「ひとり暮らし」が15.1%、「夫婦のみの世帯」が36.9%、子どもの家族などと同居している「その他の世帯」が44.7%となっています。「ひとり暮らし」は男性の85歳以上が最も高くなっていますが、全般的には女性が高くなっています。ブロック別にみると、「ひとり暮らし」が高いのは「中央」(21.3%)、低いのは「北部」(9.4%)です。

図2-5 家族構成

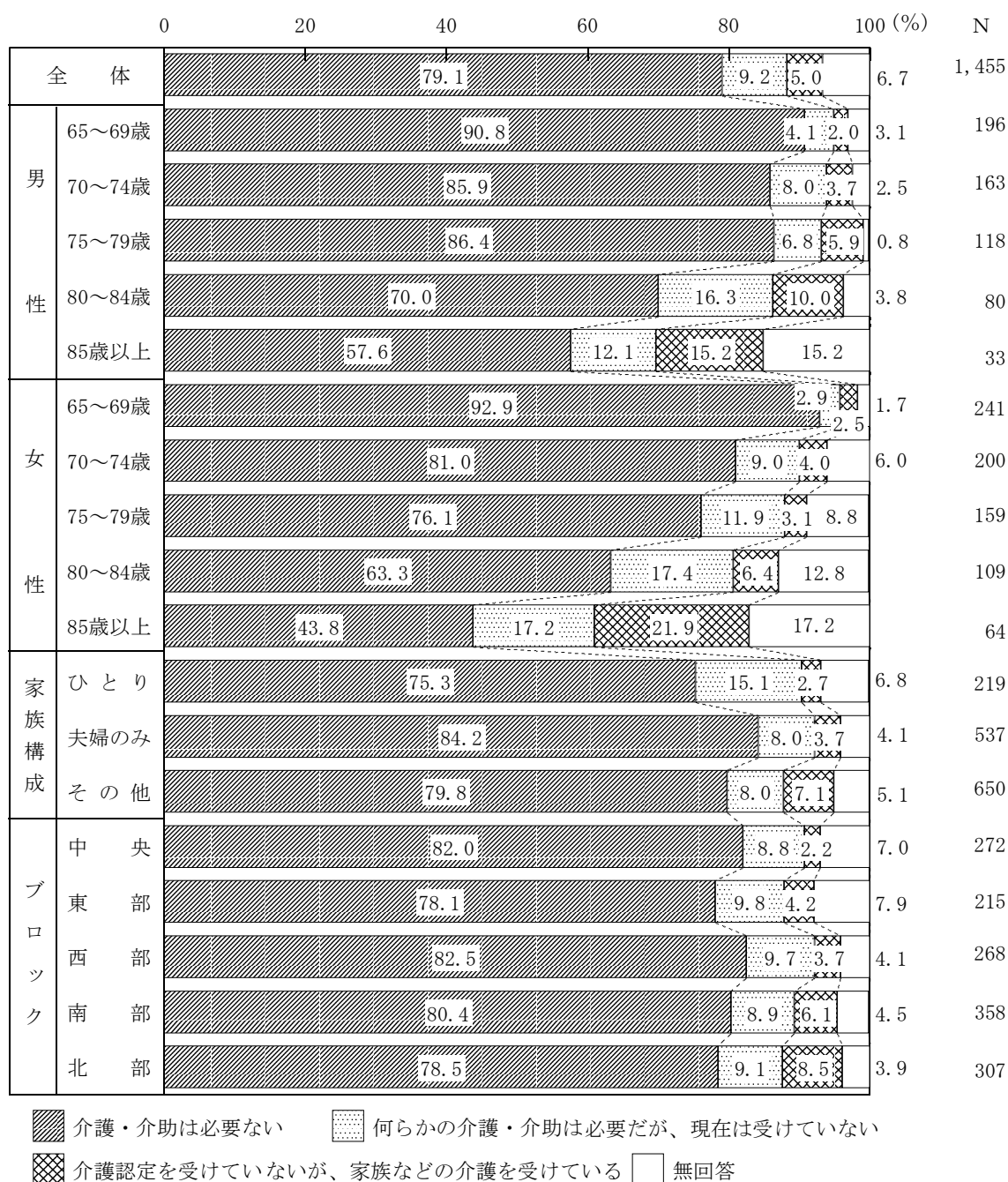


## 2 暮らし

### (1) 介護が必要か

「普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか」という設問に対しては、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が9.2%、「介護認定を受けていないが、家族などの介護を受けている」が5.0%あります。「介護認定を受けていないが、家族などの介護を受けている」は、男女とも高齢者、家族構成別のその他の世帯、ブロック別の北部が高くなっています。

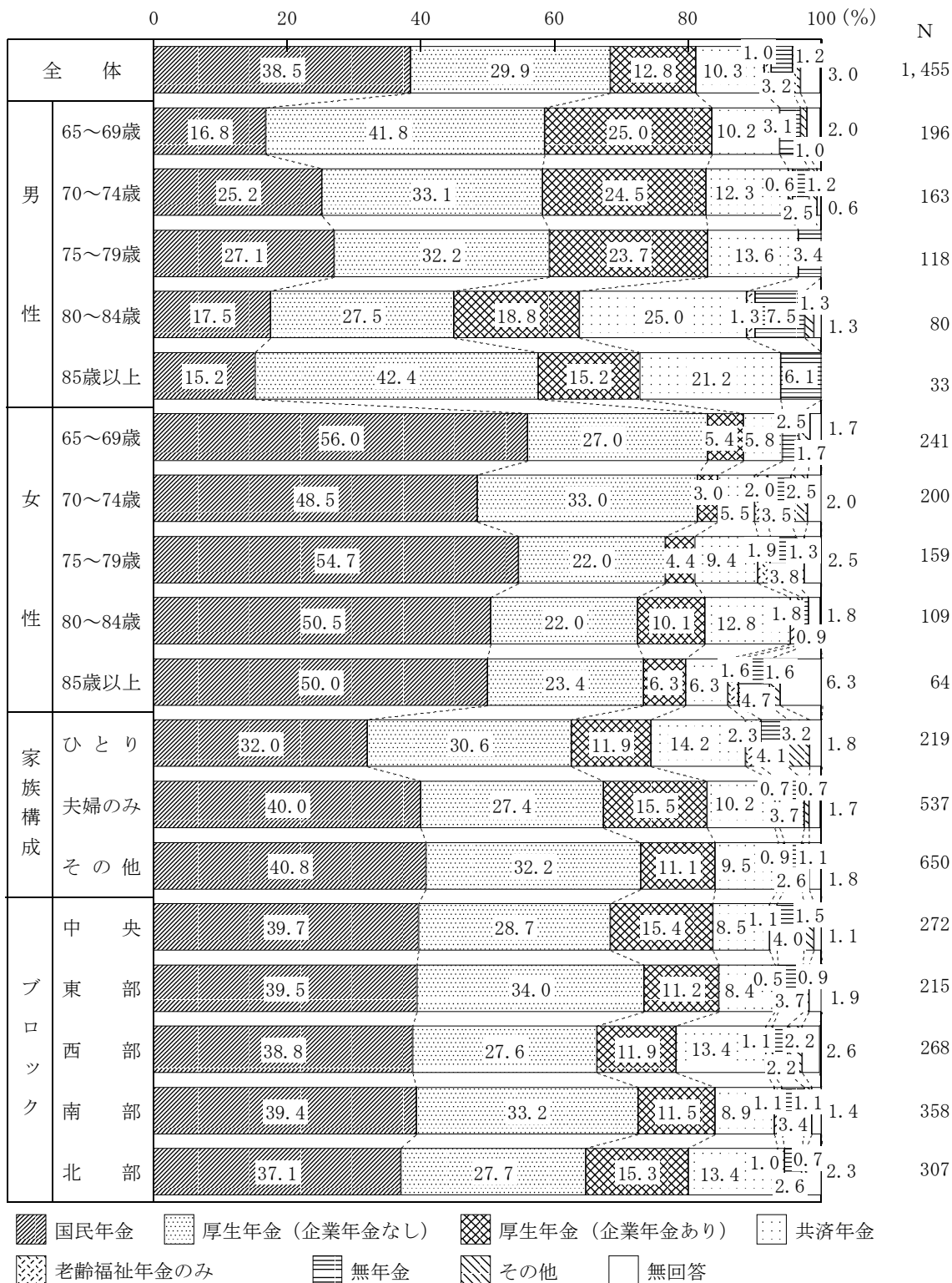
図2-6 普段の生活で介護・介助が必要か



(2) 年金の種類

年金の種類は、「国民年金」(38.5%)、「厚生年金(企業年金なし+企業年金あり)」(42.7%)、「共済年金」(10.3%)などとなっています。男性は「厚生年金」の比率が高く、女性は国民年金が高くなっています。

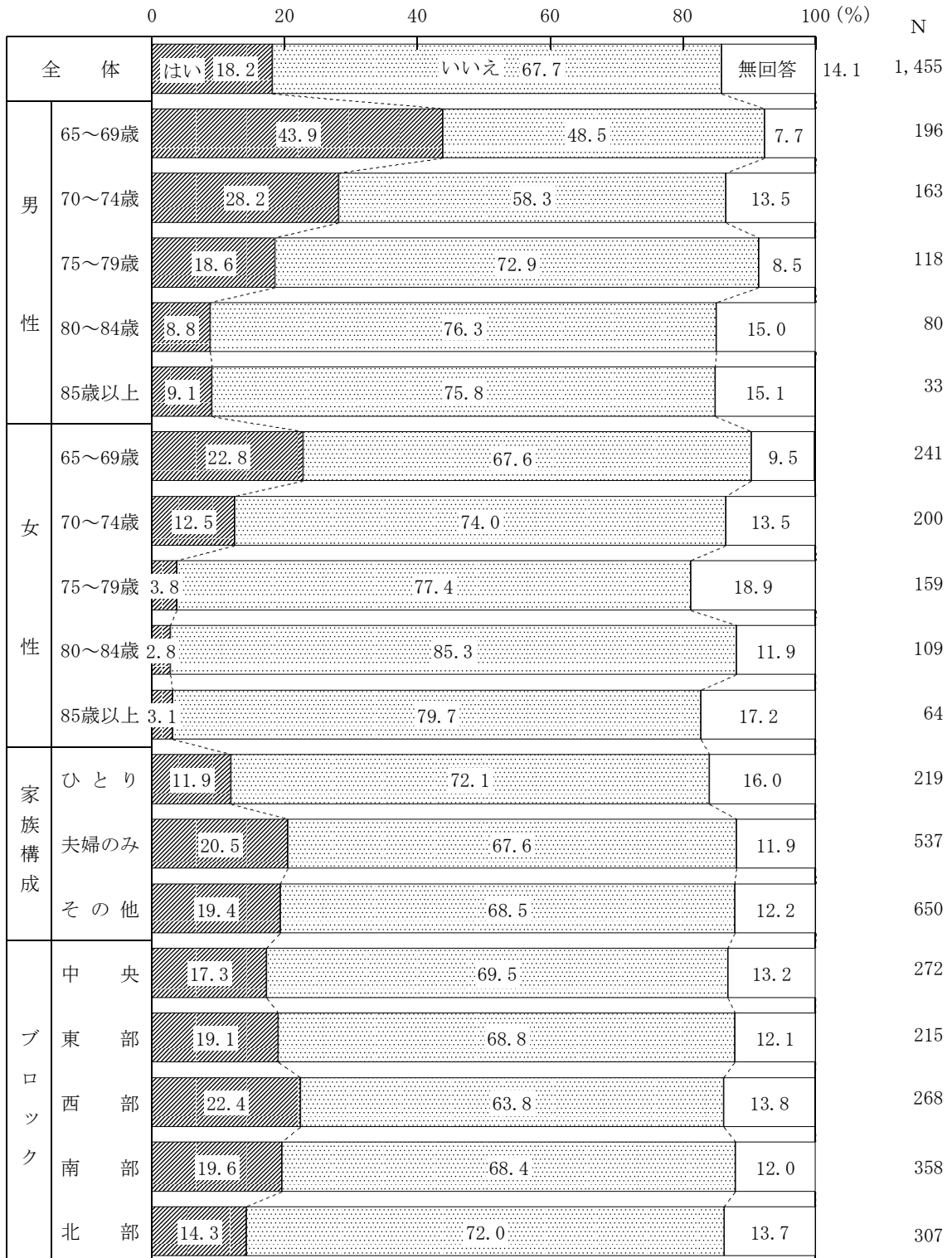
図2-7 年金の種類



(3) 仕事

「現在、収入のある仕事をしていますか」という設問に「はい」と答えたのは18.2%です。仕事をしている率が高いのは、性別では男性、年齢別では若年齢層、家族構成別では夫婦のみの世帯、ブロック別では西部です。

図2-8 収入のある仕事をしているか



(4) 1か月の収入

年金、給料、不動産収入などすべてを含んだ1か月の収入は、「10万円～20万円」(20.8%)が最も高く、次いで「10万円未満」(18.1%)、「20万円～30万円」(13.6%)などとなっています。1か月分の収入の平均は25万2,422円です。1か月分の収入の平均が高いのは、性別では男性、家族構成別ではその他の世帯、ブロック別では東部です。

図2-9 1か月の収入

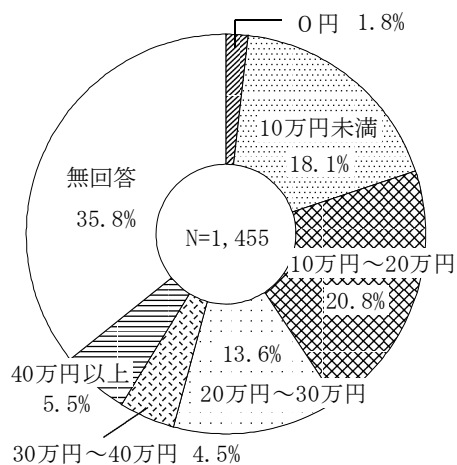
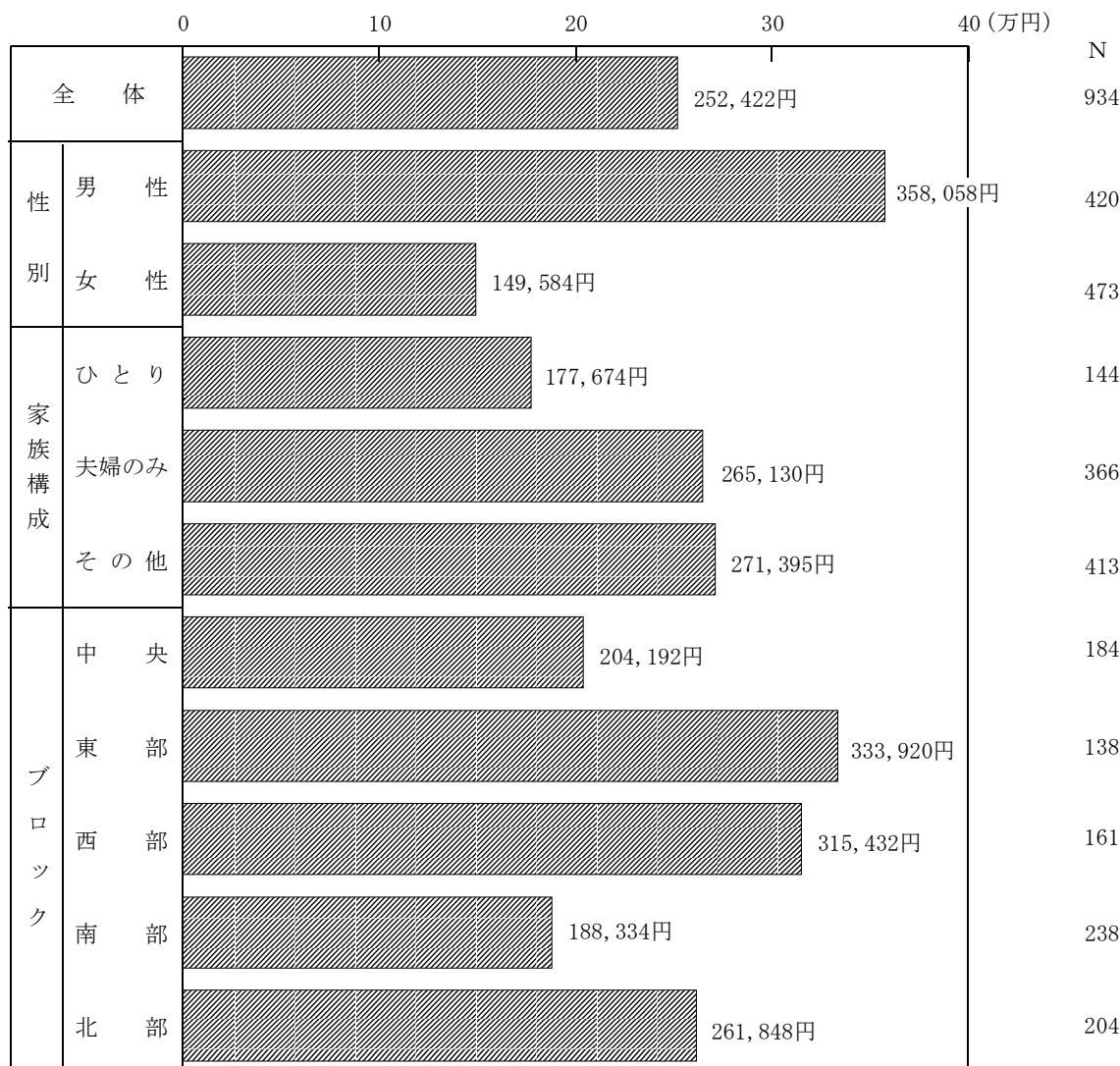


図2-10 1か月の収入の平均

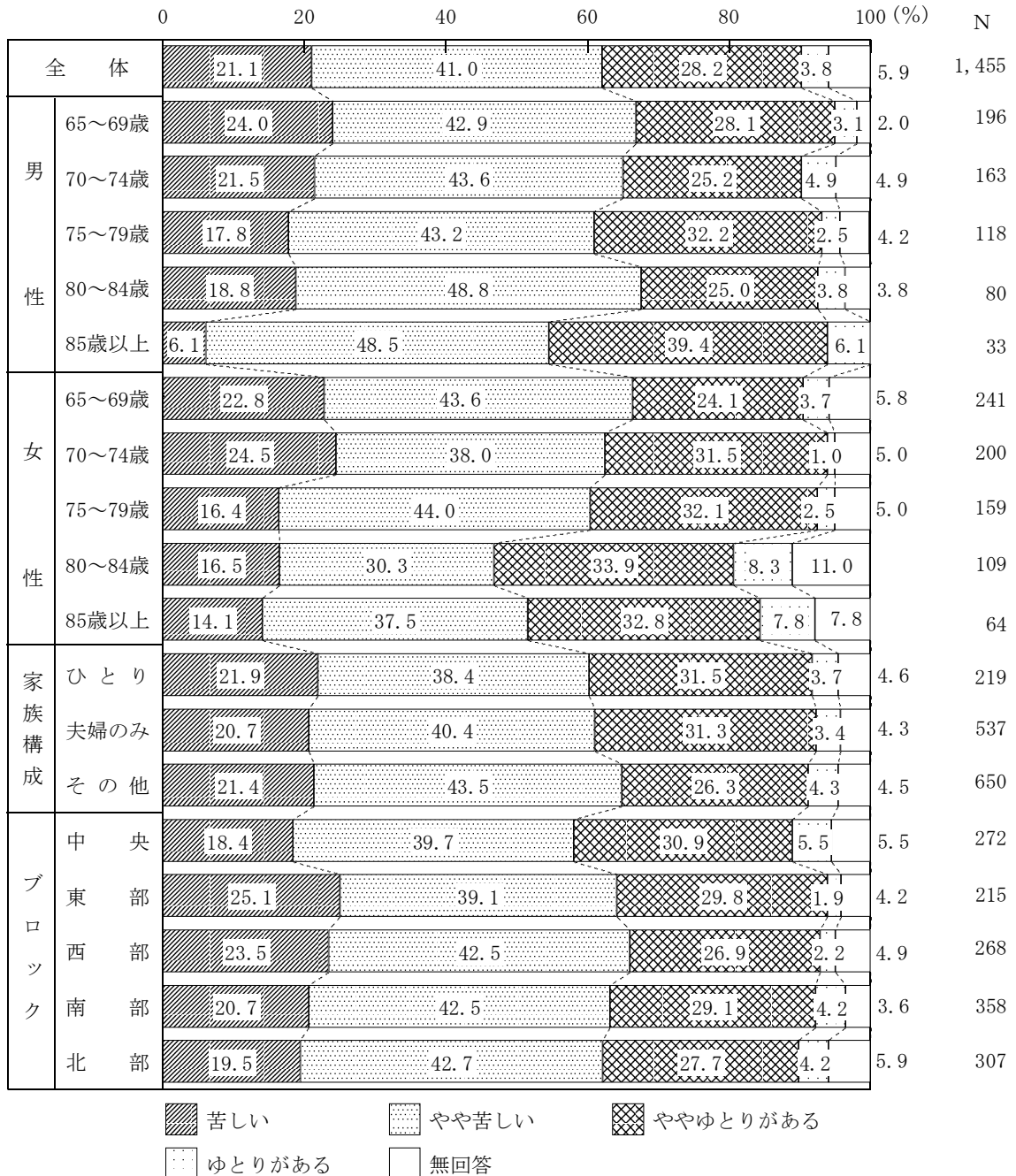




(5) 家計の状況

「現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか」という設問に対しては、「苦しい」(21.1%)と「やや苦しい」(41.0%)の合計が62.1%、「ややゆとりがある」(28.2%)と「ゆとりがある」(3.8%)の合計が32.0%となっています。

図2-11 家計の状況

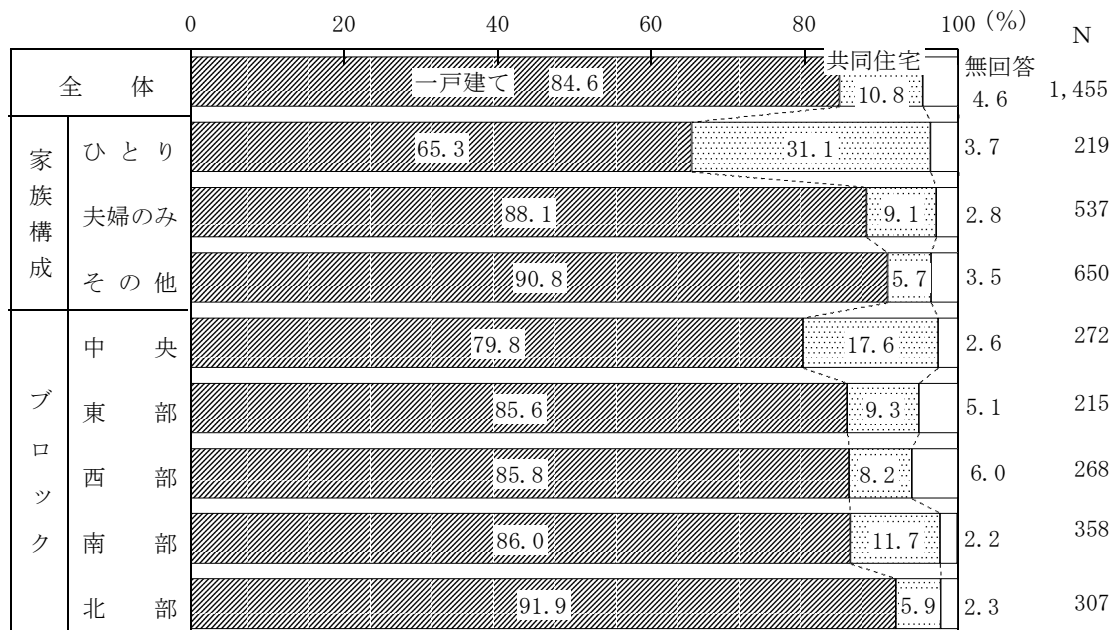


(6) 住居

① 一戸建てか共同住宅か

住居は、「一戸建て」が84.6%、「共同住宅」が10.8%です。「共同住宅」が高いのは、家族構成別ではひとり暮らし、ブロック別では中央です。

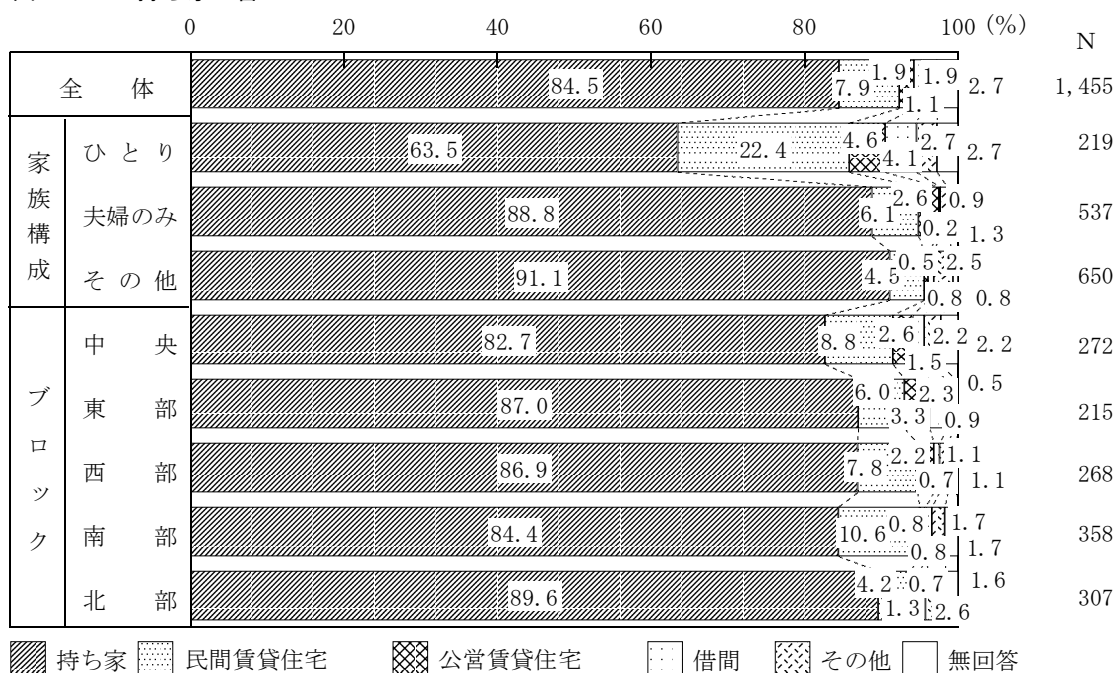
図2-12 一戸建てか共同住宅か



② 持ち家か否か

「持ち家」に住んでいるのは84.5%です。平成17年の国勢調査の本市の高齢者のいる世帯の「持ち家」84.0%とほぼ同率です。

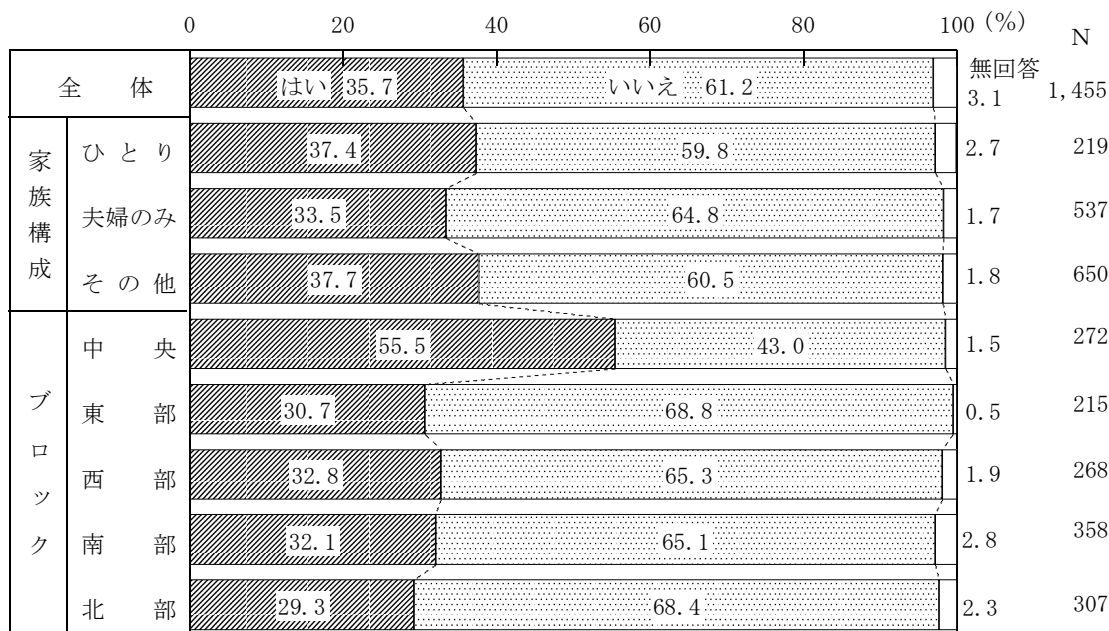
図2-13 持ち家か否か



③ 住んでいるのは2階以上か

主に生活する部屋は2階以上かという設問に対しては、「はい」が35.7%でした。ブロック別にみると、中央の「はい」が55.5%と高くなっています。

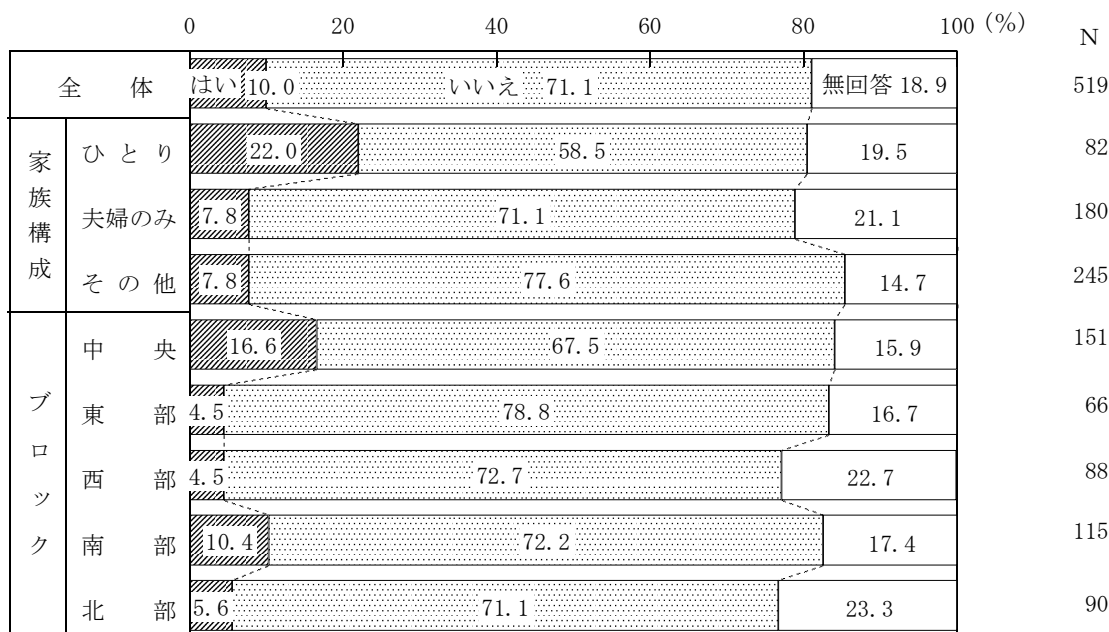
図2-14 主に生活する部屋は2階以上か



④ エレベーターが設置されているか

2階以上に住んでいると答えた519人に、エレベーターが設置されているかを聞いたところ、「はい」は10.0%にとどまっています。これは、一戸建てが84.6%もあるためと考えられます。

図2-15 エレベーターが設置されているか

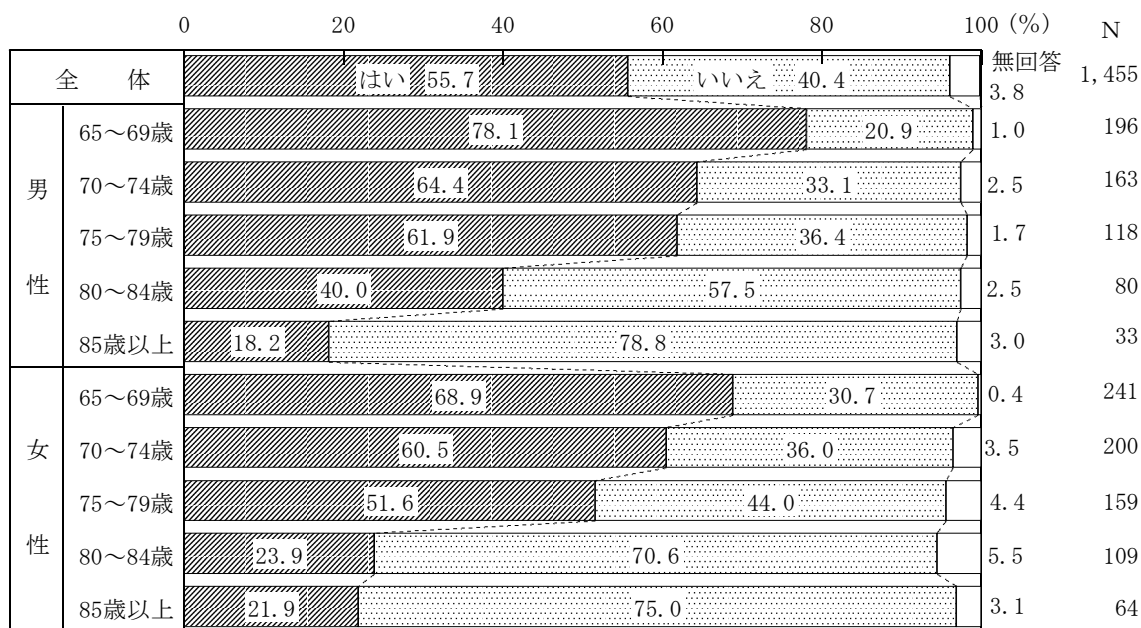


### 3 運動・閉じこもりについて

#### (1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか

階段を手すりや壁をつたわずに昇っているのは55.7%です。「いいえ」は、男女とも高齢になるほど高くなっています。

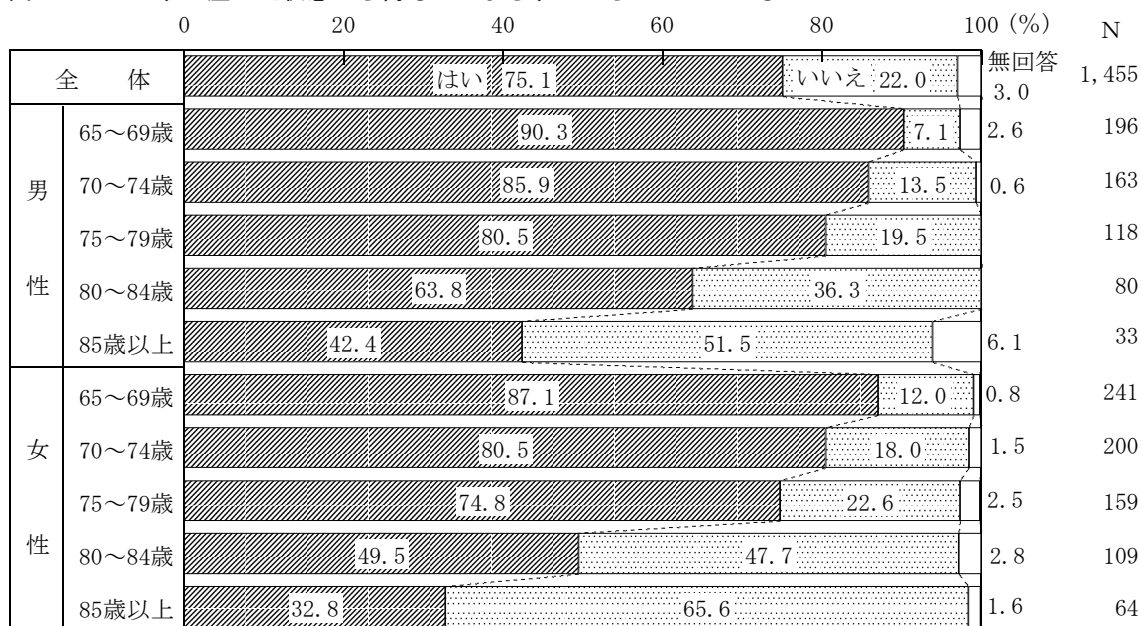
図2-16 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか



#### (2) いすに座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか

いすに座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているのは75.1%です。「いいえ」は、女性のほうが高く、男女とも高齢になるほど高くなっています。

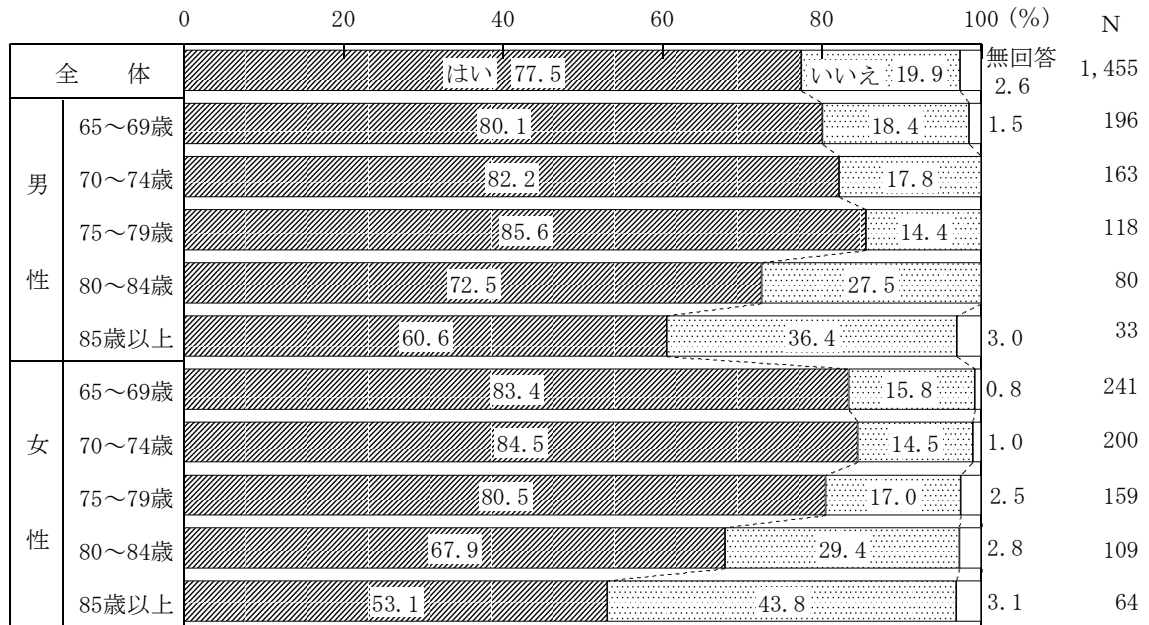
図2-17 いすに座った状態から何もつかまらずに立ち上がっているか



(3) 15分位続けて歩いているか

15分位続けて歩いているのは77.5%です。意外なことに、65～69歳の「いいえ」が高く、男性の65～69歳の18.4%は75～79歳の14.4%より4ポイントも高くなっています。

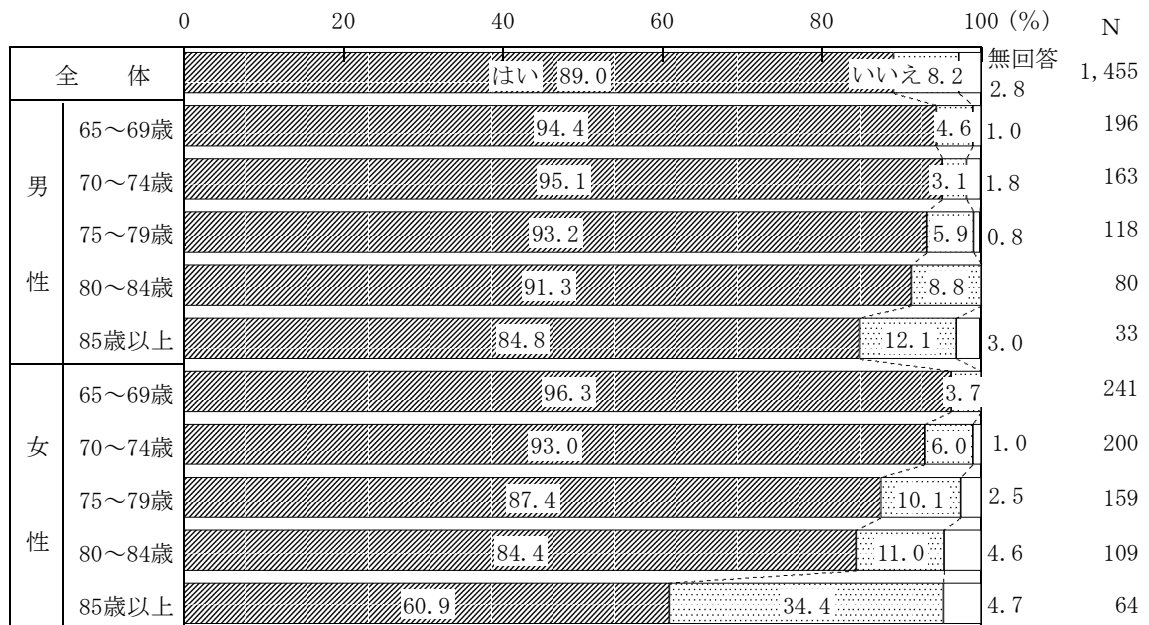
図2-18 15分位続けて歩いているか



(4) 週に1回以上外出しているか

週に1回以上外出しているのは89.0%です。75歳以上の女性の外出を控える率が高くなっています。

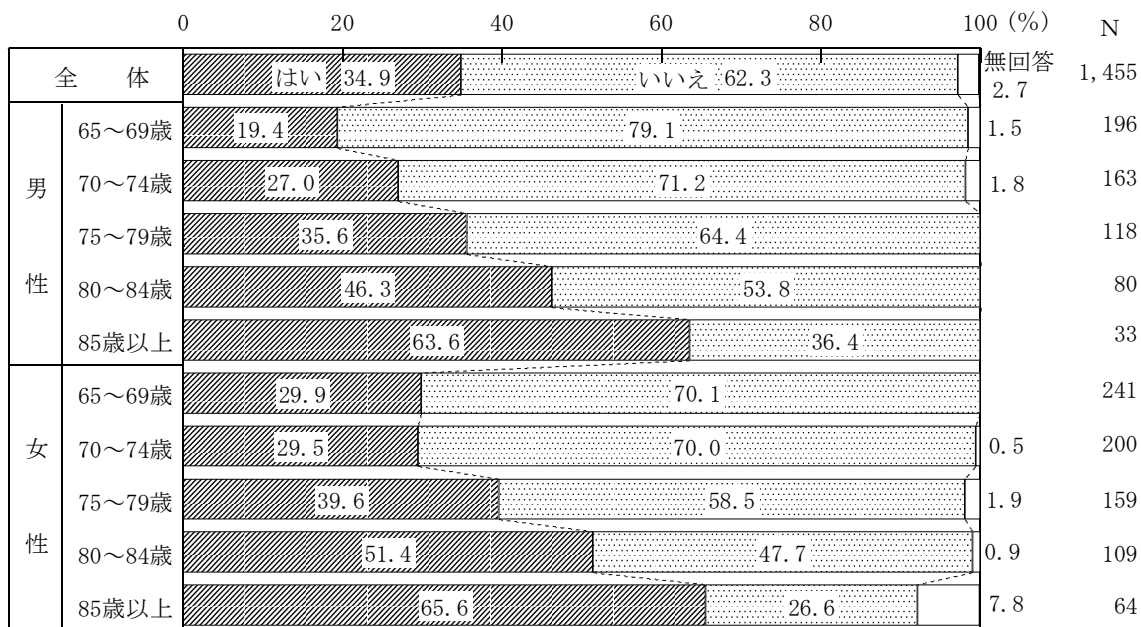
図2-19 週に1回以上外出しているか



(5) 昨年と比べて外出の回数が減っているか

昨年と比べて外出の回数が減っていると答えたのは34.9%でした。男女とも高齢になるほど外出の回数が減る傾向がみられます。

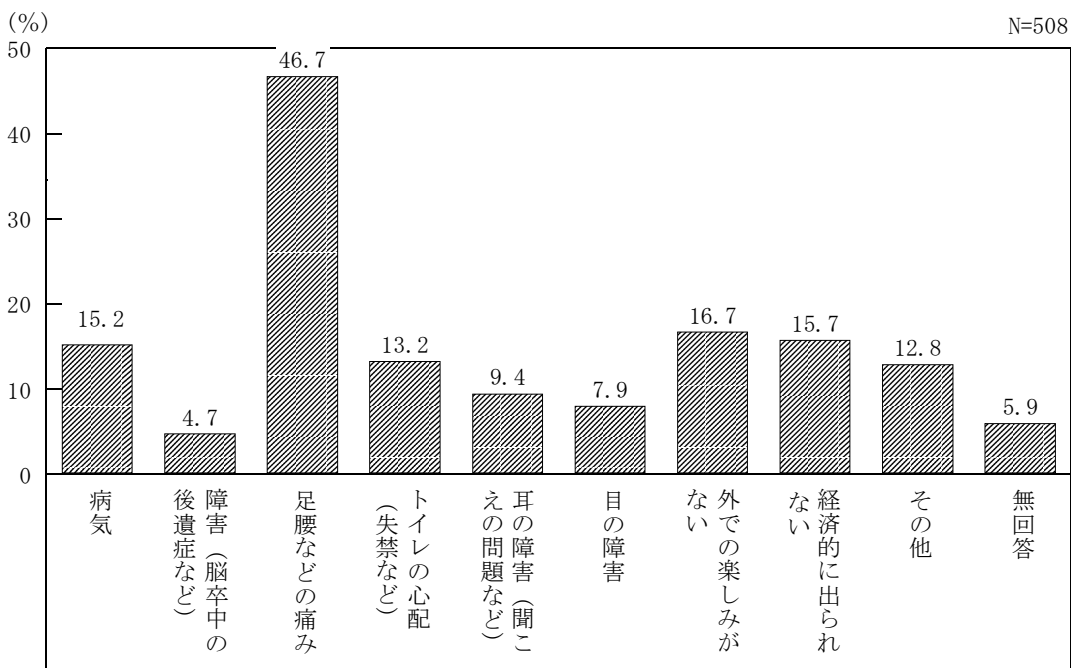
図2-20 昨年と比べて外出の回数が減っているか



(6) 外出を控えている理由

前問で昨年と比べて外出の回数が減っていると答えた508人に、その理由を聞いた結果が図2-21です。「足腰などの痛み」が最も高く、46.7%の人があげています。

図2-21 外出を控えている理由（複数回答）



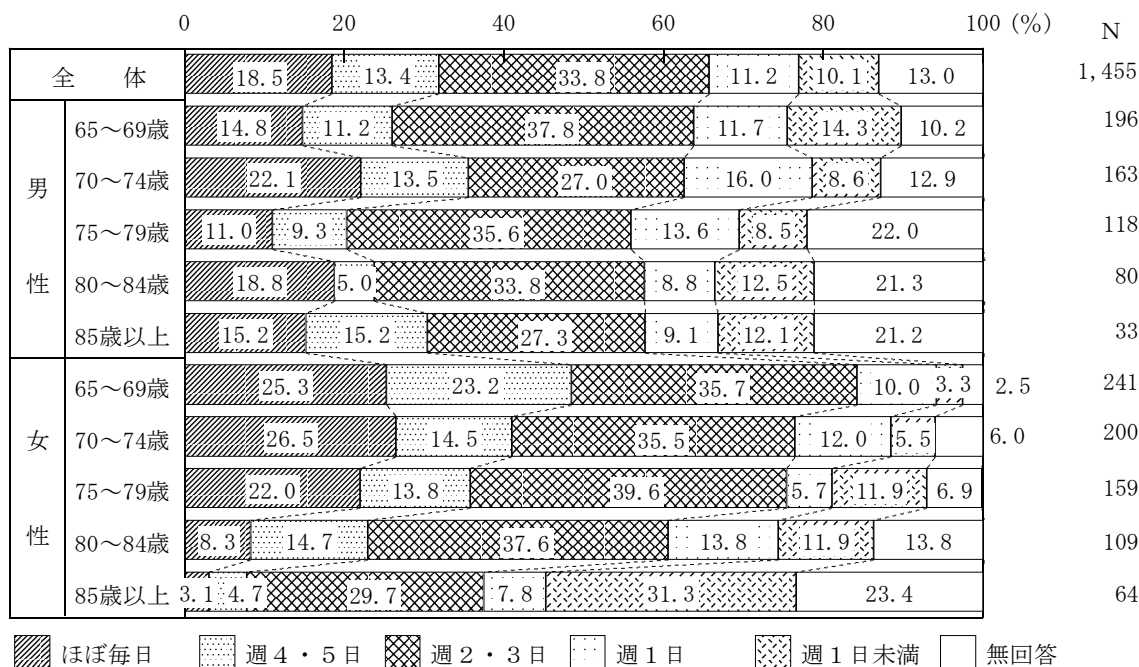
外出を控えている「その他」の理由として、次の記入がありました。

- 退職したから。(6件)
- 介護が必要な家族がいる。(6件)
- 外出がおっくうになった。(4件)
- 今年の夏は例外的に暑かったため。(3件)
- 身体の衰え。(3件)
- 孫の子守り。(2件)
- 疲れるから。(2件)
- 妻が不自由なため。(2件)
- 友だちが少なくなった。(2件)
- 買い物等に行く回数が少なくなった。
- 忙しいから。
- 足腰が全く歩けず立てず世話になっている。
- 自転車で危ない。
- 歩くことが不自由なため。
- 韓国ドラマなどテレビを見てしまう。
- 主人が他界したこと。
- 外出を控えているわけではありませんが、家の中での整理等用事があるからです。
- 人工透析中、声の障害。
- 関節疾病による右下肢股関節機能障害。
- お稽古に行かなくなったため。
- 講座とテニス中止。
- 機会がない。
- ハウスで食事をしますので(食堂)買い物がなくなりました。
- 骨折のため。
- 昨年転んで膝を痛めましたので。
- 両下肢の著障。
- 外出したい時にしています。
- 日常生活をするのにゆっくりしているから。
- 海外・国内旅行が減った。行く所がなくなった。
- 町内会の仕事。
- 肩が痛い。

(7) 買物の頻度

買物の頻度は「週2・3日」(33.8%)が最も高く、次いで「ほぼ毎日」(18.5%)と  
なっています。80歳以上の「ほぼ毎日」は、女性より男性が高くなっています。

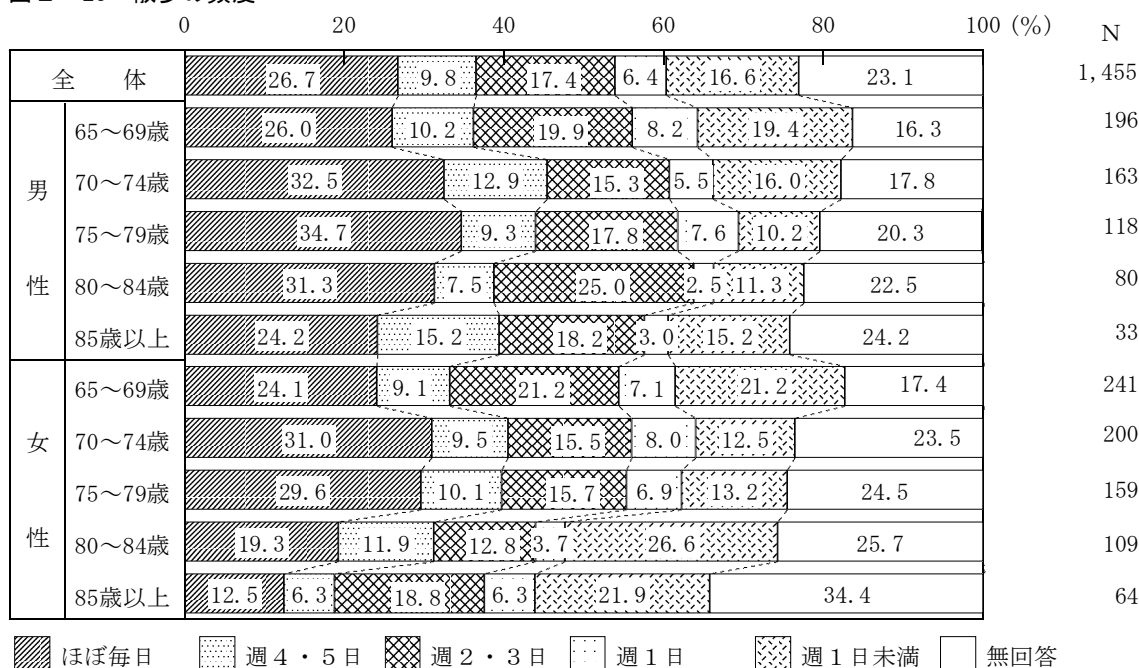
図2-22 買物の頻度



(8) 散歩の頻度

散歩は「ほぼ毎日」が26.7%ある一方で、「週1日未満」が16.6%あります。「ほぼ毎日」は、男性が女性より高くなっています。

図2-23 散歩の頻度

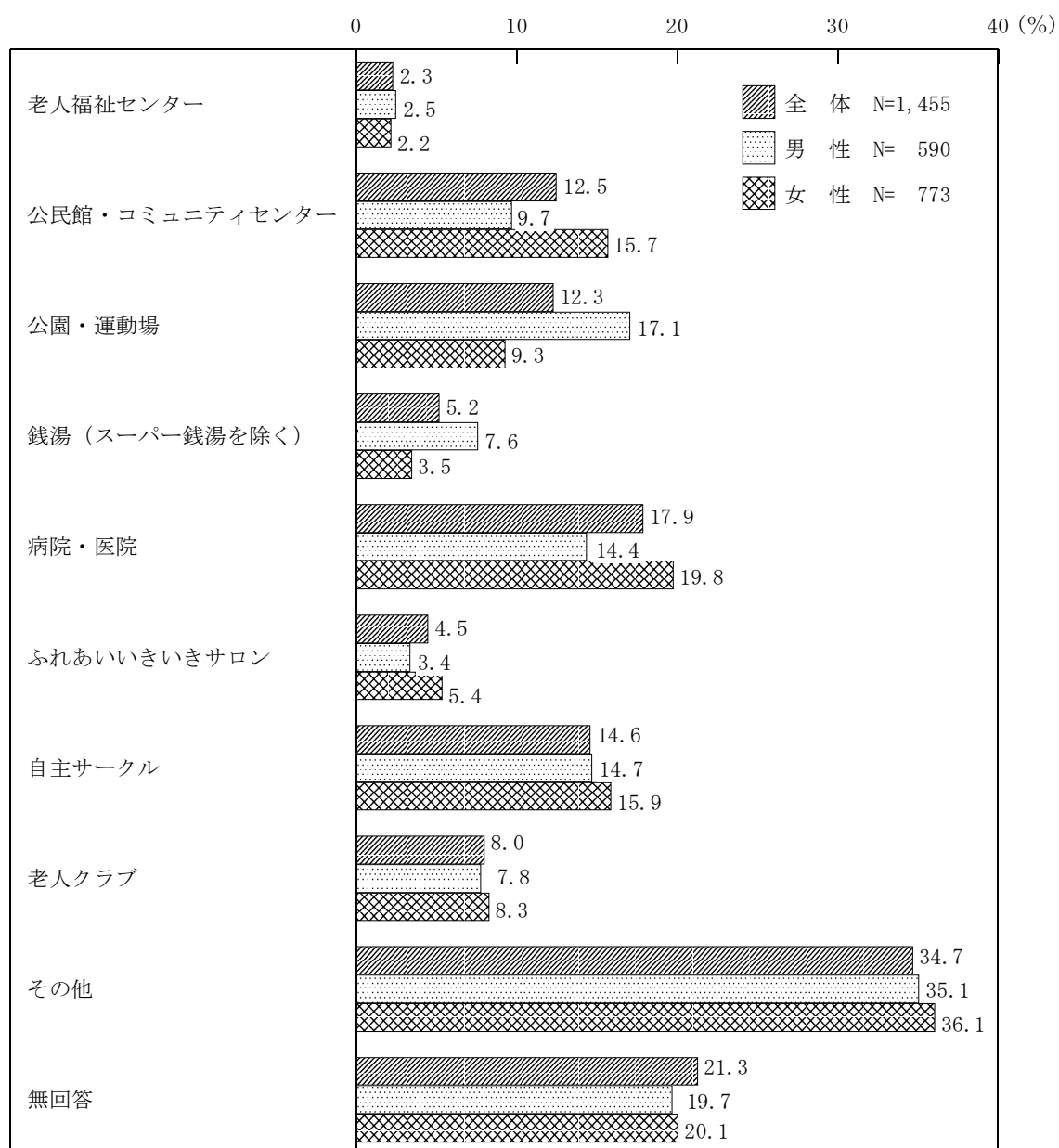




(9) 友人・知人との交流場所

「友人・知人と交流するため、どこへ出かけますか」という設問に対しては、「その他」(34.7%)が最も高く、次いで「病院・医院」(17.9%)、「自主サークル」(14.6%)などとなっています。高齢者が集まると想定される典型的な施設等を選択肢に掲げたにもかかわらず、「その他」が高いということは、高齢者同士が過ごす場所が多様化していることを表しています。男性が女性より高いのは、「公園・運動場」「銭湯(スーパー銭湯を除く)」などで、逆に女性が男性より高いのは、「公民館・コミュニティセンター」「病院・医院」などです。

図2-24 友人・知人との交流場所(複数回答)



「その他」の交流場所として、次の記入がありました。

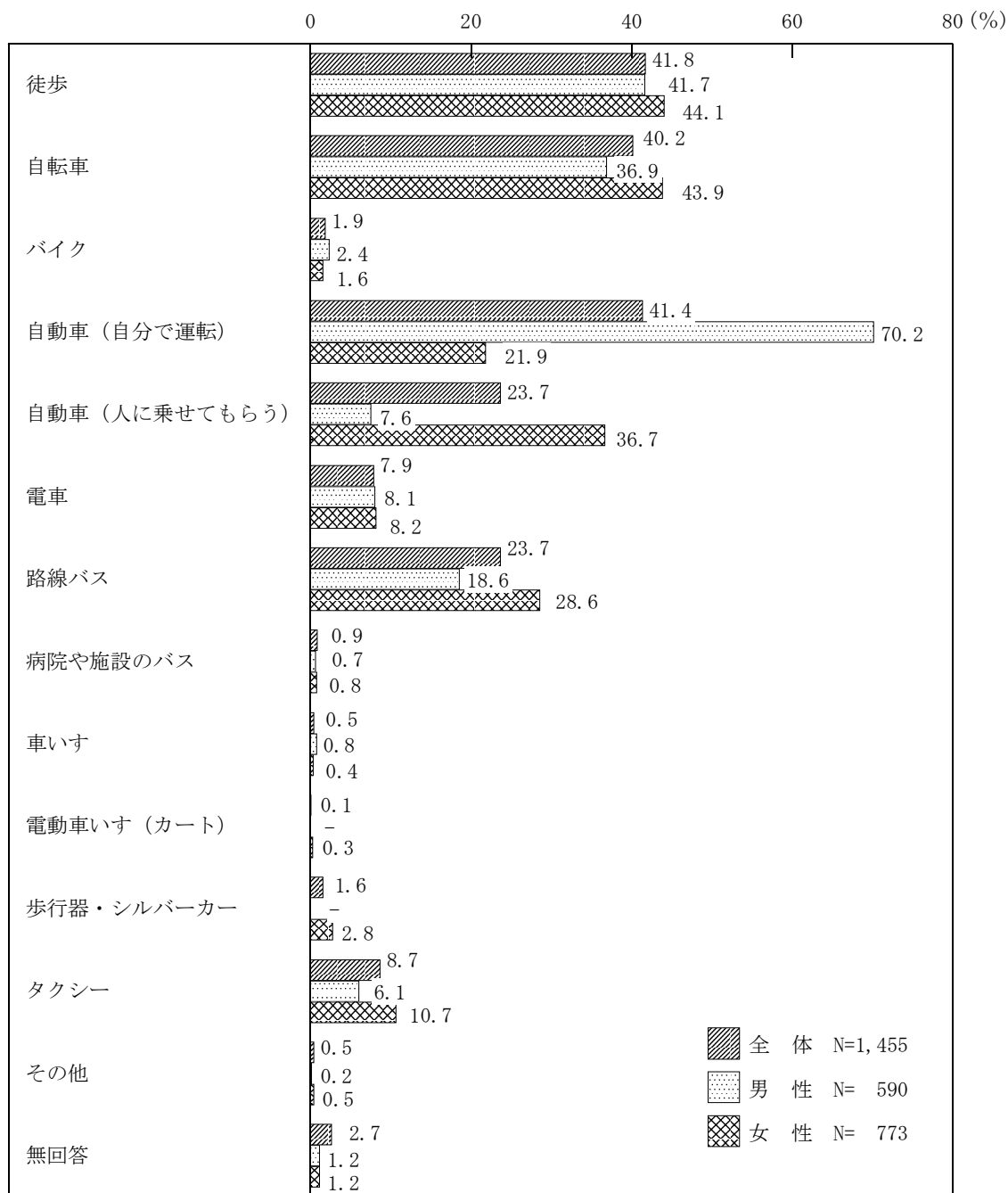
- |                     |   |
|---------------------|---|
| ○喫茶店（73件）           | ○岐阜駅（3件）  |
| ○食事・飲食店（45件）        | ○介助が必要なため出かけられない。（2件）                                     |
| ○なし（40件）            | ○上記何もなし。自営業をしているため。（2件）                                   |
| ○自宅・友人宅（27件）        | ○パソコン教室（2件）   |
| ○買い物（24件）           | ○パッチワーク教室（2件）   |
| ○仕事（22件）            | ○パチンコ店（2件）  |
| ○出かけない。（19件）        | ○寺院参り（2件）   |
| ○ゴルフ（15件）           | ○テニス（2件）  |
| ○カラオケ（15件）          | ○家にいるのが一番安気です。  |
| ○旅行・観光（15件）         | ○ほとんど家のことをしています。  |
| ○プール（12件）           | ○公民館活動をしていましたが全部やめました。                                    |
| ○スポーツジム（10件）        | ○骨折したため行けない。  |
| ○デイサービス（9件）         | ○月1回コーラス同好会に行く。   |
| ○ボランティア活動（9件）       | ○大勢の人と集まることがあまり好きではない。                                    |
| ○山・登山（8件）           | ○入院中  |
| ○農作業（8件）            | ○美術工芸展等催事、観光地   |
| ○釣り（7件）             | ○盆栽クラブ  |
| ○麻雀（5件）             | ○絵画、日本舞踊  |
| ○温泉（4件）             | ○営業および農作業で毎日人と会って話をする。                                    |
| ○ボーリング（4件）          | ○絵画教室   |
| ○スポーツセンター、体育館（4件）   | ○書道   |
| ○グラウンドゴルフ（4件）       | ○宗教関係   |
| ○柳ヶ瀬（4件）            | ○広報ぎふを見て  |
| ○OB会（4件）            | ○昨年までは名古屋に買い物や遊びに行っていました。今年暑かったので寝てばかりでした。冬はスーパー以外外出しません。 |
| ○居酒屋（3件）            | ○病院通院中  |
| ○ドライブ（3件）           | ○友だちとのふれあい  |
| ○図書館（3件）            | ○母の所  |
| ○ホテル（3件）            |   |
| ○町内、近所の家（3件）        |   |
| ○電話で連絡を取っております。（3件） |   |
| ○散歩（3件）             |   |
| ○美術館（3件）            |   |
| ○スナック（3件）           |   |
| ○映画館（3件）            |   |

- J A 婦人部役員のため、それに関する外出
- 誘いがあれば出る程度（経済的にも関係）
- 地区でのひとり暮らしサロン
- 編み物をしています。
- 仕事仲間の講
- 天満ホーム、駐車場
- 自由に出かけています。
- 健康体操
- 金華山
- 友だちとの会
- どこへでも。上記のような所へはあまり行っていない。
- 自宅にてグループ学習を行います。長良文化に行きます。
- お稽古事、講座
- 仏教の講演会、勉強会
- 弘法、お宮参り
- 長良川
- 小学校
- 犬の散歩
- 自宅近くをウォーキングしながらおしゃべりしたり、喫茶しながらおしゃべり。
- カルチャーセンター
- 金華山へ登って頂上で登ってきた人たちとおしゃべりや喫茶店など
- 弟宅
- 職域関係の会等
- 友人と土地売買
- ロードランニング
- エアロビクス
- ぎふチャンラジオスタジオ
- おけいこ場
- コンサート
- 団体の集り
- おしゃべり散歩（友人と）
- 友だちが遊びに来たり、行ったり、センターの行事、絵手紙やコーラス
- シルバー人材センター
- 詩吟教室、川柳教室
- 市の体操とフォークダンスとお参り等
- 地域の仲良き人たちとバーベキュー
- 銀行、郵便局
- 近所の老人仲間との散歩
- 兄の家
- 絵画制作、展覧会
- 教会
- 自治会の会合
- スポーツ公園
- 野球チーム
- インターネット
- 趣味月2回中日文化センター
- 大学、専門学校へ週計3回授業（講義）をしに行っている。
- 講座
- 姉の所
- 絵手紙、木目込
- 友人（クラスメート、職場の若い後輩（定年まで勤務した関係者））
- 決まっていないが、遊びに行く時には知り合いの人が声をかけてくださいます。
- 各種団体、事業所など
- 家の近くの友人たち
- 趣味（ししゅう）の教室
- 山、海、川
- 近所で立ち話

(10) 外出時の移動手段

外出する際の移動手段としては、「徒歩」(41.8%)、「自動車(自分で運転)」(41.4%)および「自転車」(40.2%)の3項目が40%以上の高い率です。男性の「自動車(自分で運転)」が70.2%と非常に高く、女性は男性より「自転車」「自動車(人に乗せてもらう)」「路線バス」が高くなっています。

図2-25 外出時の移動手段(複数回答)



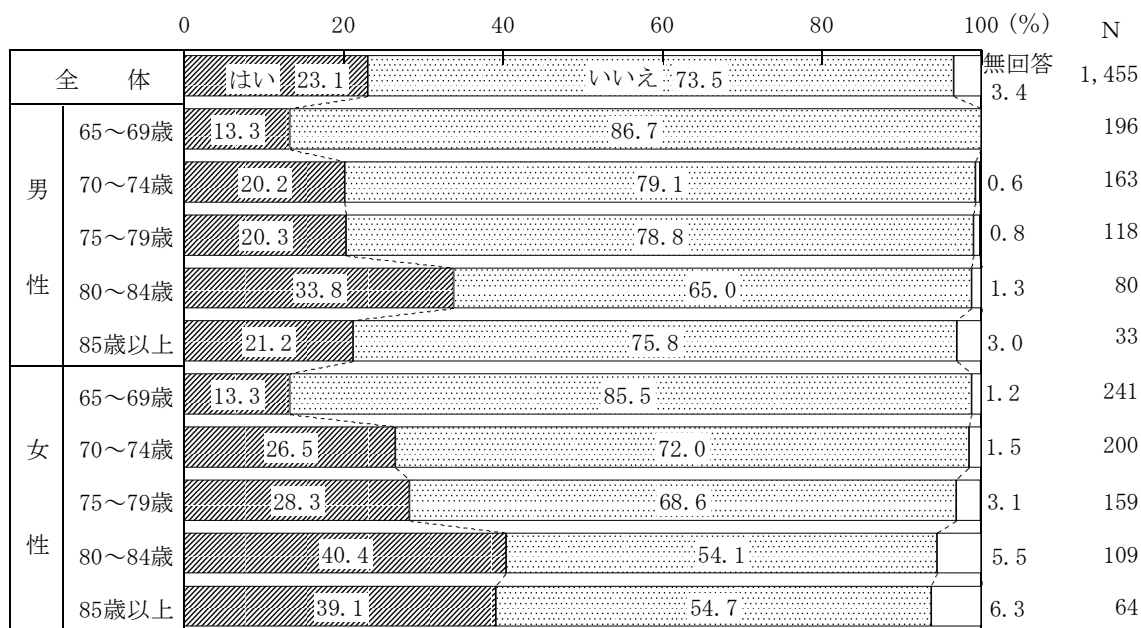
「その他」の移動手段として、「寝たきりのため出かけない」「乳母車を押して」という記入がありました。

## 4 転倒予防について

### (1) この1年間に転んだことがあるか

この1年間に転んだことがあるのは23.1%です。「はい」が高いのは、男女とも80～84歳です。

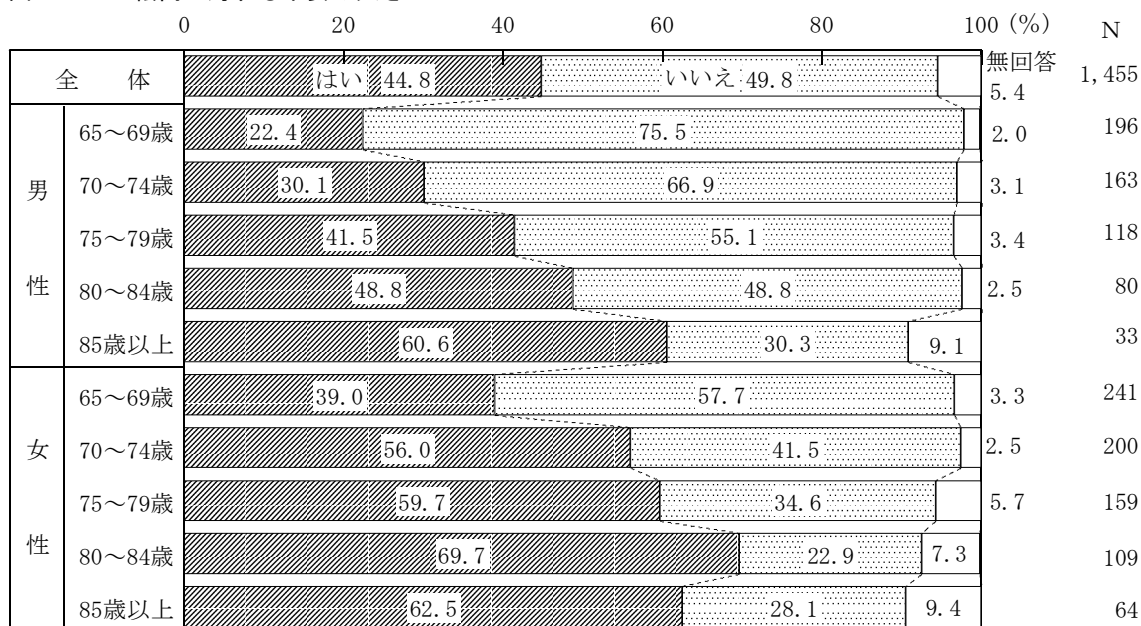
図2-26 この1年間に転んだことがあるか



### (2) 転倒に対する不安は大きいか

転倒に対する不安が大きいと答えているのは44.8%です。年齢が高くなるほど不安が大きい傾向がみられます。

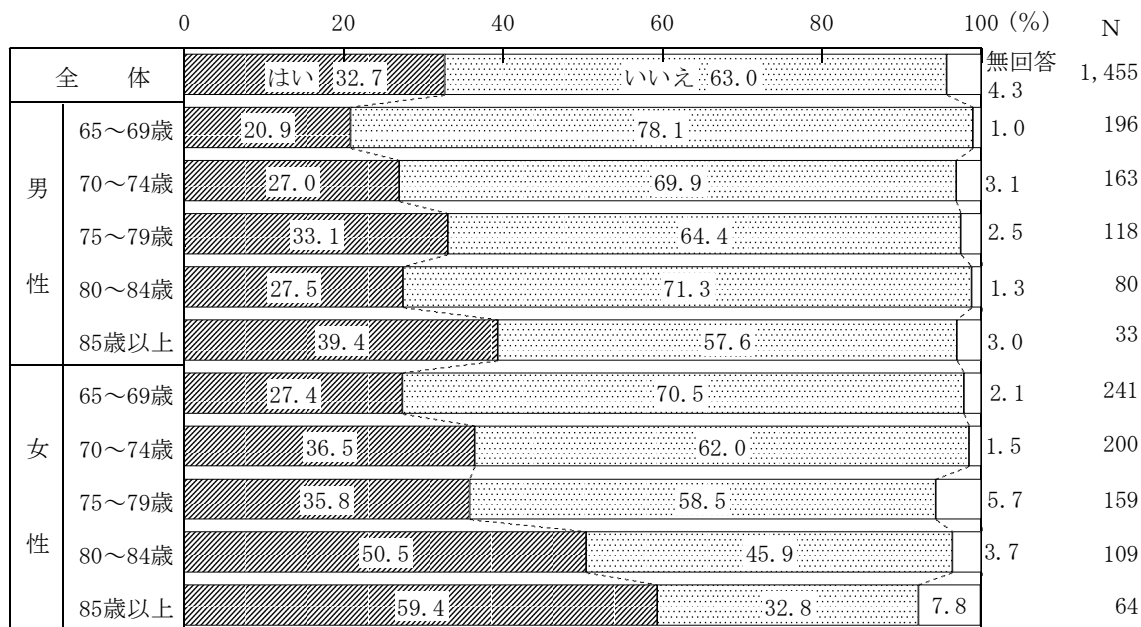
図2-27 転倒に対する不安は大きいか



(3) 背中が丸くなってきたか

背中が丸くなってきたと答えているのは32.7%です。年齢が高くなるほど背中が丸くなる傾向がみられます。

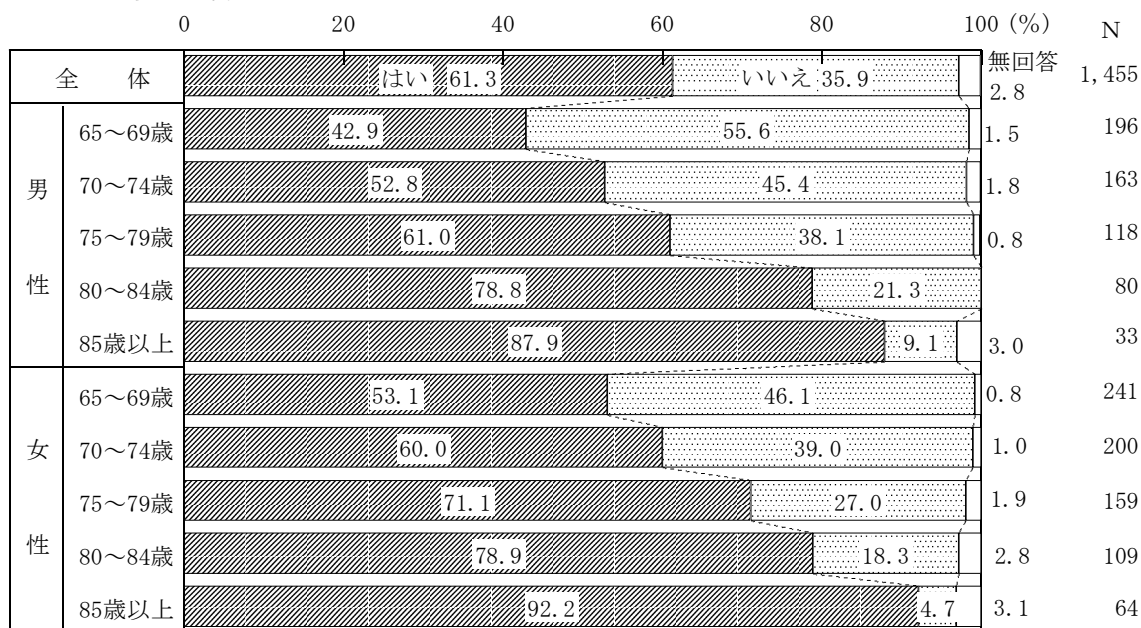
図2-28 背中が丸くなってきたか



(4) 歩く速度が遅くなってきたか

「以前に比べて歩く速度が遅くなってきたと思いますか」という設問に対しては、「はい」が61.3%と高い率です。「はい」は、男女とも高齢になるほど高くなっています。

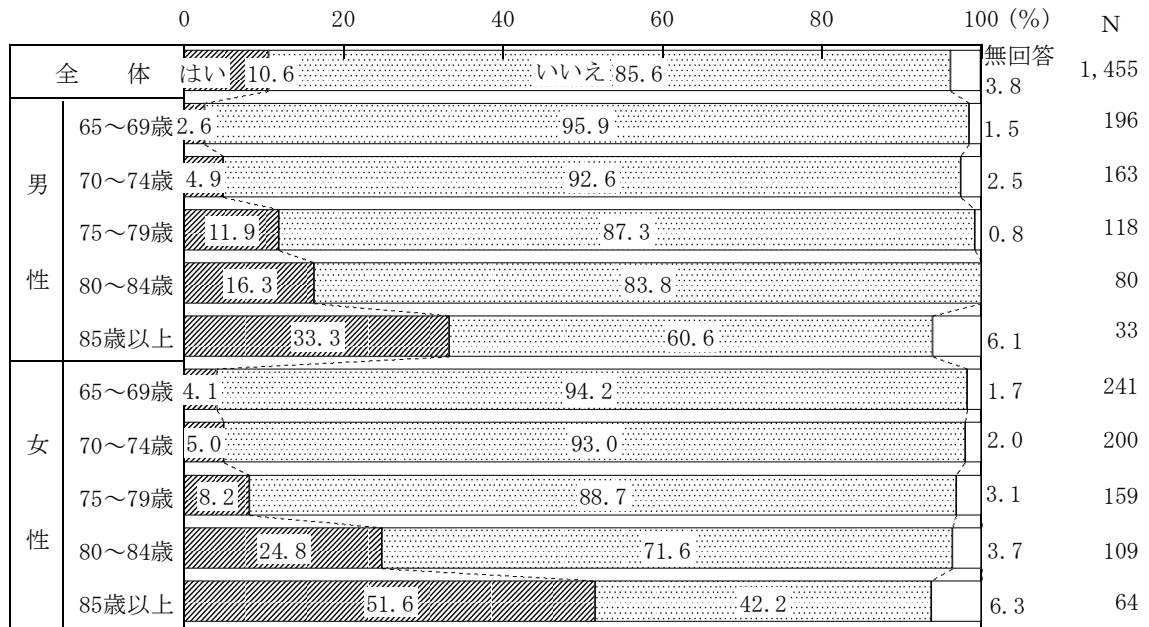
図2-29 歩く速度が遅くなってきたか



(5) 杖を使っているか

杖を使っているのは、全体の10.6%ですが、85歳以上は女性が51.6%、男性が33.3%と高い率となっています。

図2-30 杖を使っているか

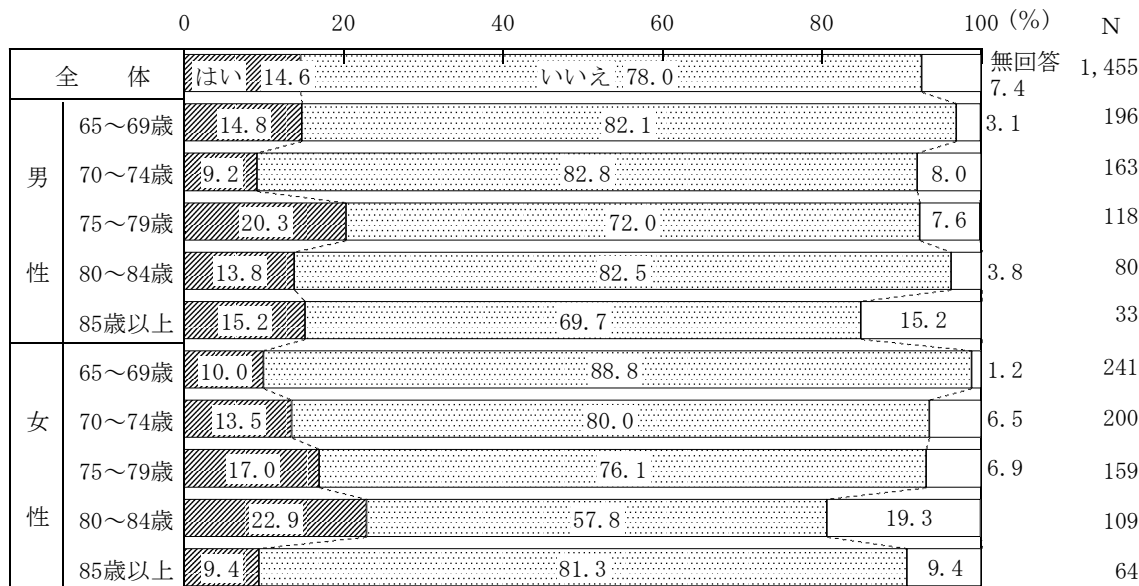


## 5 口腔・栄養について

### (1) 体重の減少があったか

「6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか」という設問に対して「はい」と答えたのは14.6%です。

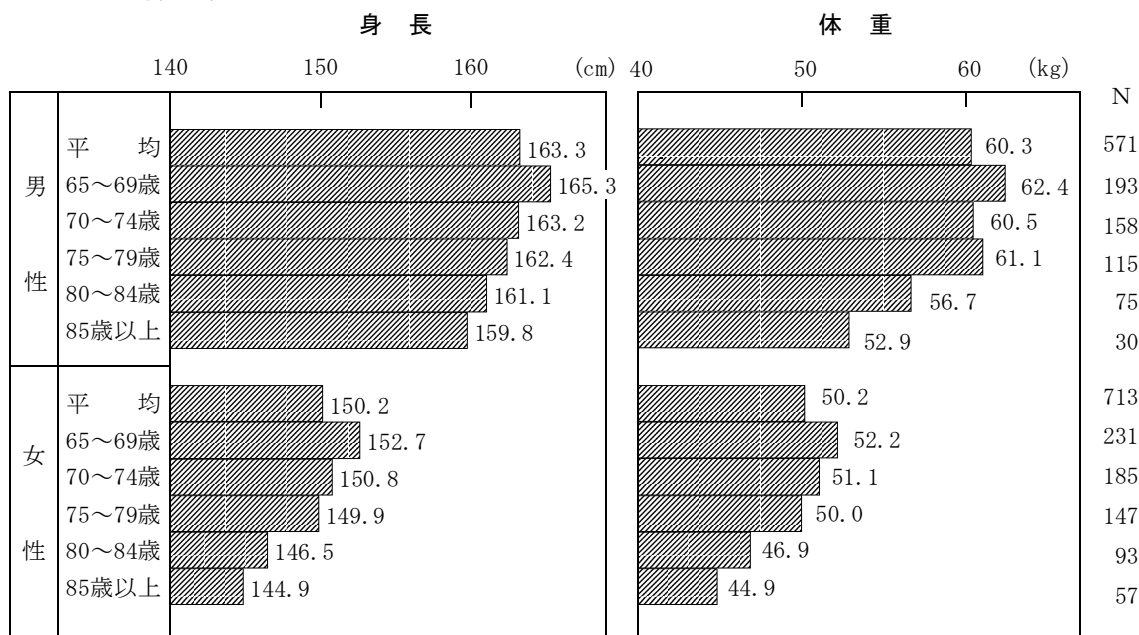
図2-31 6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか



### (2) 身長と体重

身長は平均が、男性が163.3cm、女性が150.2cm、体重の平均は、男性が60.3kg、女性が50.2kgです。身長は高齢になるほど低くなっており、体重も高齢になるほど低下する傾向が出ています。

図2-32 身長と体重





(3) BMI (肥満度指数)

調査対象者に身長と体重を聞いて、BMIを算出した結果が図2-33です。BMIとは、体重(kg)を身長(m)の2乗で割った値で、18.5未満が「やせ」、25.0以上が「肥満」とされます。「やせ」に該当するのは、男性が6.4%、女性が10.1%です。「肥満」に該当するのは、男性が17.8%、女性が19.3%です。「やせ」は、高齢になるほど上昇する傾向がみられ、「肥満」はその逆の傾向がみられます。

図2-34は、性別・年齢別のBMIの平均値です。各年齢層の平均値は、22前後の「標準」を示しています。

図2-33 BMI (肥満度指数)

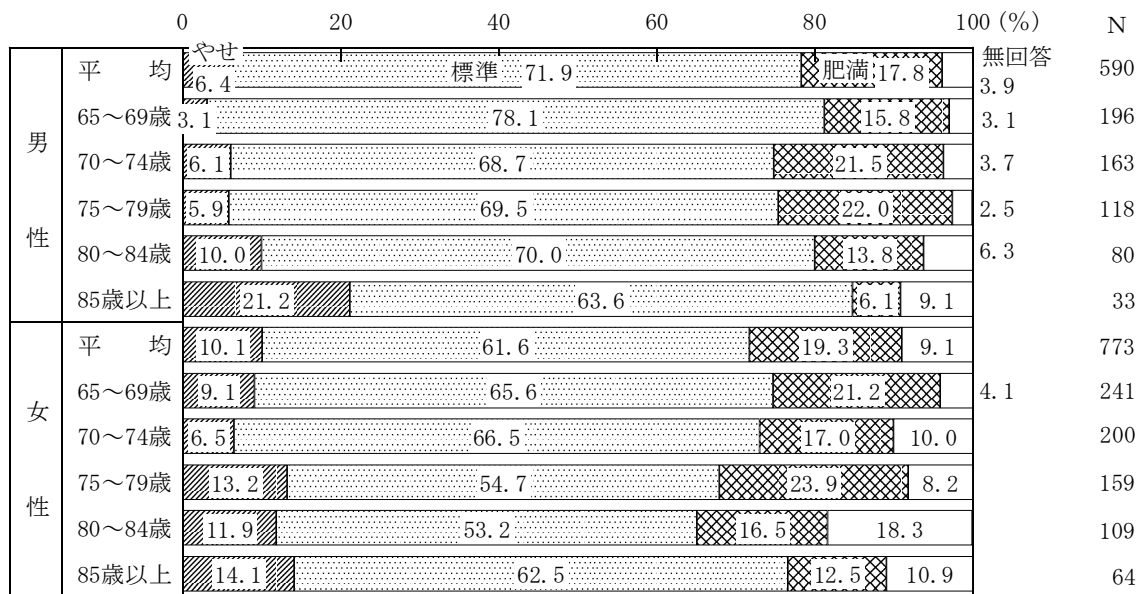
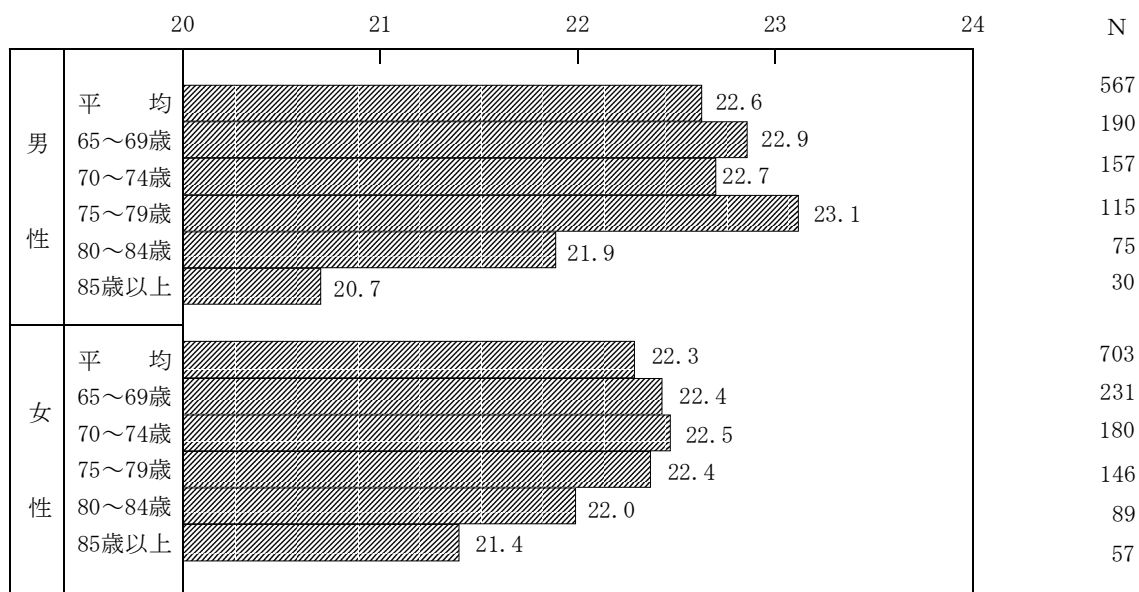


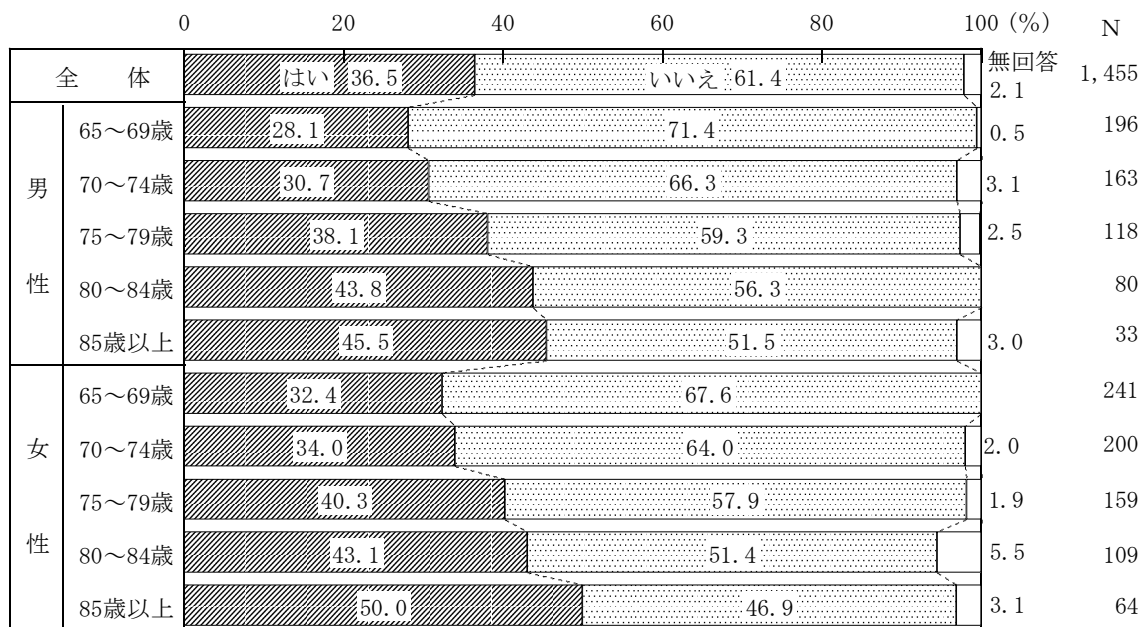
図2-34 BMIの平均値



(4) 固いものが食べにくくなったか

「半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか」という設問に対して、「はい」と答えた人は36.5%です。男女とも高年齢になるほど「はい」が高くなっています。

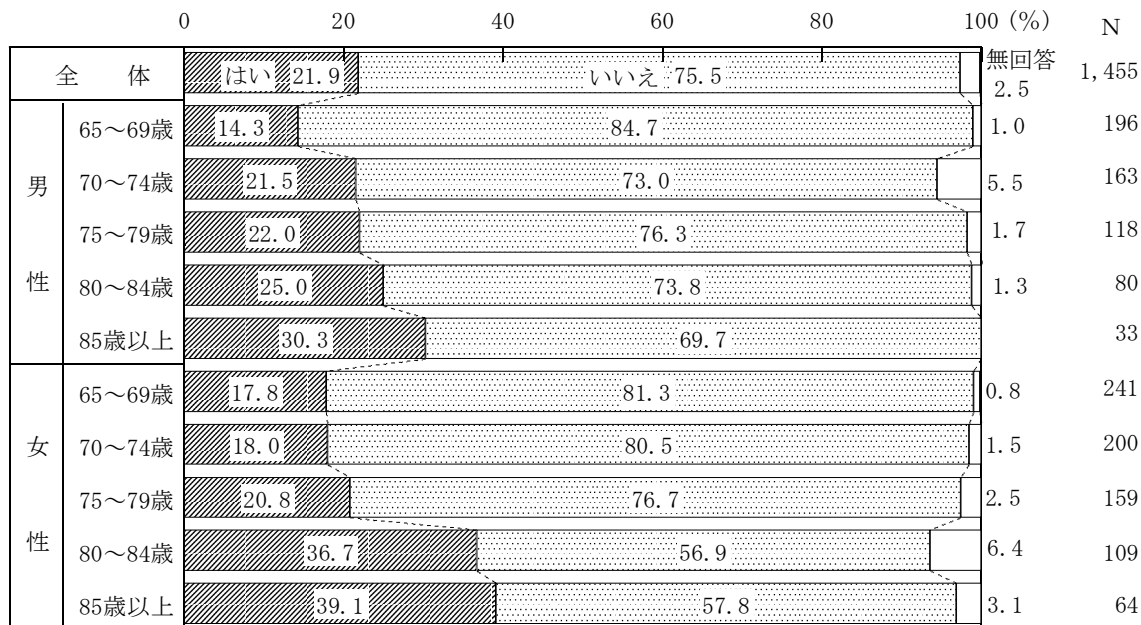
図2-35 固いものが食べにくくなったか



(5) お茶や汁物等でむせることがあるか

お茶や汁物等でむせることがある人は21.9%です。男女とも高年齢になるほど、むせる人が高くなっています。

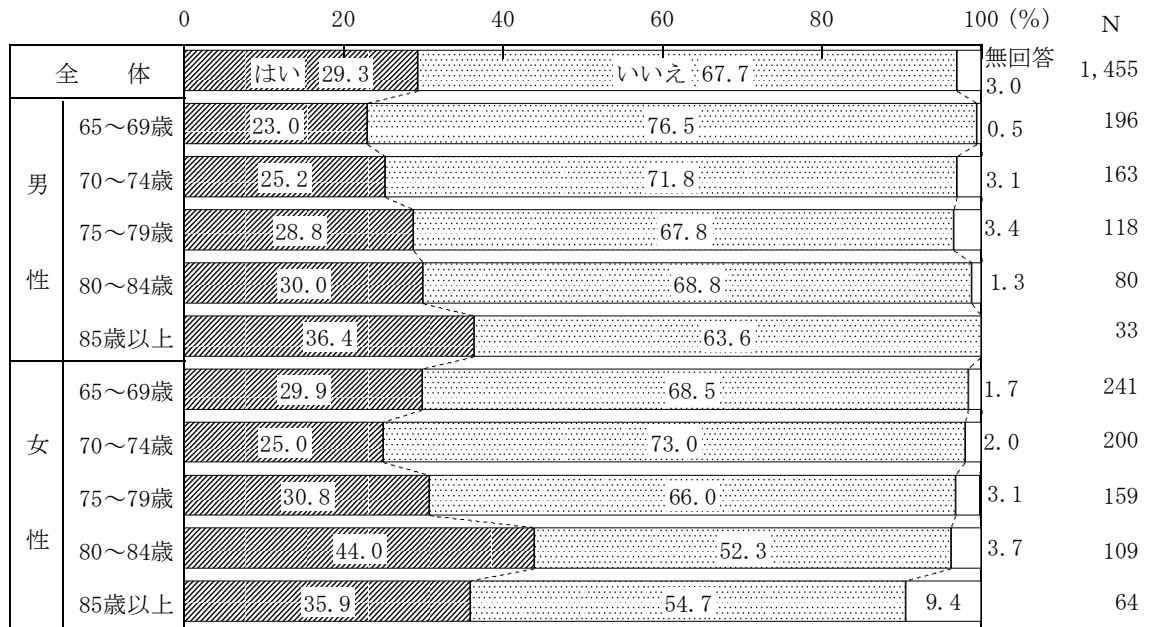
図2-36 お茶や汁物等でむせることがあるか



(6) 口の渇きが気になるか

口の渇きが気になると答えた人は29.3%です。男性は高齢になるほど口の渇きが気になる人が高くなっていますが、女性は80～84歳が最も高くなっています。

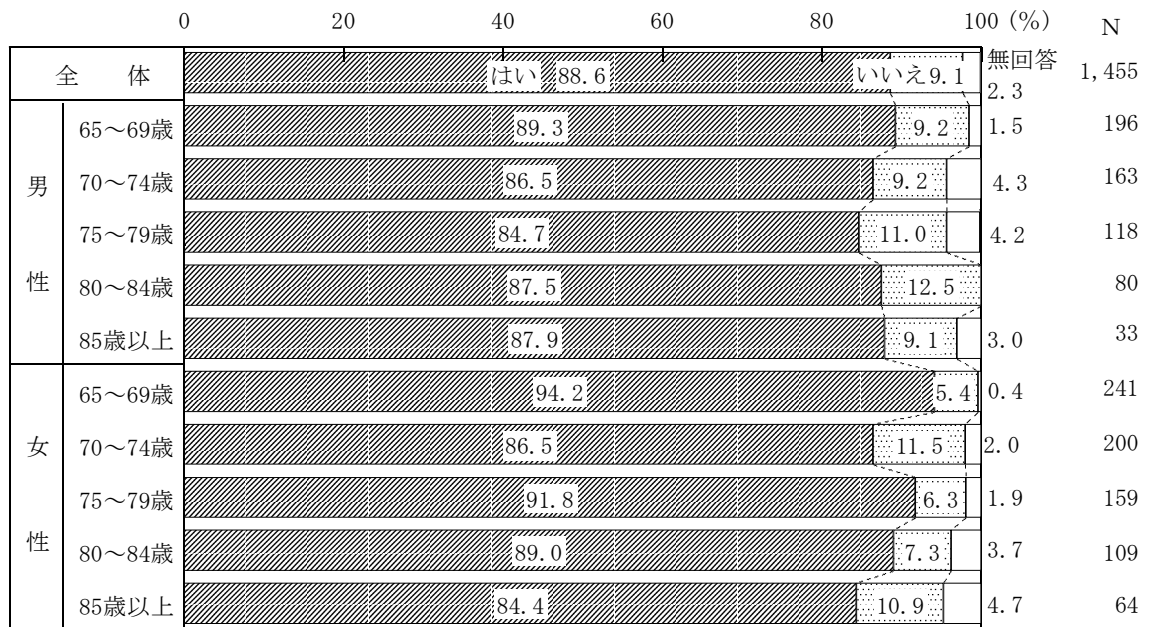
図2-37 口の渇きが気になるか



(7) 毎日歯磨きをしているか

「歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日していますか」という設問に対して、「いいえ」と答えた人が9.1%います。

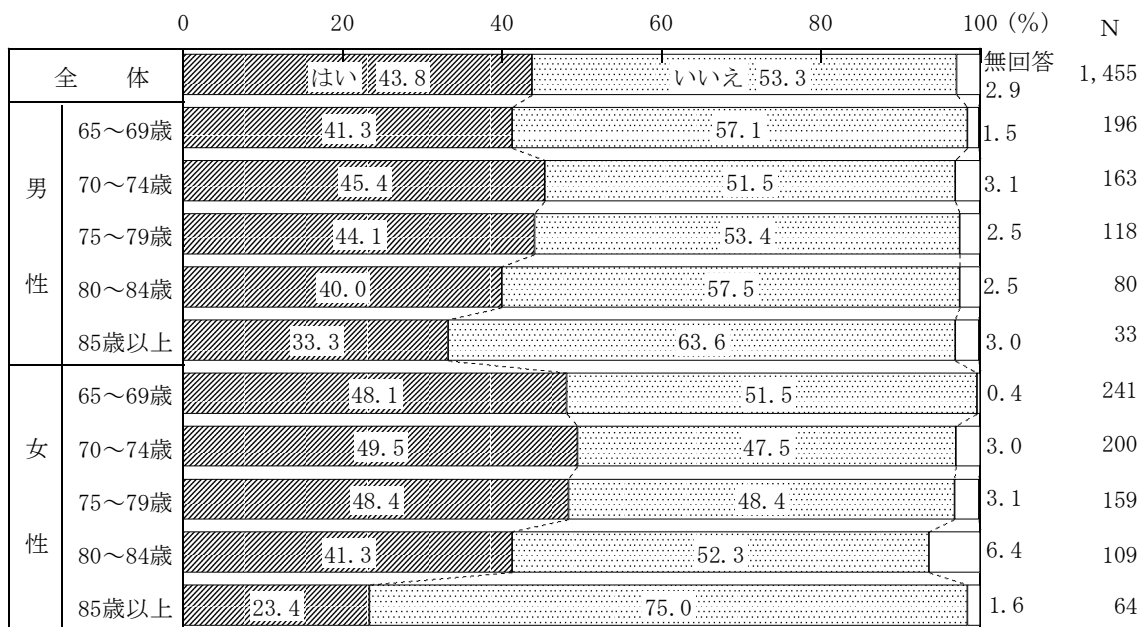
図2-38 歯磨き（人にやってもらう場合も含む）を毎日しているか



(8) 定期的に歯科受診をしているか

「定期的に歯科受診（健診を含む）をしていますか」という設問に「はい」と答えたのは43.8%です。「はい」は、男女とも70～74歳をピークとしています。

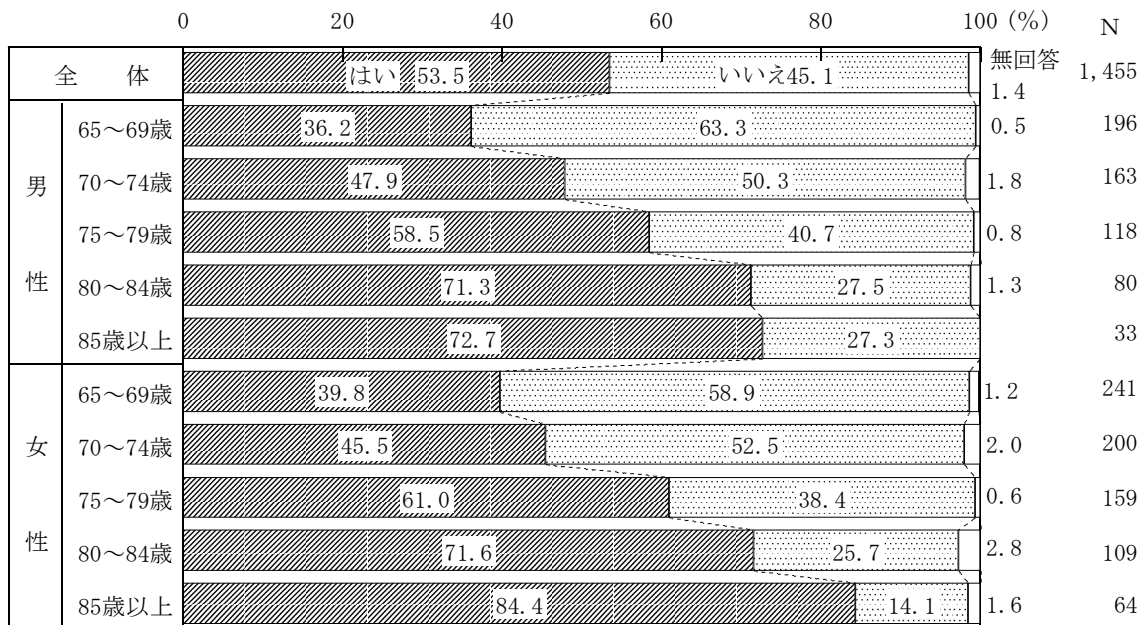
図2-39 定期的に歯科受診（健診を含む）をしているか



(9) 入れ歯を使用しているか

入れ歯を使用している人は53.5%です。男女とも高齢になるほど高く、85歳以上では男性の72.7%、女性の84.4%が入れ歯をしていると答えています。

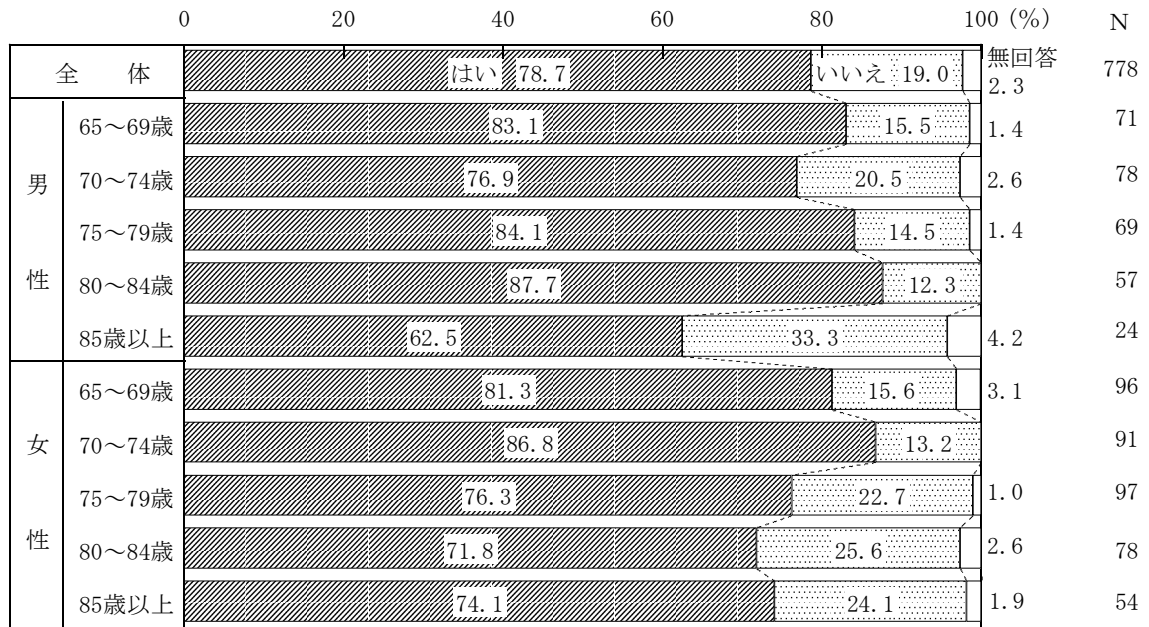
図2-40 入れ歯を使用しているか



(10) 入れ歯の噛み合わせは良いか

入れ歯を使用している人に、入れ歯の噛み合わせは良いかを聞いたところ、「はい」が78.7%、「いいえ」が19.0%でした。

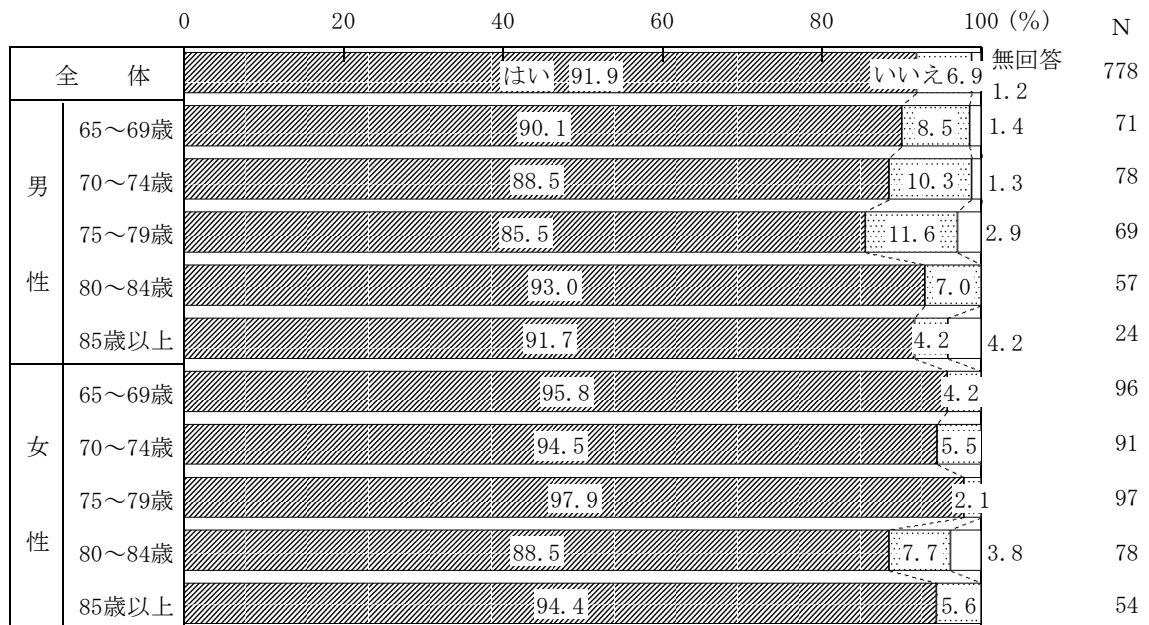
図2-41 入れ歯の噛み合わせは良いか



(11) 毎日入れ歯の手入れをしているか

入れ歯を使用している人に、毎日入れ歯の手入れをしているかを聞いたところ、「はい」が91.9%、「いいえ」が6.9%でした。

図2-42 毎日入れ歯の手入れをしているか

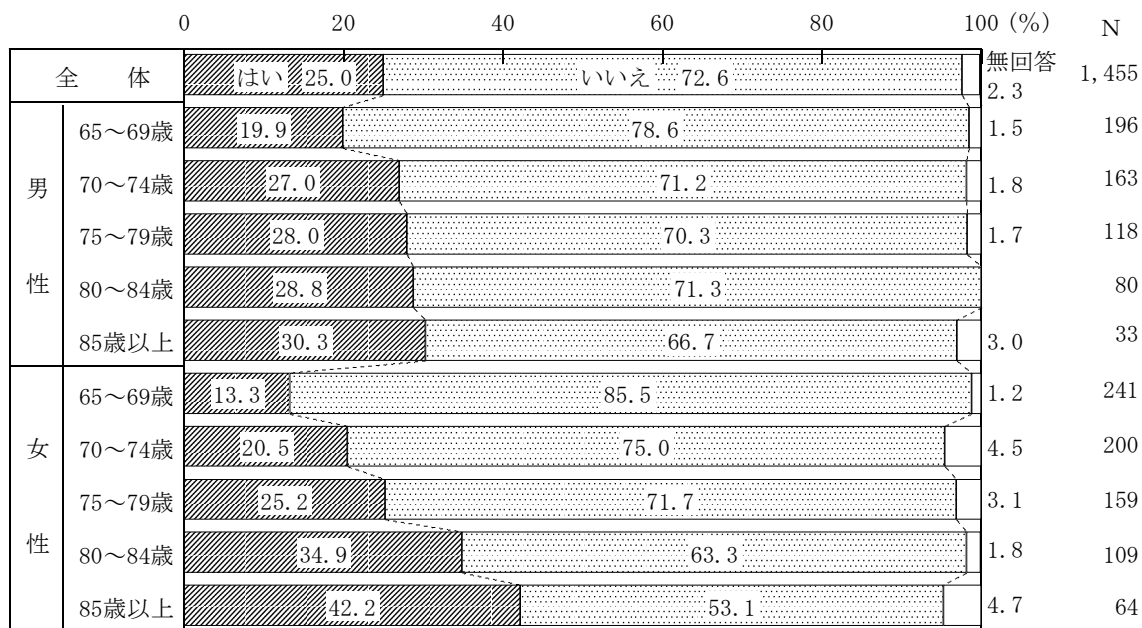


## 6 物忘れについて

### (1) 周りの人から物忘れがあるとと言われるか

「周りの人から『いつも同じ事を聞く』などの物忘れがあるとされますか」という設問に対する「はい」は25.0%です。男女とも高齢になるほど「はい」が高くなっています。

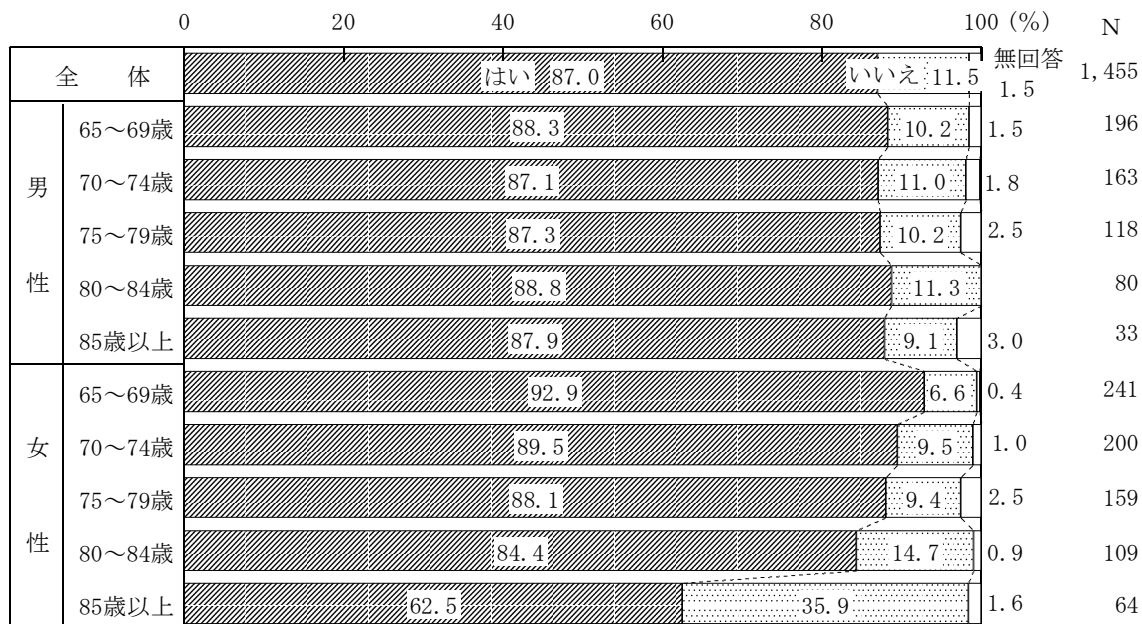
図2-43 周りの人から物忘れがあるとと言われるか



### (2) 電話番号を調べて電話をかけられるか

電話番号を調べて電話をかけられる人は87.0%です。「いいえ」は、女性の85歳以上が高くなっています。

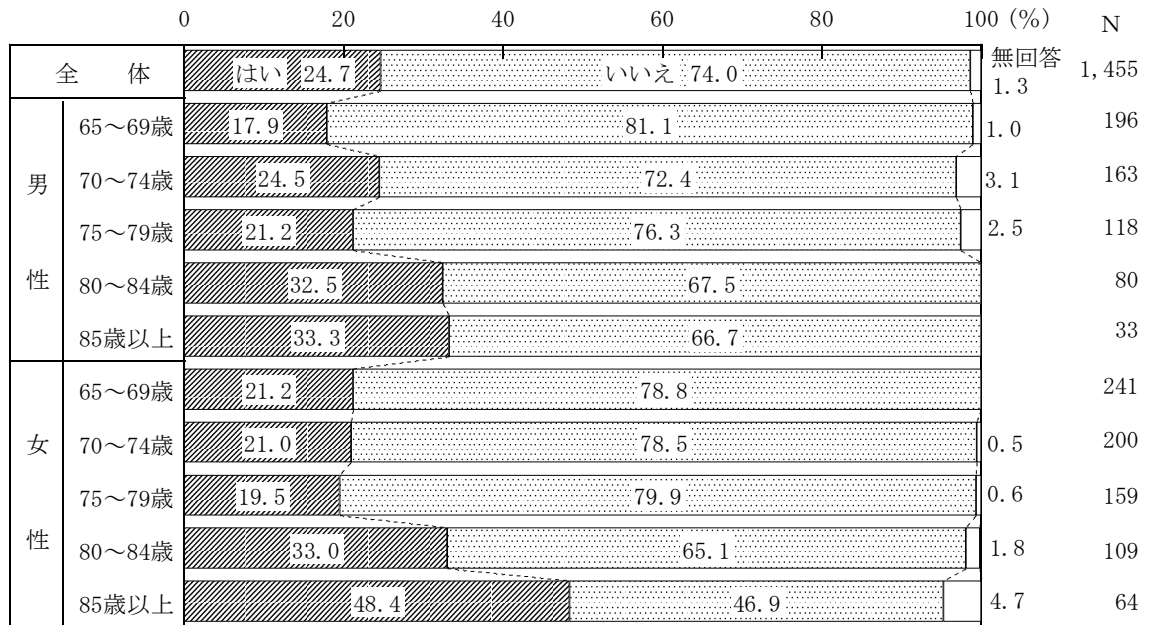
図2-44 電話番号を調べて電話をかけられるか



(3) 今日が何月何日かわからない時があるか

今日が何月何日かわからない時があると答えているのは24.7%です。わからない率は、男女とも高齢になるほど高くなる傾向がみられます。

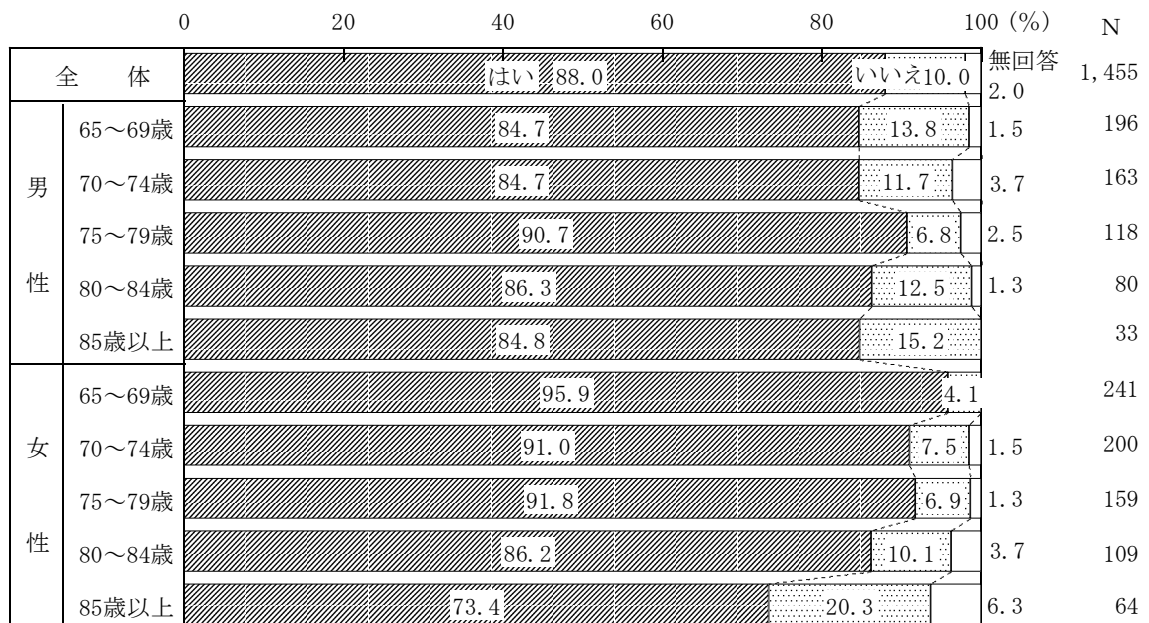
図2-45 今日が何月何日かわからない時があるか



(4) 5分前のことが思い出せるか

5分前のことが思い出せないと答えているのは10.0%です。思い出せない率は、女性が高齢になるほど高くなる傾向がみられますが、男性にはそのような傾向はみられません。

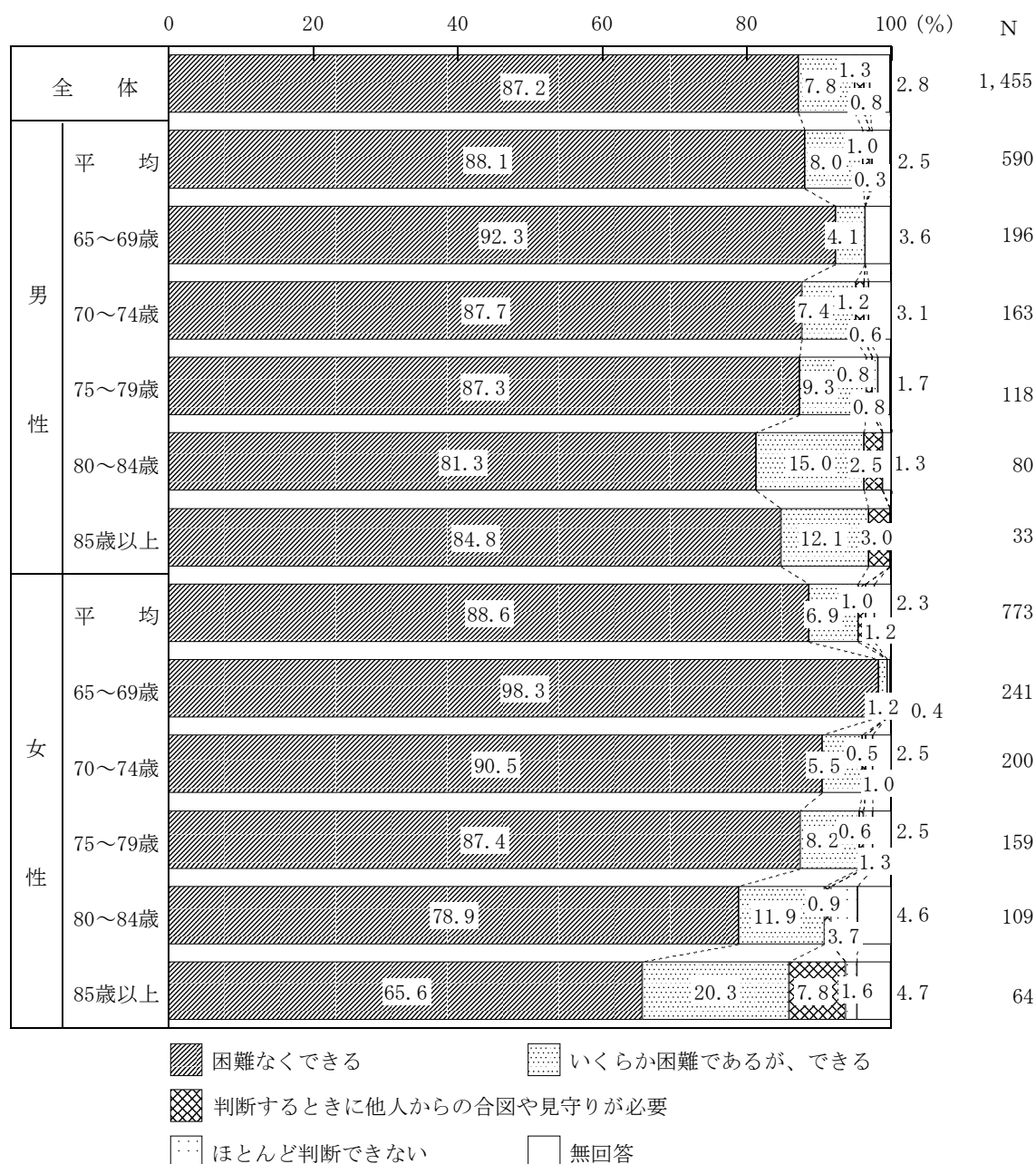
図2-46 5分前のことが思い出せるか



(5) その日の活動を自分で判断できるか

「その日の活動（食事をする、衣服を選ぶなど）を自分で判断できますか」という設問に対しては、「困難なくできる」が87.2%ありますが、「ほとんど判断できない」が0.8%（12人）および「判断するときに他人からの合図や見守りが必要」が1.3%（19人）います。「困難なくできる」は、男性が88.1%、女性が88.6%とほぼ同率です。「困難なくできる」を年齢階層別にみると、男性は80～84歳が最も低くなっており、女性は高齢になるほど低くなっています。

図2-47 その日の活動を自分で判断できるか

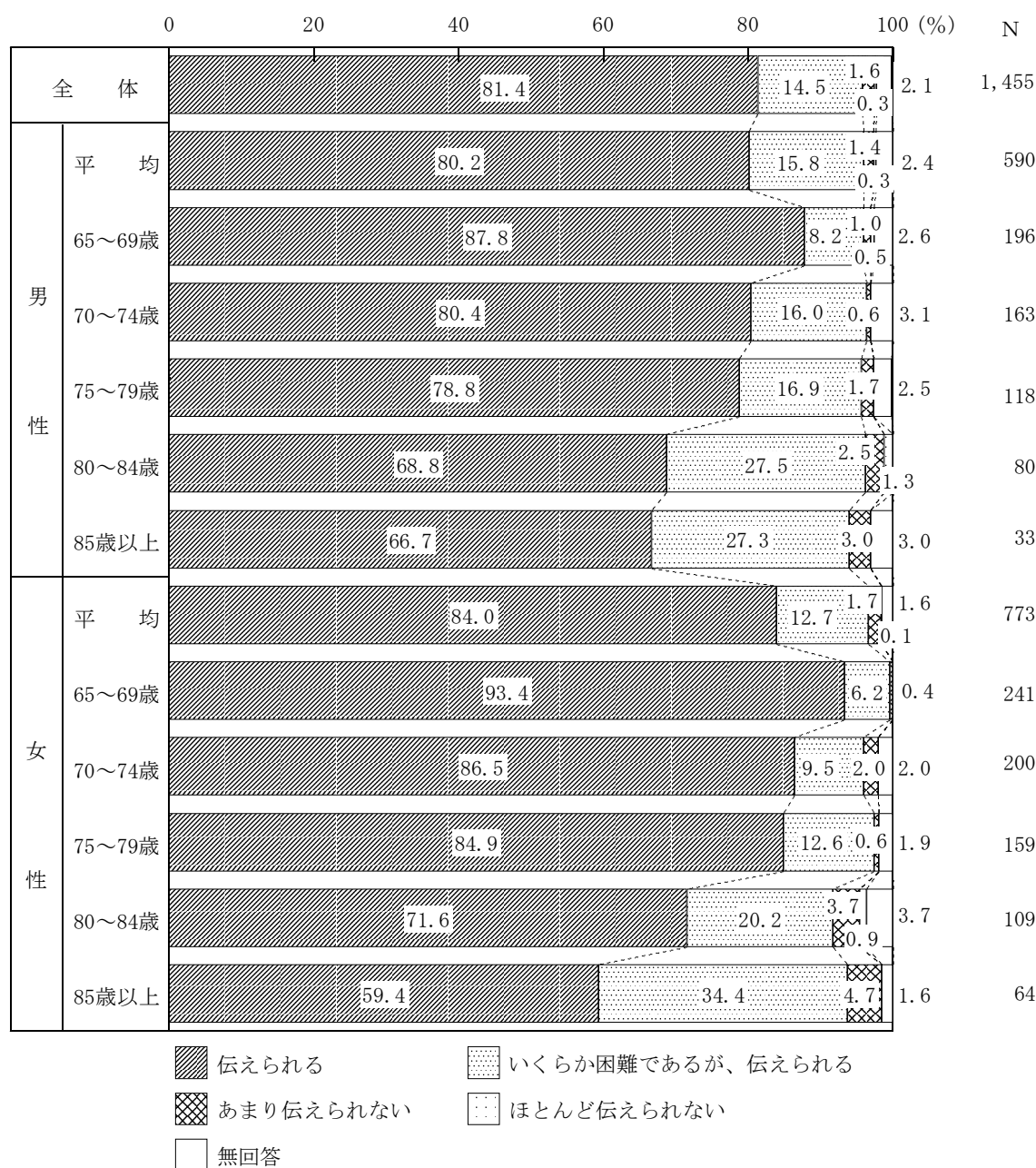




(6) 自分の考えをうまく伝えられるか

「人に自分の考えをうまく伝えられますか」という設問については、「伝えられる」が81.4%、「いくらか困難であるが、伝えられる」が14.5%ですが、「あまり伝えられない」が1.6% (24人)、「ほとんど伝えられない」が0.3% (5人) あります。「伝えられる」と「いくらか困難であるが、伝えられる」の合計は、男性が96.0%、女性が96.7%とほぼ同率です。「伝えられる」は、男女とも高齢になるほど低くなっています。

図2-48 自分の考えをうまく伝えられるか

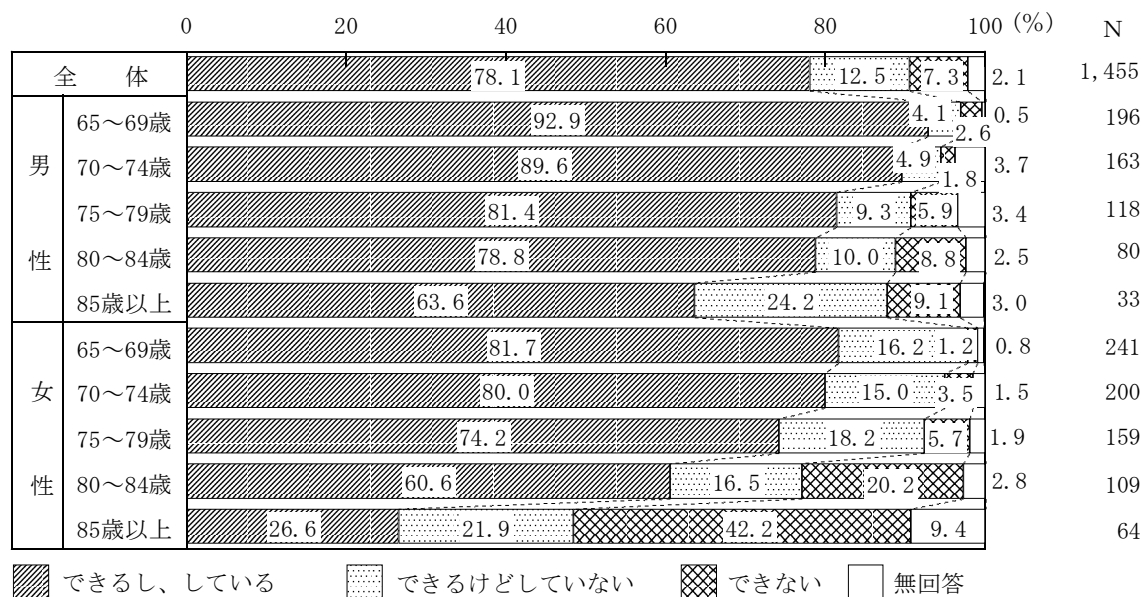


## 7 日常生活について

### (1) 一人で外出しているか

「バスや電車で一人で外出していますか（自家用車でも可）」という設問に「できない」と答えたのは7.3%です。「できない」は高齢になるほど高く、女性の85歳以上では42.2%となっています。

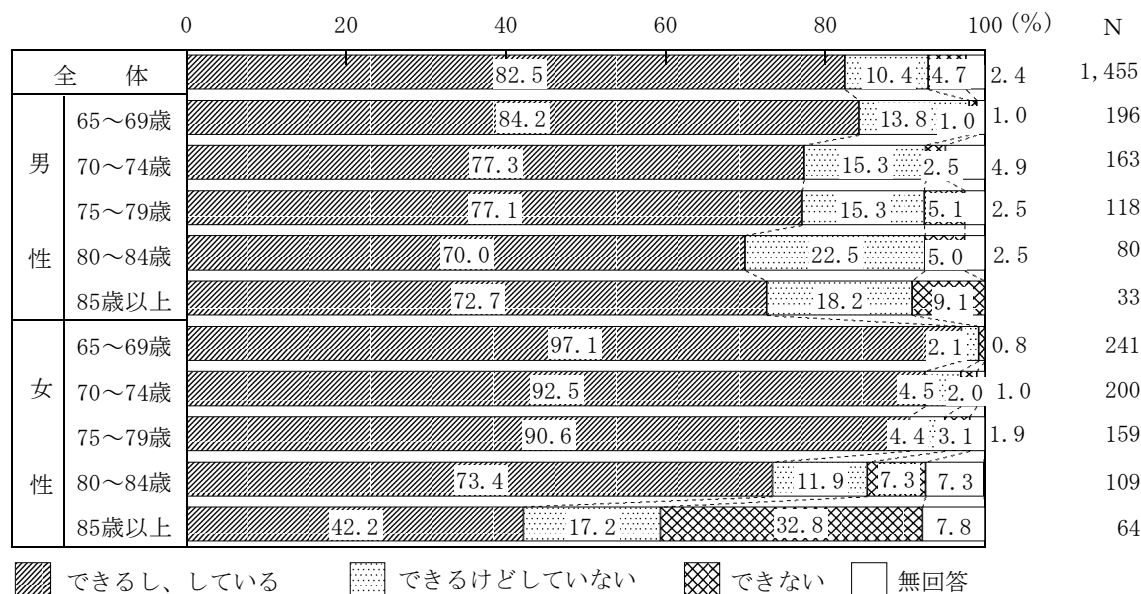
図2-49 一人で外出しているか



### (2) 日用品の買物をしているか

日用品の買物は、「できるし、している」(82.5%)と「できるけどしていない」(10.4%)を合計すると92.9%になります。「できない」は、男女とも高齢になるほど高くなる傾向がみられます。

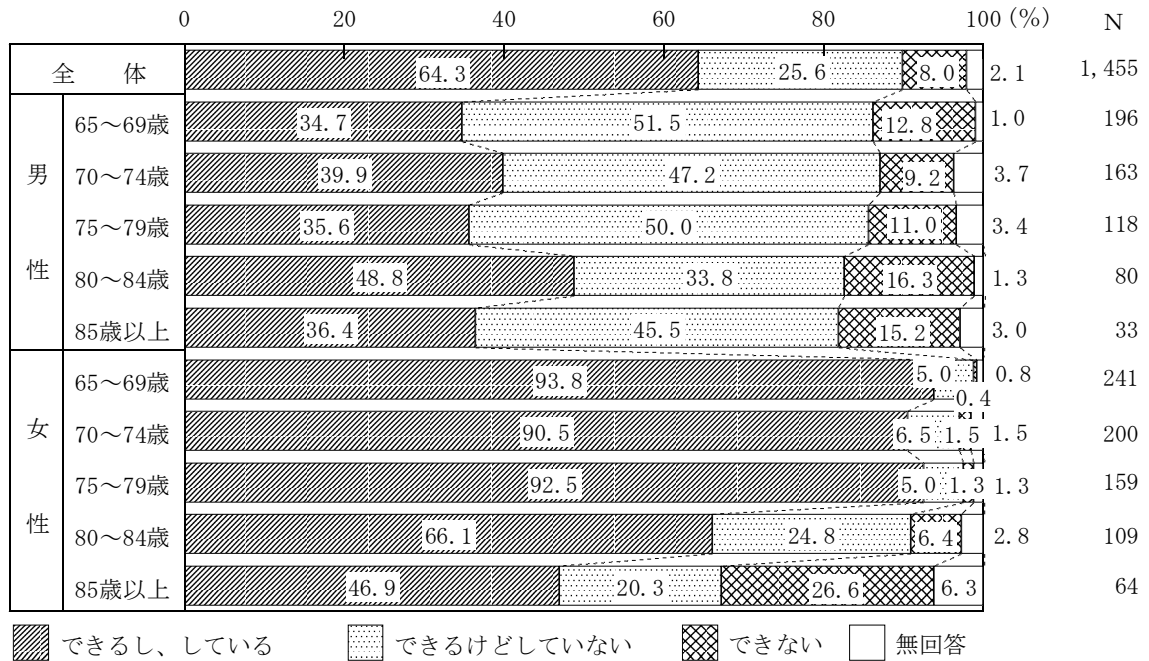
図2-50 日用品の買物をしているか



(3) 食事の用意をしているか

自分で食事の用意が「できない」と答えているのは8.0%です。「できない」は、女性より男性が高くなっています。

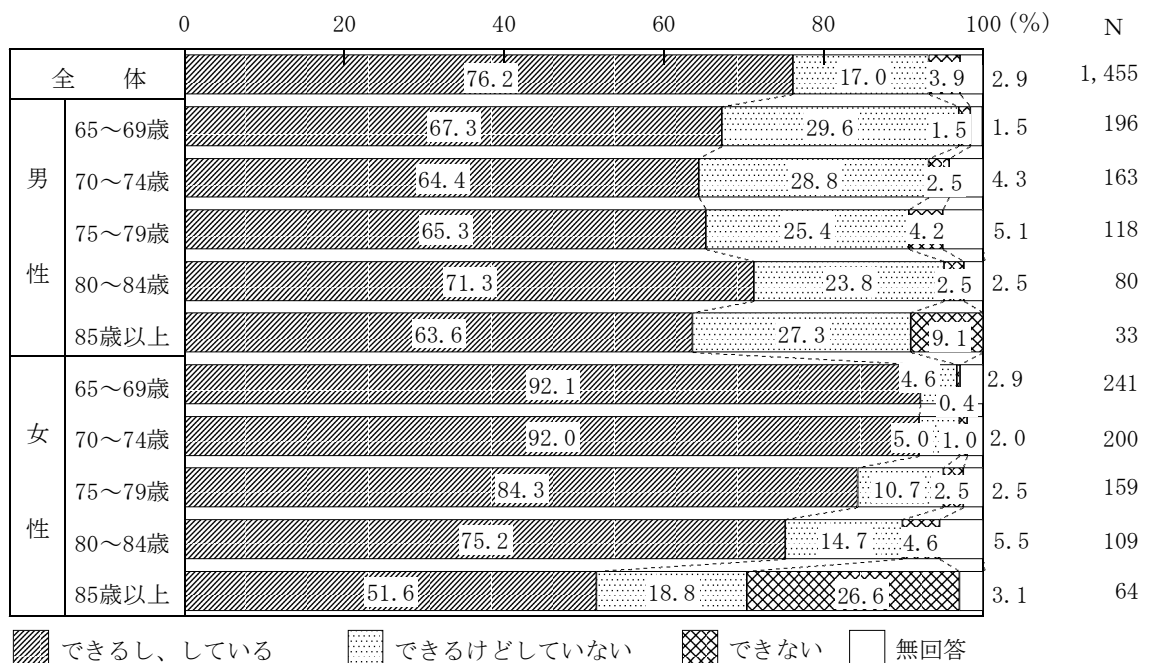
図2-51 食事の用意をしているか



(4) 請求書の支払いをしているか

請求書の支払いが「できない」と答えているのは3.9%です。「できない」は高齢になるほど高くなっています。

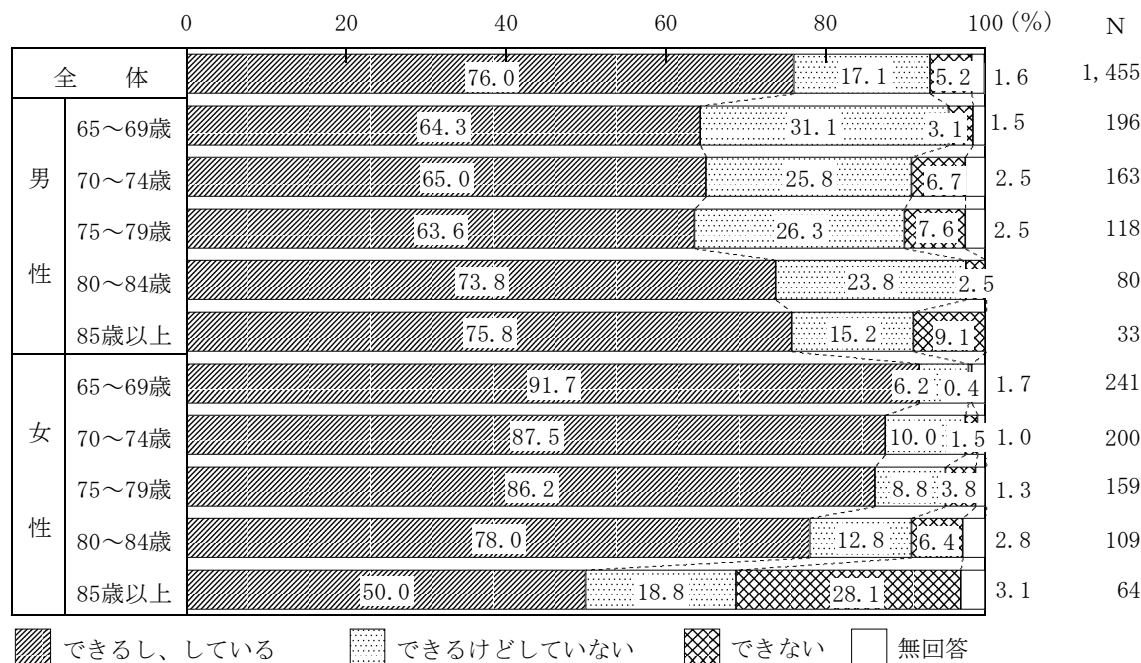
図2-52 請求書の支払いをしているか



(5) 預貯金の出し入れをしているか

預貯金の出し入れが「できない」のは5.2%です。女性の85歳以上は、「できない」が28.1%もあります。

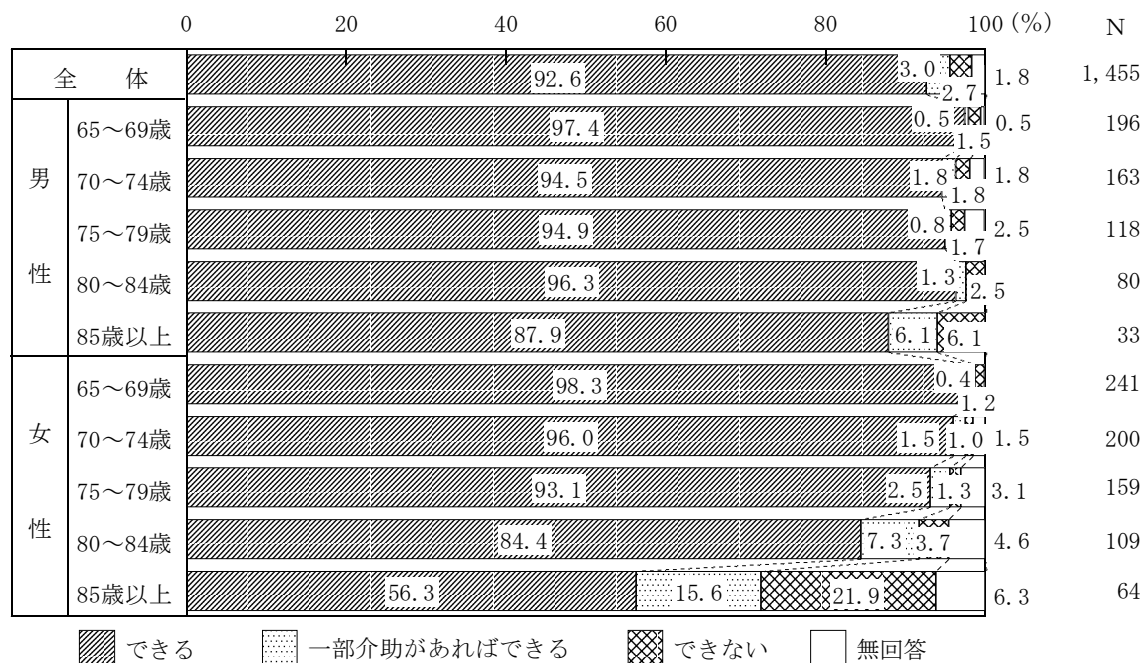
図2-53 預貯金の出し入れをしているか



(6) 50m以上歩けるか

50m以上歩くことが「できない」のは、全体で2.7%しかいませんが、女性の85歳以上は21.9%います。

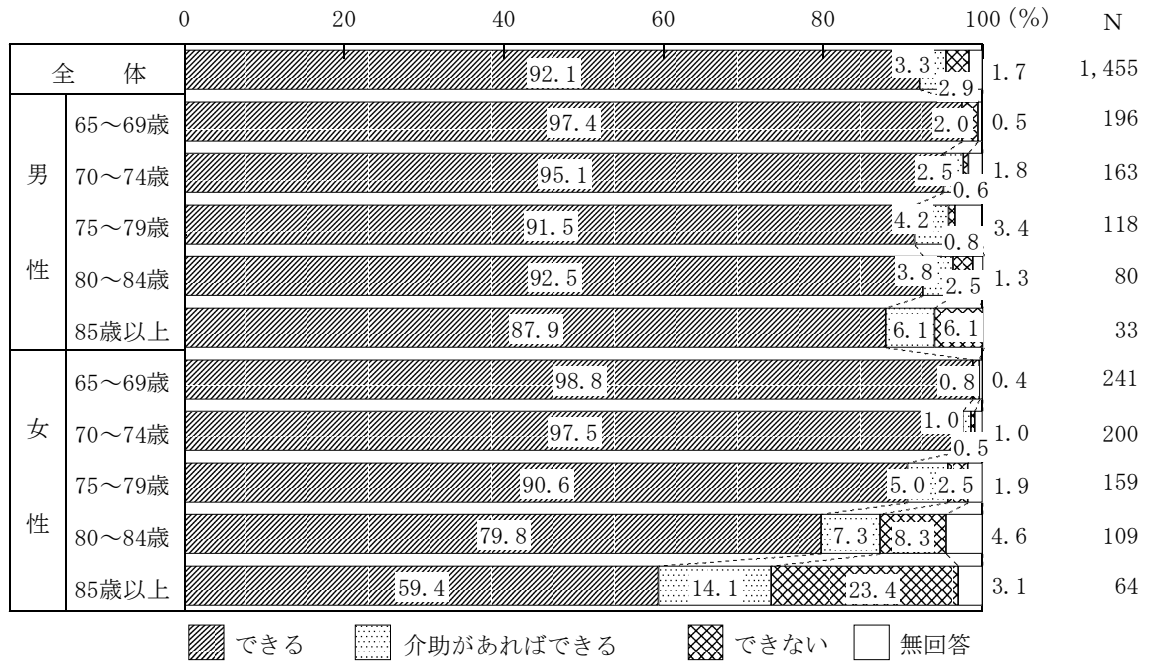
図2-54 50m以上歩けるか



(7) 階段を昇り降りできるか

階段の昇り降りは、「できる」が92.1%、「介助があればできる」が3.3%、「できない」が2.9%です。「できる」は、男女とも高齢になるほど低くなる傾向がみられます。

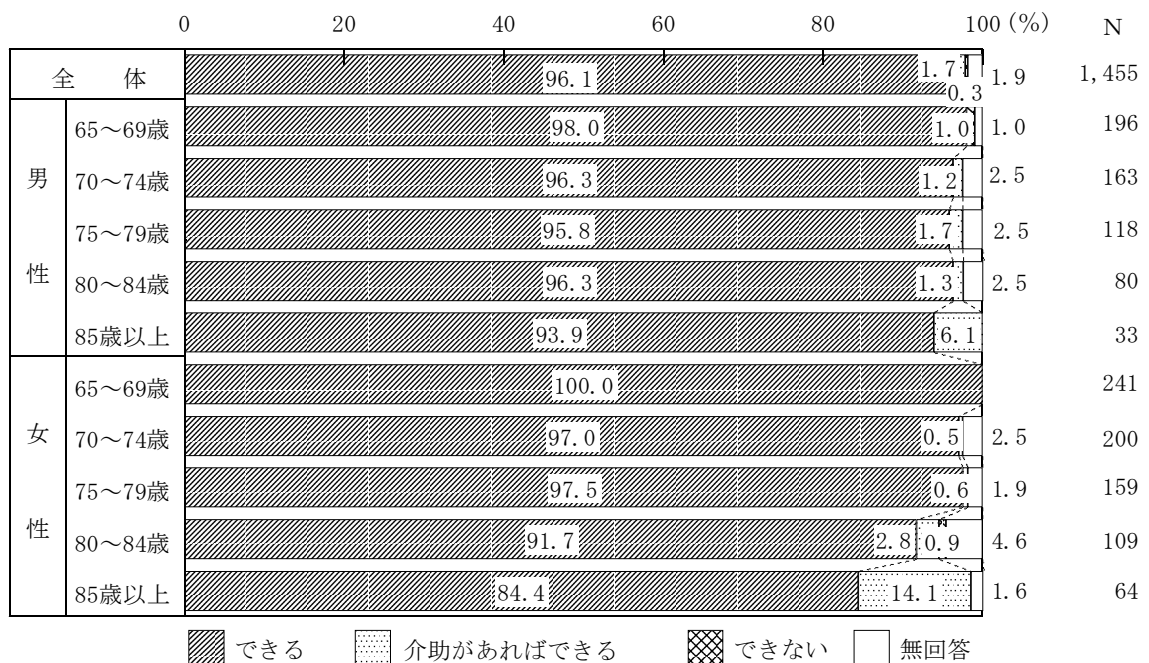
図2-55 階段を昇り降りできるか



(8) 着替えができるか

自分で着替えが「できる」と答えているのは96.1%、「できない」は0.3%（4人）です。

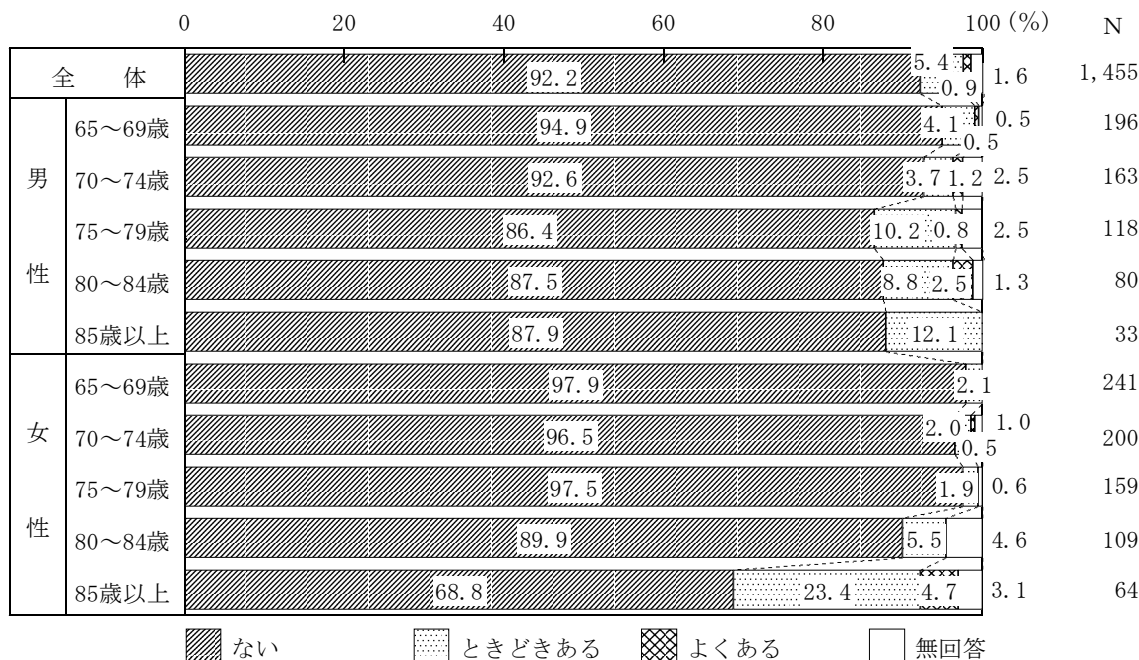
図2-56 自分で着替えができるか



(9) 大便の失敗があるか

大便の失敗は、「ときどきある」が5.4%、「よくある」が0.9%です。85歳以上の女性の「ときどきある」と「よくある」の合計は28.1%と高い率です。

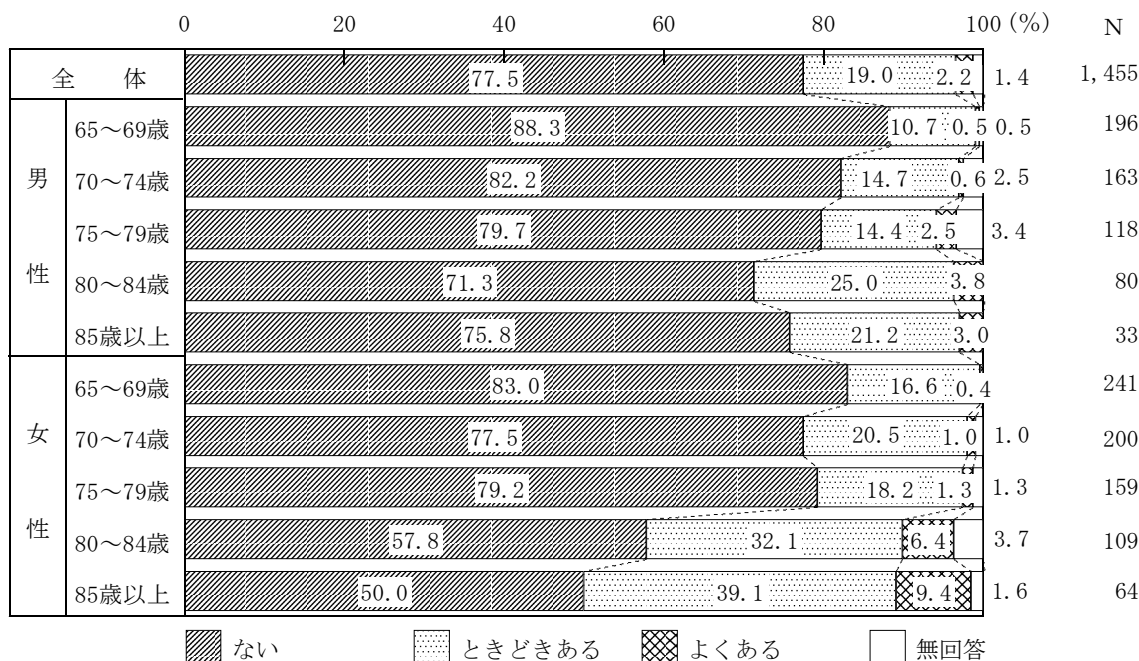
図2-57 大便の失敗があるか



(10) 尿もれや尿失禁があるか

尿もれや尿失禁は、「ときどきある」(19.0%)と「よくある」(2.2%)の合計が21.2%になります。男性より女性の「ときどきある」が高くなっています。

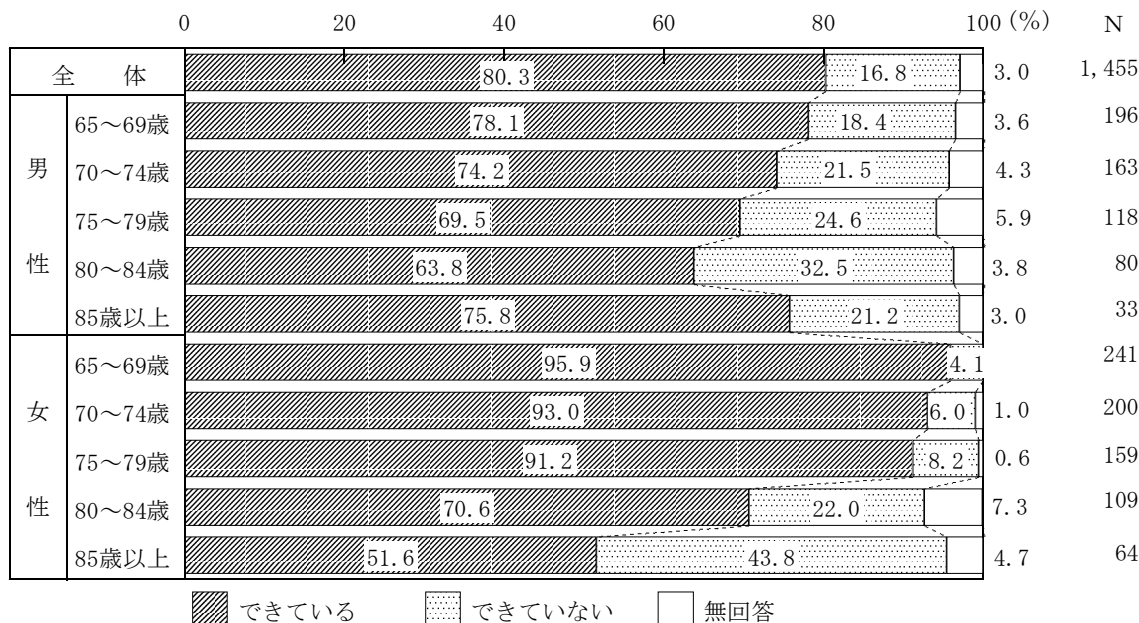
図2-58 尿もれや尿失禁があるか



(11) 家事全般ができていますか

家事全般については、男性の「できていない」が高くなっています。これは家事をしていない男性が「できていない」を選択したためと考えます。

図2-59 家事全般ができていますか

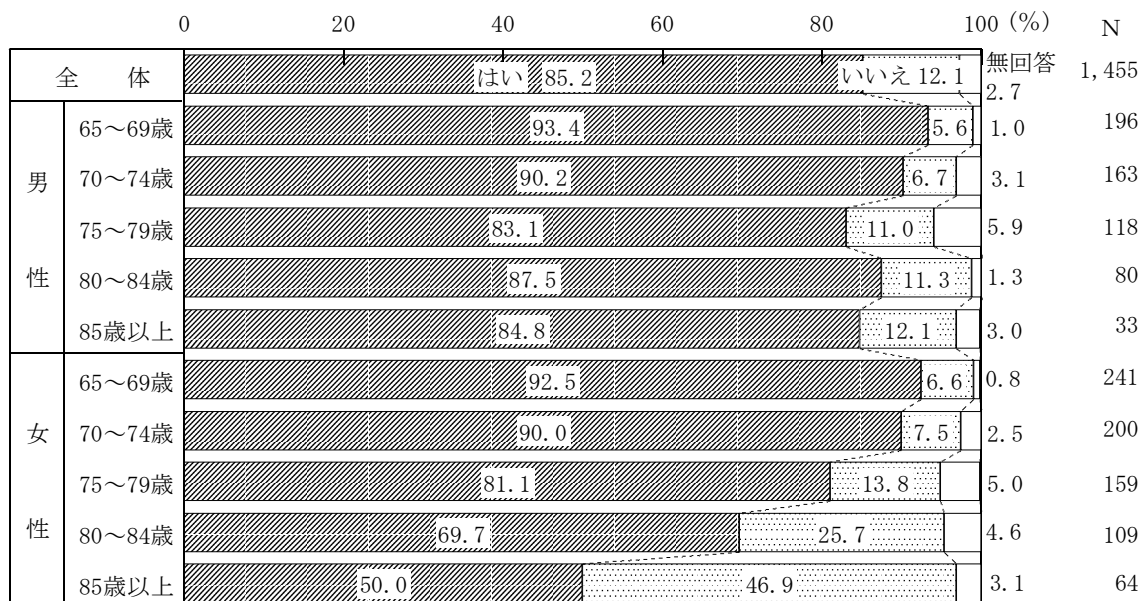


8 社会参加について

(1) 年金などの書類が書けるか

「年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか」という設問に対しては、「いいえ」が12.1%です。男女とも高齢になるほど「いいえ」の率が高く、女性の85歳以上は46.9%が「いいえ」です。

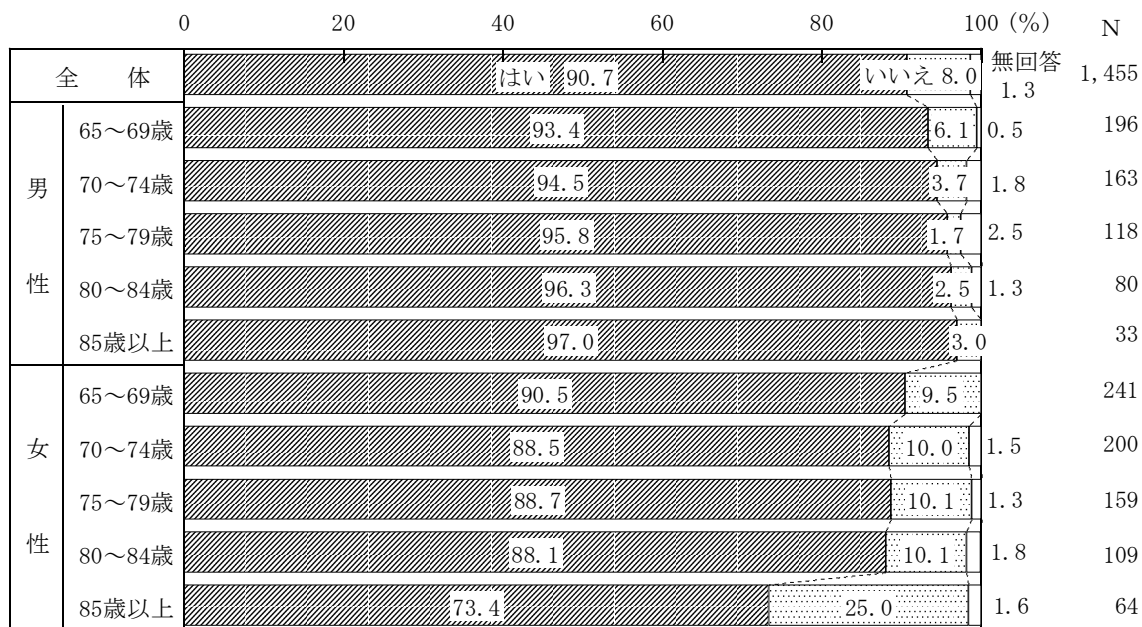
図2-60 年金などの書類が書けるか



(2) 新聞を読んでいるか

新聞は90.7%が読んでいます。読んでいる率は、女性より男性が高くなっており、男性は高齢になるほど高く、女性は高齢になるほど低くなる傾向がみられます。

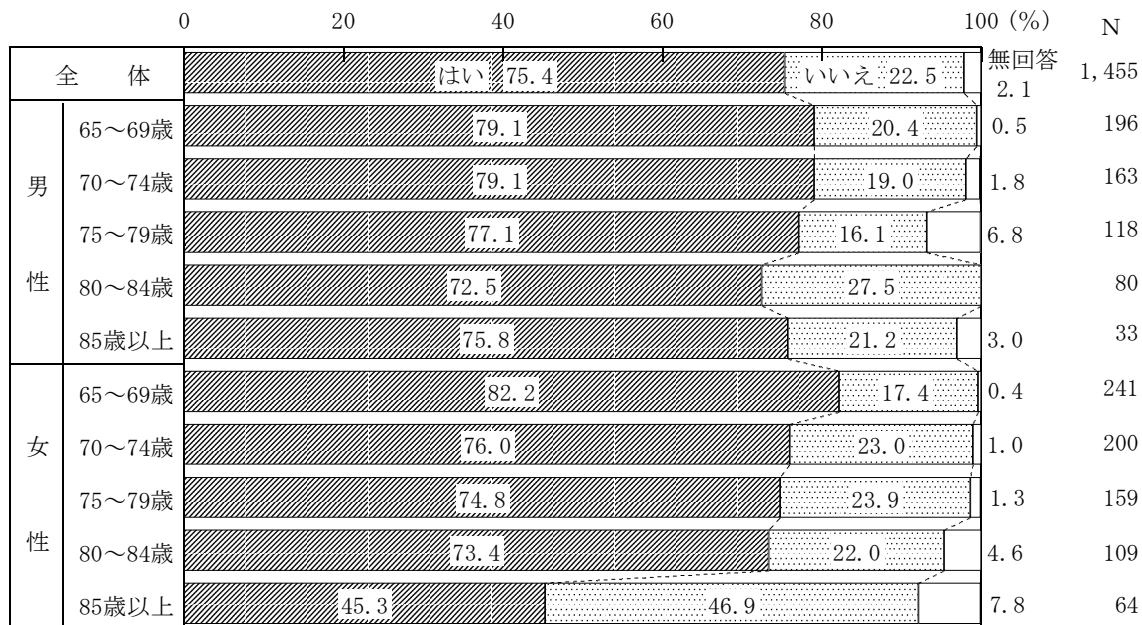
図2-61 新聞を読んでいるか



(3) 本や雑誌を読んでいるか

本や雑誌は75.4%が読んでいます。女性の読んでいる率は、年齢が高くなるに連れ低下しており、65～69歳で82.2%だったのが85歳以上では45.3%になっています。

図2-62 本や雑誌を読んでいるか

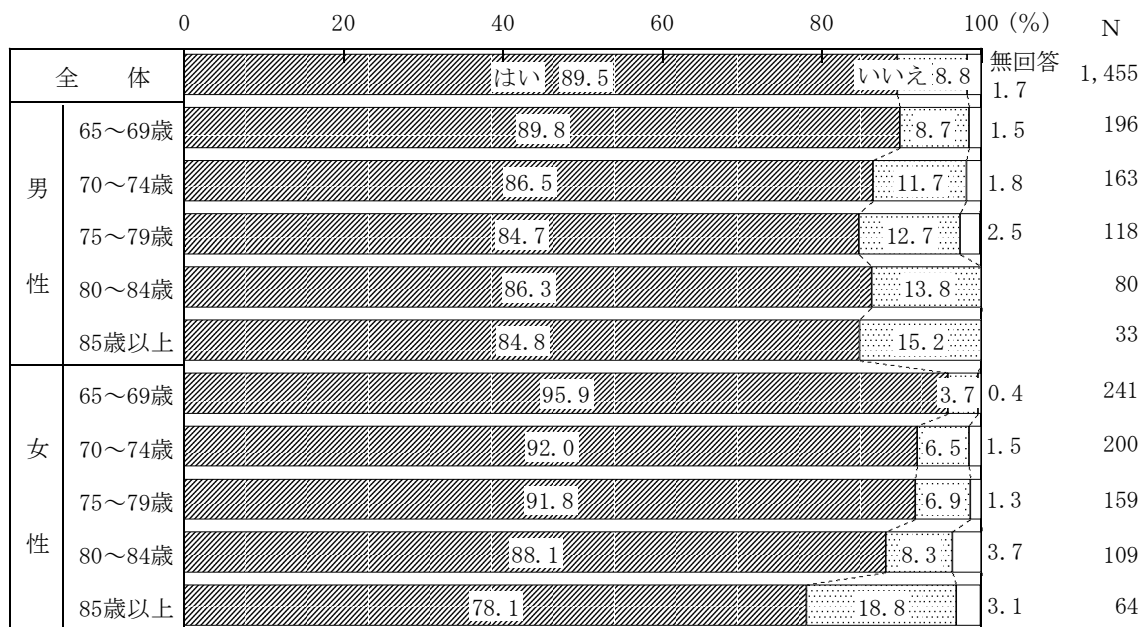




(4) 健康についての記事や番組に関心があるか

健康についての記事や番組に関心があると答えているのは89.5%です。関心がある率は、男女とも高齢になるほど低くなる傾向が出ています。

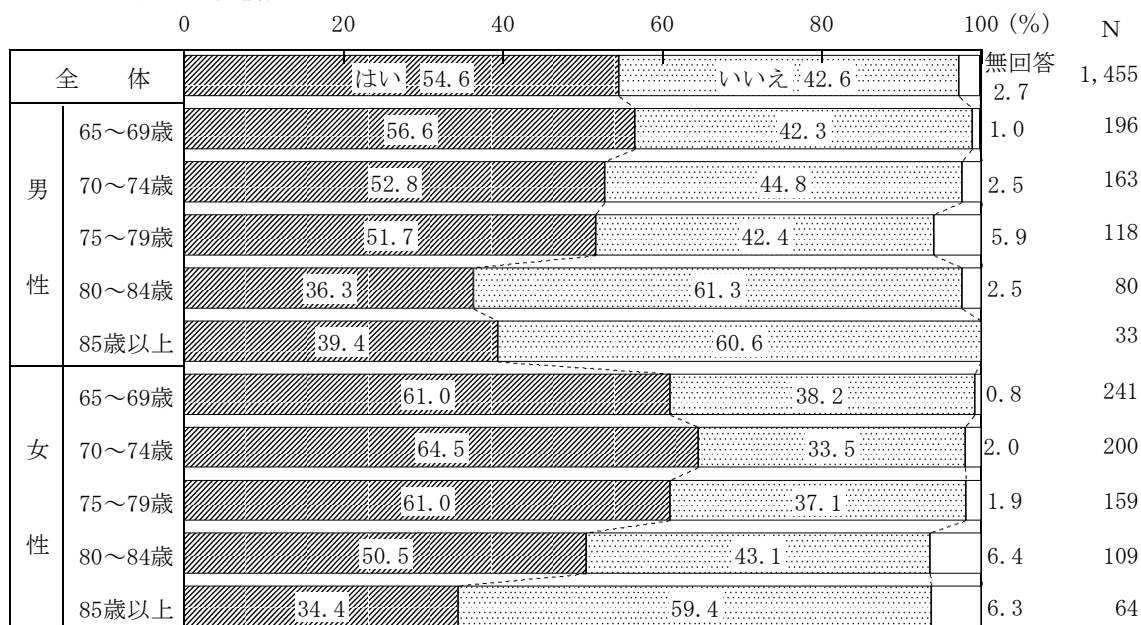
図2-63 健康についての記事や番組に関心があるか



(5) 友人の家を訪ねているか

友人の家を訪ねていると答えたのは54.6%です。男女とも高齢になるほど訪ねている率が低下する傾向が出ています。「いいえ」と答えた人の中には、友人がいない人もかなりいると考えられます。

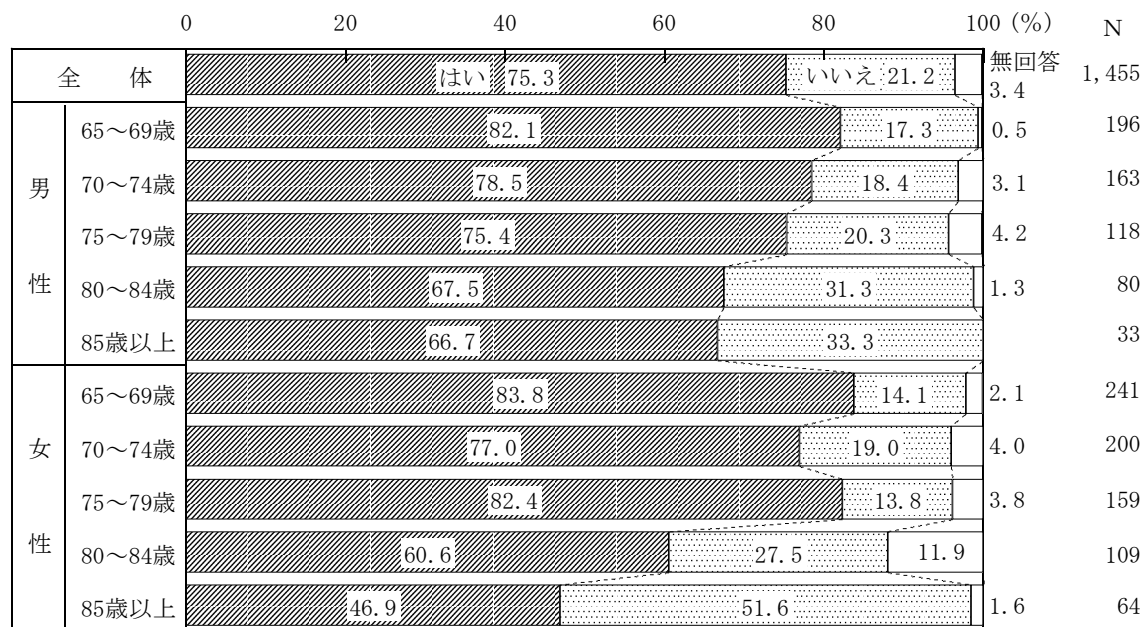
図2-64 友人の家を訪ねているか



(6) 家族や友人の相談にのっているか

「家族や友人の相談にのっていますか」という設問に「はい」と答えたのは75.3%です。男女とも高齢になるほど「はい」が低くなる傾向がみられます。

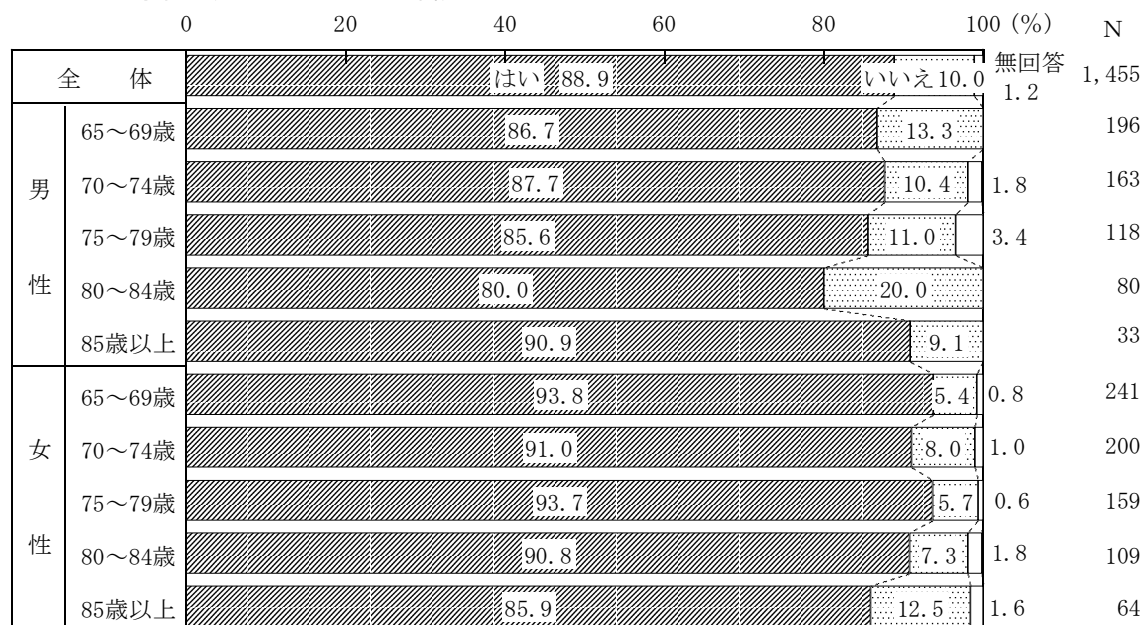
図2-65 家族や友人の相談にのっているか



(7) 家族や友人・知人などに相談しているか

「何かあったときに、家族や友人・知人などに相談をしていますか」という設問に対しては、「はい」が88.9%、「いいえ」が10.0%です。「はい」が最も高いのは、男性が85歳以上、女性が65～69歳です。

図2-66 家族や友人・知人などに相談しているか

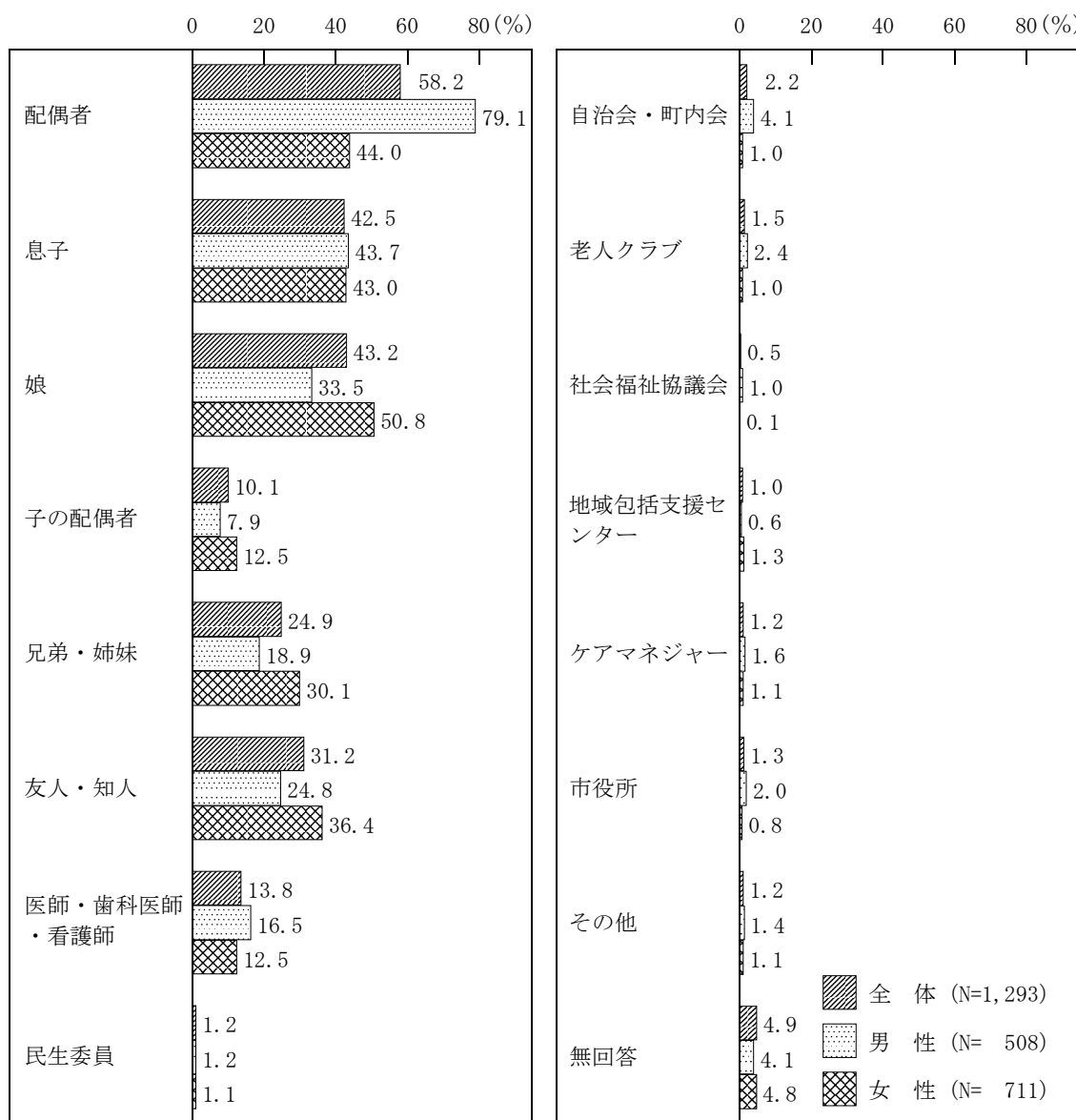


(8) 何かあった時の相談相手

前問で相談をしていると答えた人の何かあった時の相談相手としては、「配偶者」(58.2%)、「娘」(43.2%)、「息子」(42.5%)、「友人・知人」(31.2%)、「兄弟・姉妹」(24.9%)などが高くなっています。「配偶者」は男性が高く、「娘」「兄弟・姉妹」「友人・知人」は女性が高くなっています。

「その他」として、「甥・姪」(3件)、「職場の人」(2件)、「孫」(2件)、「母親」「宗教関係の方」「山で会う人」「同居人」「おじ、おば、いところ」「各種団体」という記入がありました。

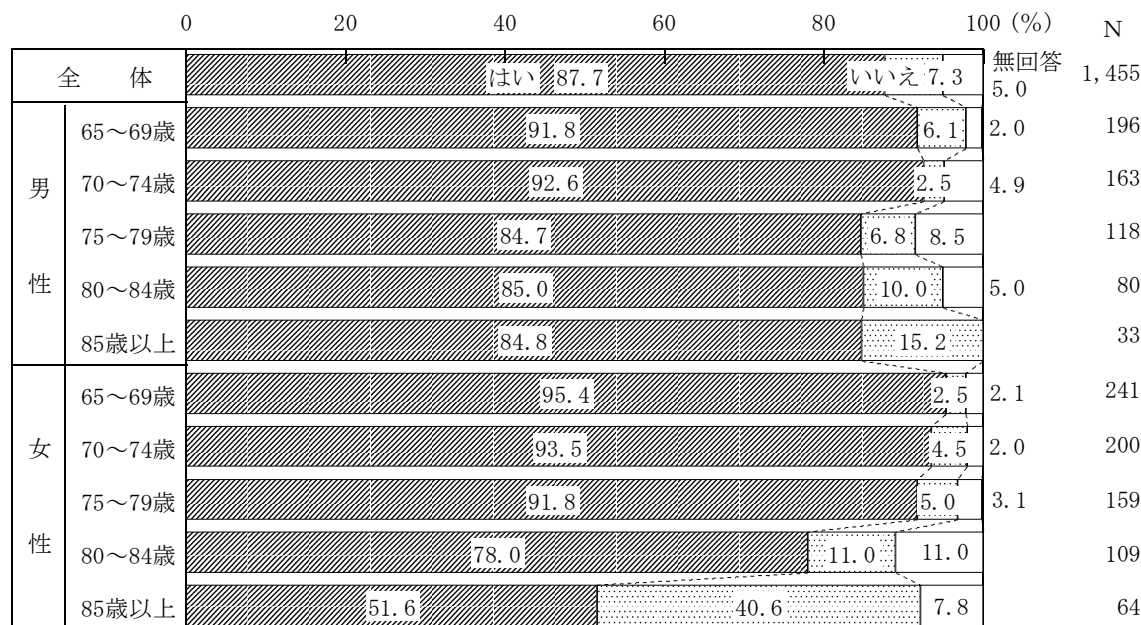
図2-67 何かあった時の相談相手



(9) 病人を見舞えるか

「病人を見舞うことができますか」という設問に対して、「はい」が87.7%、「いいえ」が7.3%です。男女とも高齢になるほど「はい」が低下する傾向がみられ、最も低い85歳以上の女性は51.6%です。

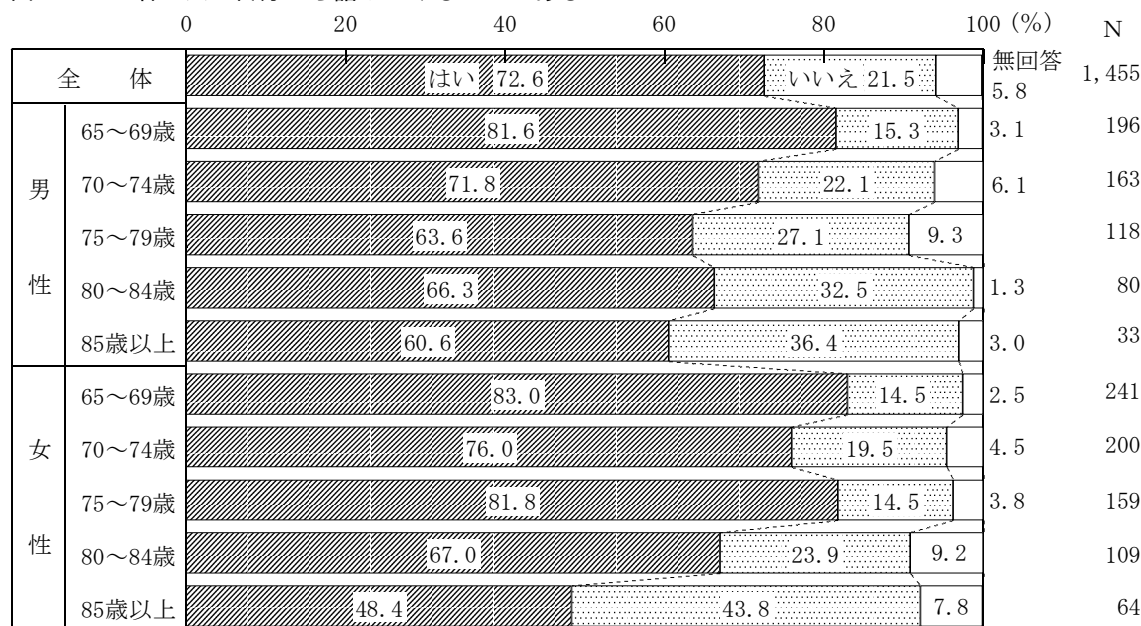
図2-68 病人を見舞えるか



(10) 若い人に話しかけることがあるか

「若い人に自分から話しかけることがありますか」という設問に対し、「はい」が72.6%、「いいえ」が21.5%です。男女とも高齢になるほど「はい」が低下する傾向がみられます。

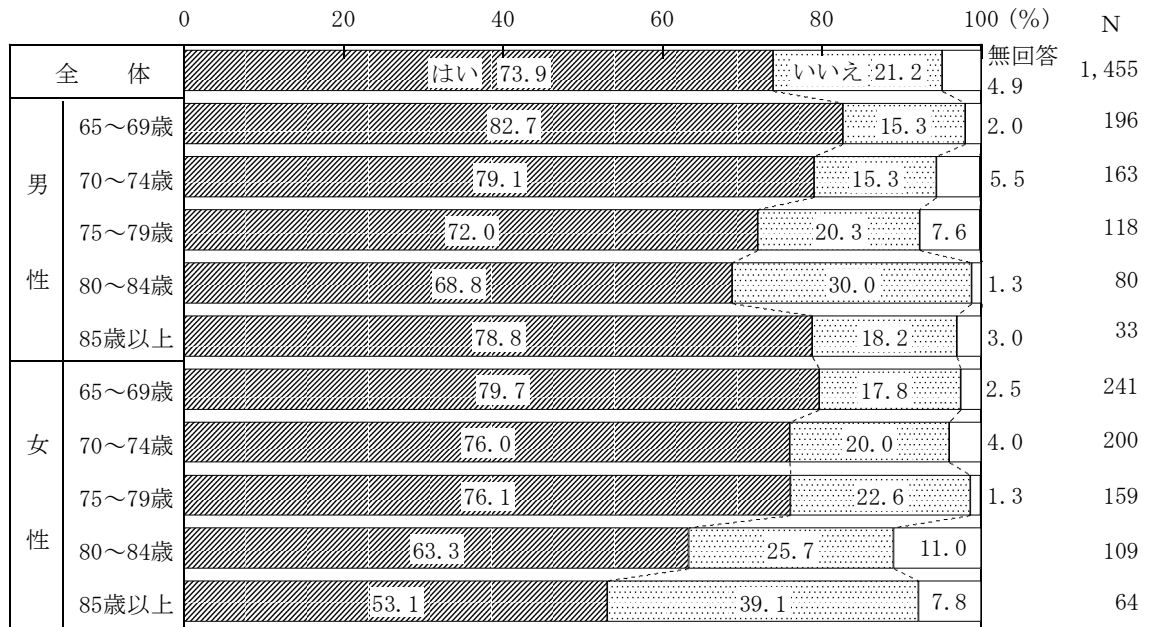
図2-69 若い人に自分から話しかけることがあるか



(11) 趣味はあるか

「趣味はありますか」という設問に、「はい」と答えた人が73.9%、「いいえ」と答えた人が21.2%です。「はい」は、高齢になるほど低下する傾向がみられます。

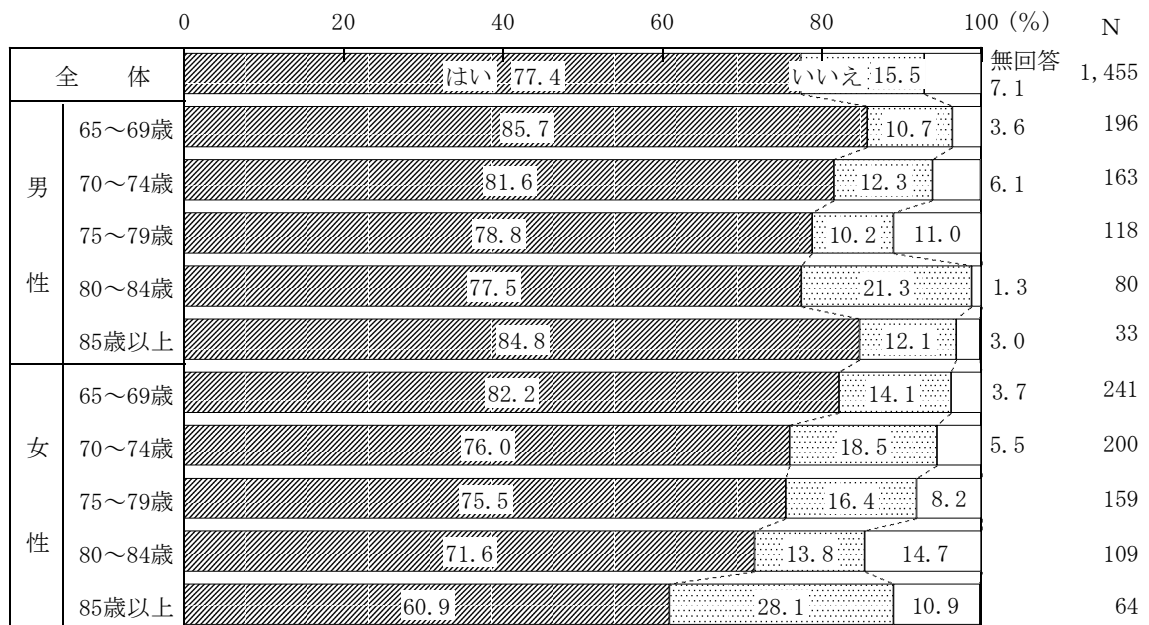
図2-70 趣味はあるか



(12) 生きがいはあるか

「生きがいがありますか」という設問に、「はい」と答えた人が77.4%、「いいえ」と答えた人が15.5%です。「いいえ」が高くなっているのは、男性では80～84歳、女性では85歳以上です。

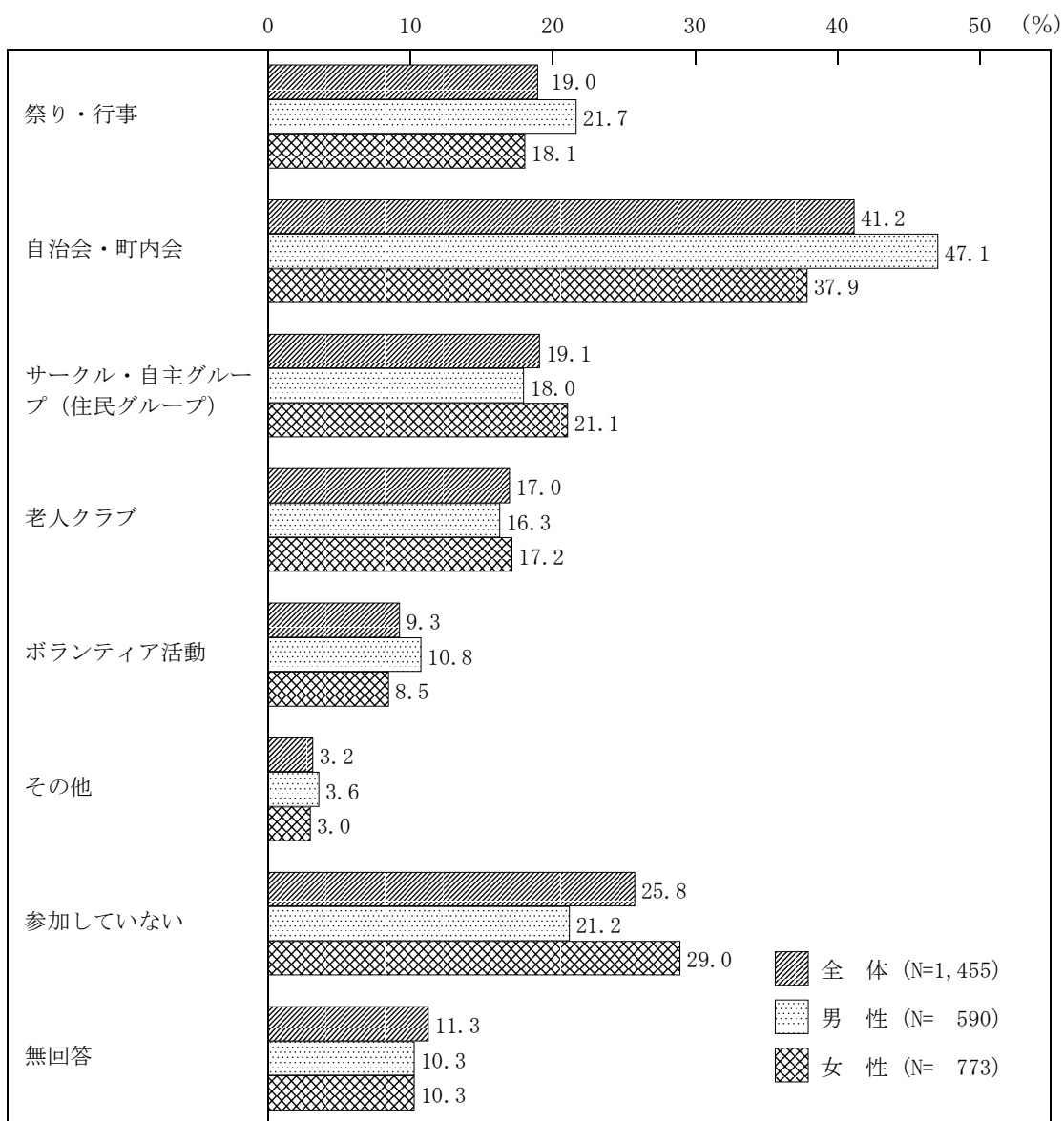
図2-71 生きがいはあるか



(13) 地域活動に参加しているか

地域活動への参加は、「自治会・町内会」(41.2%)が最も高く、次いで「サークル・自主グループ(住民グループ)」(19.1%)、「祭り・行事」(19.0%)などとなっており、「参加していない」が25.8%あります。「祭り・行事」「自治会・町内会」は男性が高く、「サークル・自主グループ(住民グループ)」「参加していない」は女性が高くなっています。

図2-72 地域活動に参加しているか(複数回答)



① 「その他」の地域活動

- 宗教（4件）
- スポーツ活動（2件）
- 伊奈波神社白ゆり敬神婦人会
- 民生委員
- 学童野球の指導
- JAの仕事、会議等
- 法律に関心ある同志
- 交通安全
- ペタンク
- 友人とお茶会など
- 公園の草取り
- スポーツクラブ
- 仕事上研修会に参加
- スポーツジム
- ケアハウスで毎月行事があります。
- 寿体操
- 子育て支援の講師を務めています（ボランティアで）。
- 農協の役員
- 婦人会
- 花の寄せ植え
- 自主的なボランティアで〇〇会には入っていない。
- 趣味の会など
- ゲートボール
- 某奉仕団体（地域活動と言えない）
- いきいきサロン
- 友人とのグループ

② 地域活動に参加していない理由

- 仕事をしているため。（22件）
- 歩行困難（15件）
- 特になし。（12件）
- 病気のため。（12件）

- 時間的余裕がない。（10件）
- 介護で時間がない。（9件）
- 面倒くさい。（8件）
- 外出が困難だから。（6件）
- 難聴のため。（6件）
- 人と交わるのは好きでない。（6件）
- 体力に自信がありません。（6件）
- 交流が苦手（5件）
- 身体的年齢的衰え（5件）
- 障害があるから。（4件）
- あまり好きでない。（4件）
- 地域の情報が全然ない。（4件）
- 興味がない。（3件）
- 行きたくない。（3件）
- 地域に友人・知人がいない。（3件）
- 毎日家事手伝い（2件）
- 自営業のため自由な時間がありません。（2件）
- 足腰が痛いので出かけない。（2件）
- 視力が低下しているため。（2件）
- 機会がない。（2件）
- 参加する必要がない。（2件）
- 外出嫌い。（2件）
- 転入者のため、地域の事情がよくわからない。（2件）
- 自分のことで精いっぱい。（2件）
- 家事と家業手伝いで時間の余裕がありません。
- 集団活動が好きでない。
- したくない。
- 気が乗らない。
- 以前はしていた。
- 自治会長、組合理事長を永年やって引退
- 歩くこと、話すこと何もできない。

- グループホームに入居中です。
- どこへ行けばいいかわからない。
- 心配なのでできない。
- 俺の勝手
- 酸素着用のため。
- 高齢者ですから。
- 地域外の所で参加している。
- 人の悪口などを言うから。楽しい所が好き。
- 今の所そういったきっかけがないです。
- 遠いと歩けないので近くの友人と。
- 老人クラブ解散でない。
- 特別養護老人ホームでの行動のみ。
- くたびれるし、人生観が違う。
- 自己に適した活動がない。
- することがない。
- 仕事がないし場所がない。
- 若いと思っている。
- 認知症のため。
- 病人がいるので。
- ついていけない。
- 面白くない（老人扱いする）。
- 馬が合わない。
- 別に困らないから。
- 腰が曲がっているため行動しづらい。
- できない。
- 長年住んでいた所から引っ越してきたためなじめない。
- 転居して間がない。
- つまらない。皆いばっている。
- 自分の趣味を行っている。
- なんとなく。
- 碁、将棋を知らないの。
- 変人かもしれません。犬が好きです。
- 外出は好きですが、自分で判断して行動した方が好き。
- 身体が疲れるから。
- お気に入りがない。
- 高血圧症のためストレスを避けている。
- 介護施設入所
- 要介護者
- 岐阜市老連会長をしていたが、退職後はあまり参加していない。
- そばで見ていることはできますが、自分からは進んで参加できません。
- 家族にまかせている。
- 機会がない。時間がない。
- 子守り
- 自分自身で何もかもできる。
- お誘いがないので、老人クラブに入りた
- い。
- 週3回5時間透析で他の時間は孫の世話
- 行くつもりでもなかなか行けない。主人の通院、自分の通院
- 職場と住宅が2県に。それぞれでしている。
- 独りでは行動できない。
- 勤務が名古屋や転勤だったためあまり興味がわかず、話のレベルが合わない。
- 誰も教えてくれない。回覧でわかるものは出席している。
- 町内に入会していません。
- 家内が参加しているから。
- 自宅で読書が良いから。

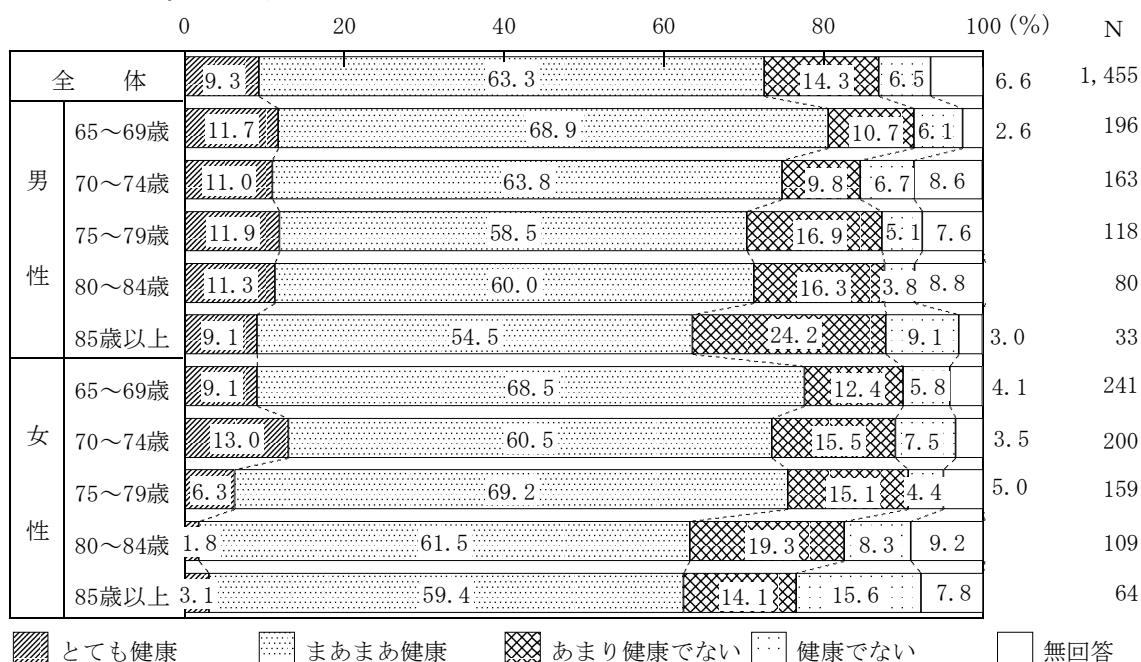


## 9 健康について

### (1) 健康だと思うか

「普段、ご自分で健康だと思いますか」という設問に対しては、「とても健康」(9.3%)と「まあまあ健康」(63.3%)の合計が72.6%、「あまり健康でない」(14.3%)と「健康でない」(6.5%)の合計が20.8%です。「あまり健康でない」と「健康でない」の合計は、高齢になるほど高くなる傾向がみられます。

図2-73 健康だと思うか



### (2) 治療中または後遺症のある病気

「現在治療中、または後遺症のある病気はありますか」という設問に対して最も高かったのは「高血圧」(38.1%)、次いで「目の病気」(19.6%)、「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」(13.9%)、「心臓病」(13.1%)などとなっています。男性が女性より高い病気は「心臓病」「糖尿病」「腎臓・前立腺の病気」などで、その逆に女性のほうが高い病気は「高血圧」「高脂血症(脂質異常)」「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」「目の病気」などです。「ない」は、男性が10.7%、女性が8.0%あります(図2-74)。

図2-75は、上位6疾病を性別・年齢別にみたものです。高年齢になるほど高くなる傾向がみられるのは「筋骨格の病気(骨粗しょう症・関節症等)」「目の病気」、その逆の傾向がみられるのは「高脂血症(脂質異常)」です。

図2-74 治療中または後遺症のある病気（複数回答）

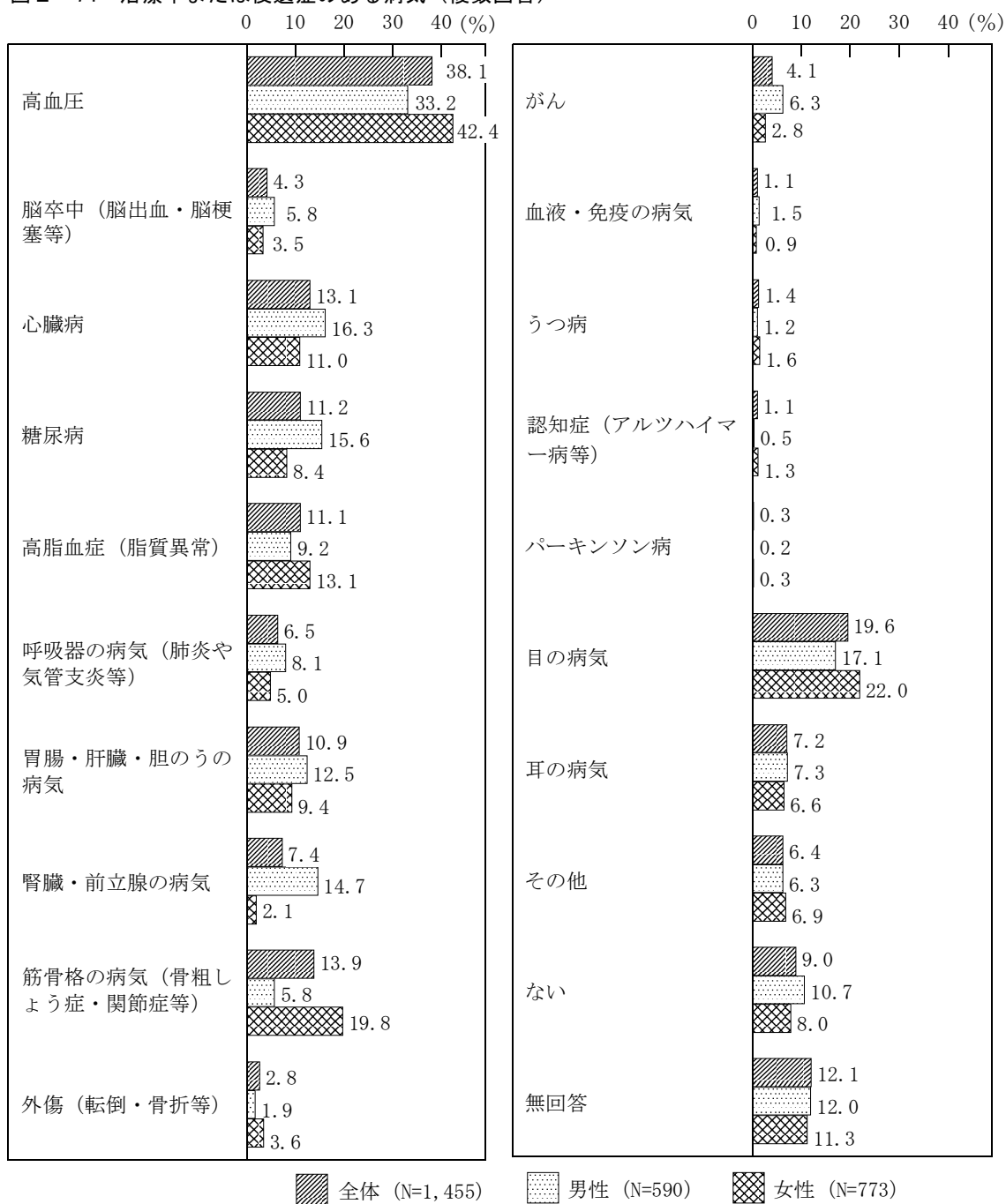
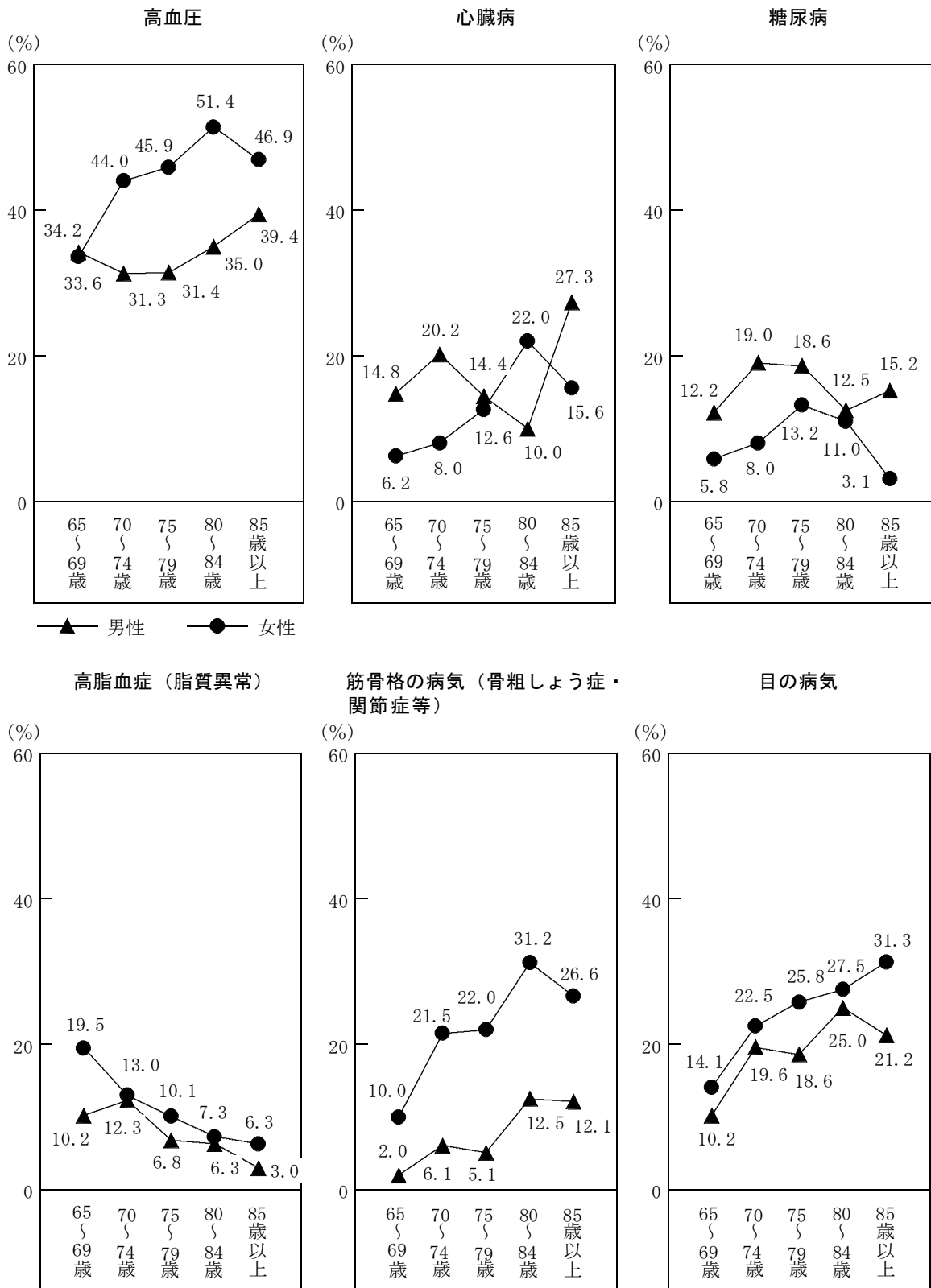


図2-75 治療中または後遺症のある病気（複数回答・性別・年齢別）



「その他」として多くの病名等が記載されていました。次表はその病名等を分類したものです。

表2-2 選択肢になかった病名等

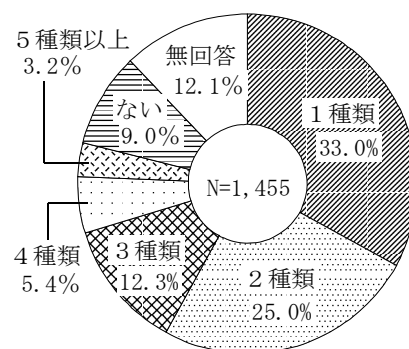
分類	病名等	件数
精神及び行動の障がい	物忘れが多い、思い込みが激しい	1
神経系の疾患	不眠症（2） てんかん 顔の三双神経痛（第2神経） 顔面神経マヒ 神経痛 足裏のしびれ 偏頭痛	8
眼及び付属器の疾患	メニエル病（3） めまい	4
循環器系の疾患	リウマチ（7） 甲状腺低下症（2） コレステロール（2） 不整脈（2） 小脳失調症（遺伝） 血小板減少病 脳髄膜炎後 手足のしびれあり 熱中症 冠攣縮性狭心症の発作が起こることがある 肺結核の成形手術による肺機能障害と体幹障害 心臓障害 水頭症 低血圧 肩こり 舌 大動脈瘤かい離	25
呼吸器系の疾患	のどの病 アレルギー喘息 風邪 花粉症 副鼻腔炎	5
消化器系の疾患	歯（11） 便秘 痔（2）	13
皮膚及び皮下組織の疾患	しっしん（2） アレルギー（2） 帯状疱疹（2） 皮膚病（2） 乾せん ヘルペス 足爪の水虫 浮腫 吹き出物	13
筋骨格系及び結合組織の疾患	腰痛（4） 膝痛（3） 痛風（3） 脊柱管狭窄症（2） 五十肩（2） 頸椎（2） 腱鞘炎 骨頭壊死 股関節 すべり症（腰痛） ヘルニア 筋力低下 腰部脊柱管狭窄症 頸椎骨折の後遺症 両外反母趾	25
尿路性器系の疾患	泌尿器科 失禁 前立腺 尿道炎	4

(注) 「病名等」欄の( )内の数字は件数、( )がないものは1件である。

(3) 治療中または後遺症のある病気の種類数

図2-76は、治療中または後遺症のある病気の種類数を示しています。「ない」が9.0%、「1種類」が33.0%、「2種類」が25.0%などとなっており、「5種類以上」の病気にかかっている人が3.2%います。1人あたりの病気の平均種類数は2.0種類です。

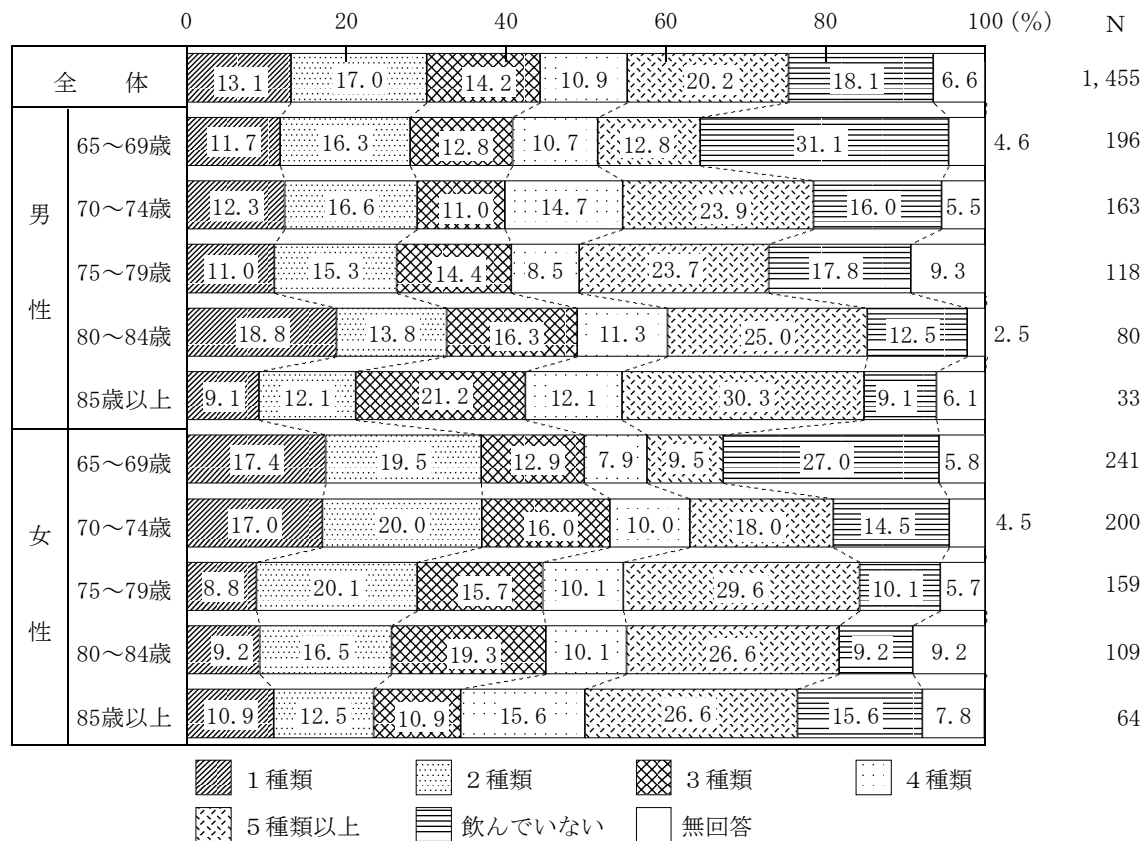
図2-76 治療中または後遺症のある病気の種類数



(4) 医師の処方した薬を何種類飲んでいるか

「現在、医師の処方した薬を何種類飲んでいきますか」という設問に対しては、「5種類以上」(20.2%)が最も高く、次いで「飲んでいない」(18.1%)でした。「飲んでいない」は若年齢層が、「5種類以上」は高齢年齢層が高い傾向を示しています。前問の病気の種類数では、「1種類」が33.0%であったのに対し、薬の「1種類」は13.1%です。これは、1種類の病気であっても複数の薬を服用していることを示しています。

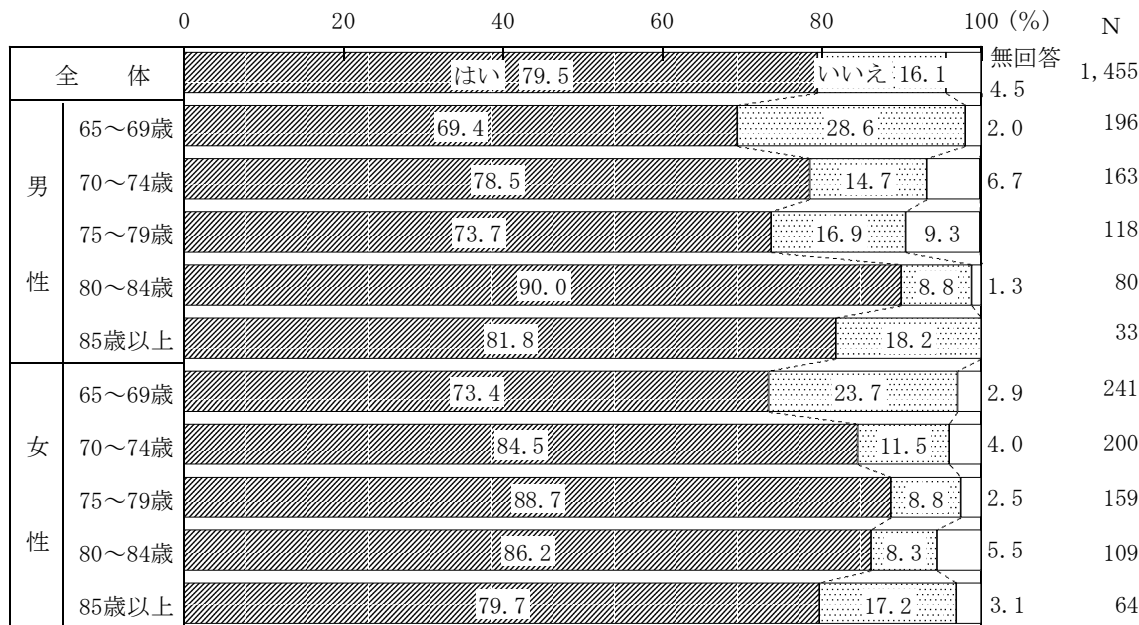
図2-77 医師の処方した薬を何種類飲んでいるか



(5) 医療機関に通院しているか

「現在、病院・医院（診療所・クリニック）に通院していますか」という設問には、「はい」という回答が79.5%あります。

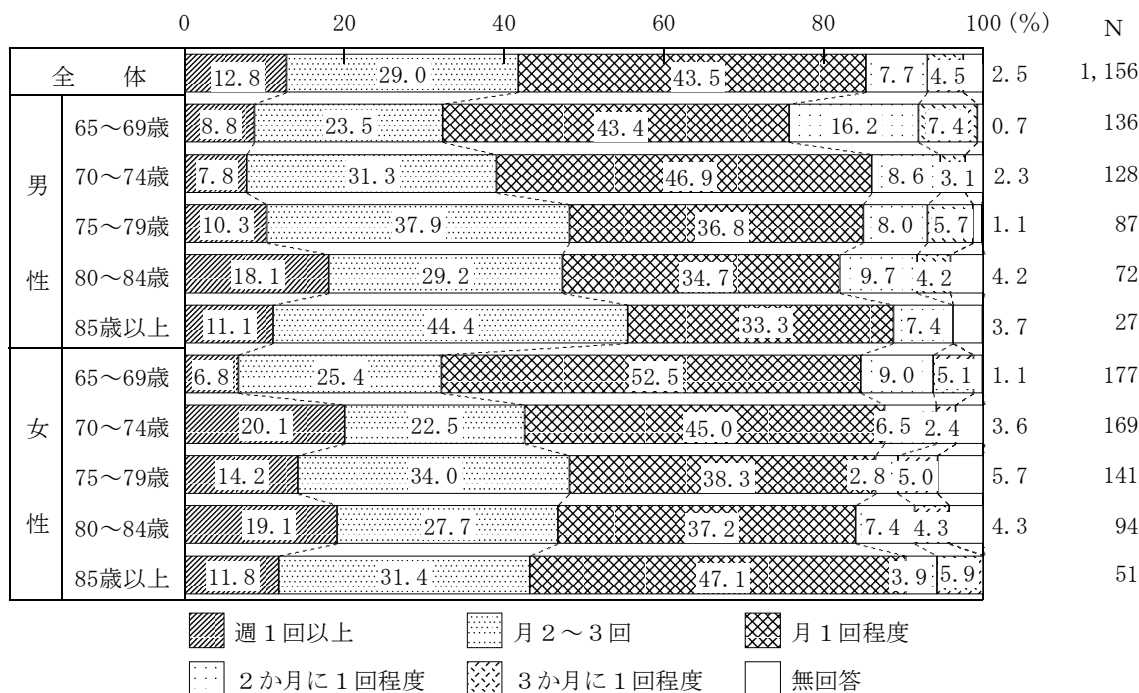
図2-78 医療機関に通院しているか



(6) 通院の頻度

前問で通院していると答えた人の通院の頻度は、「月1回程度」が43.5%、「月2～3回」が29.0%、「週1回以上」が12.8%などとなっています。「週1回以上」が高いのは、男性では80～84歳、女性では70～74歳です。

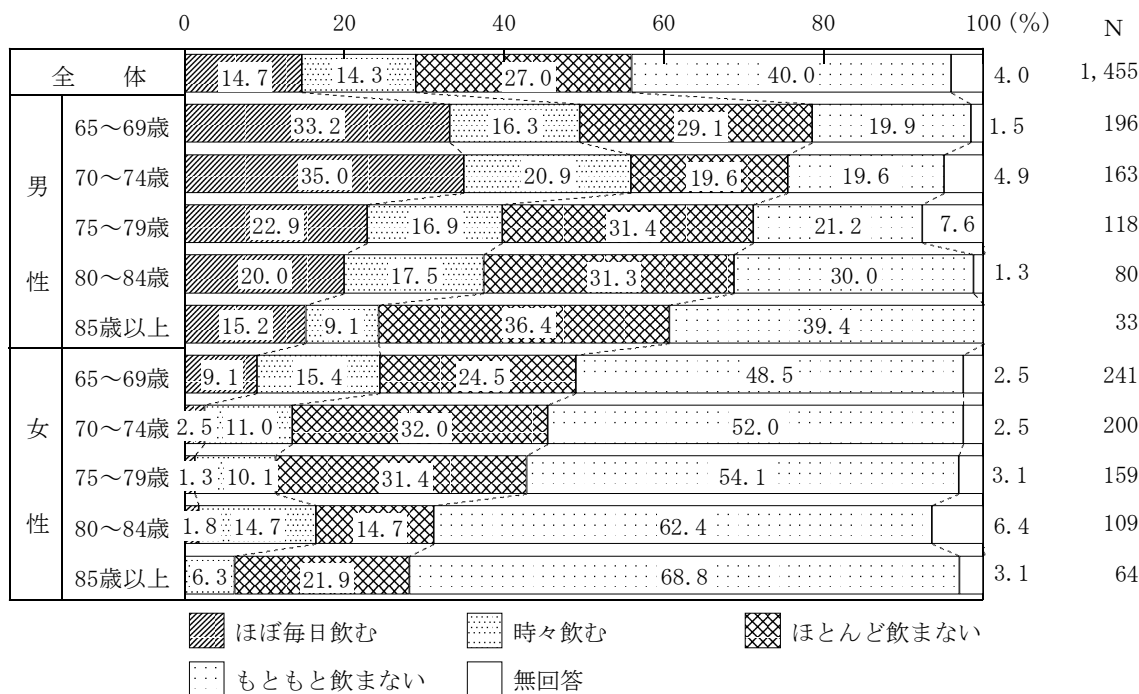
図2-79 通院の頻度



(7) 飲 酒

酒は「ほぼ毎日飲む」が14.7%、「時々飲む」が14.3%です。女性の飲酒する率は非常に低くなっています。

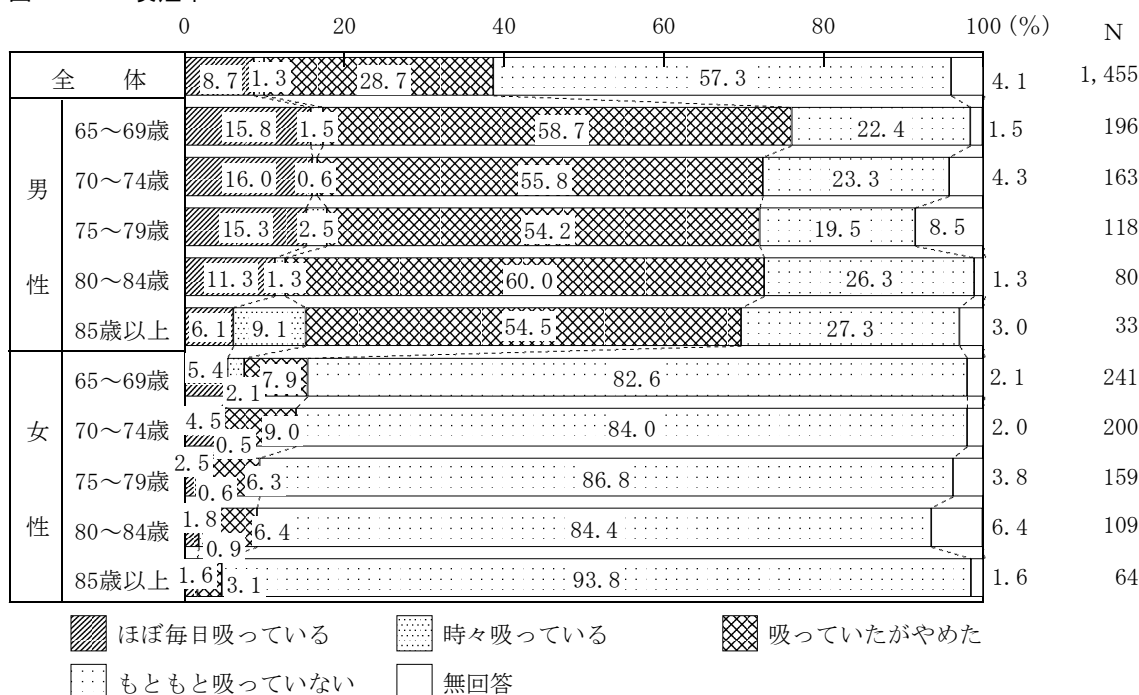
図2-80 飲酒率



(8) 喫 煙

タバコは「ほぼ毎日吸っている」が8.7%、「時々吸っている」が1.3%と、非常に低い率です。男性の「吸っていたがやめた」が各年齢層とも50%を超えています。

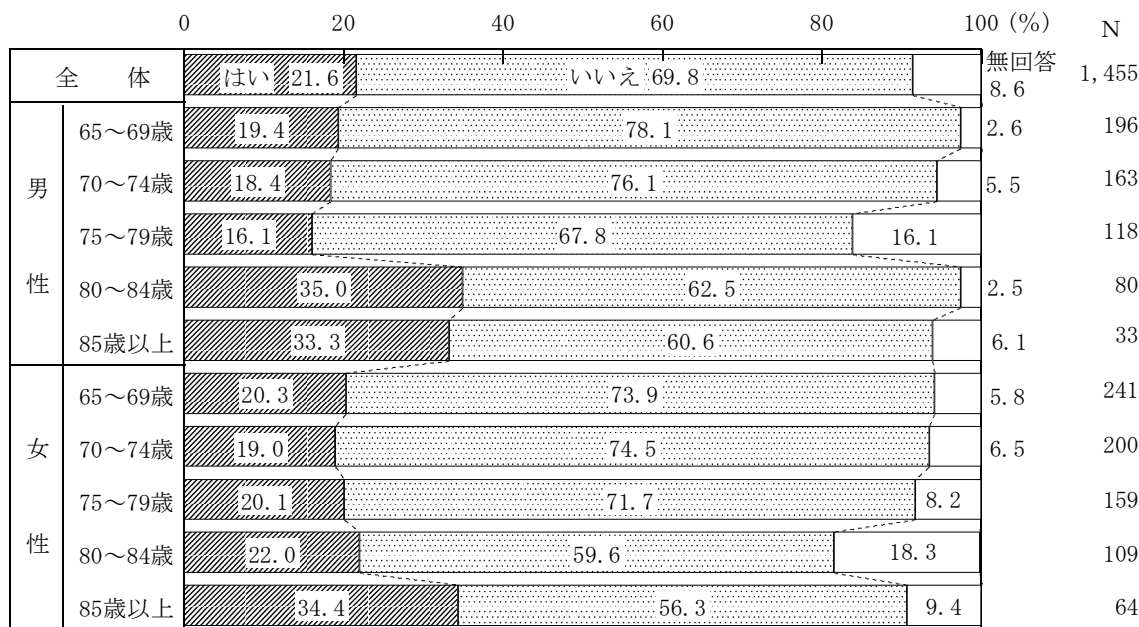
図2-81 喫煙率



(9) 毎日の生活に充実感がない

「ここ2週間、毎日の生活に充実感がない」と答えているのは21.6%です。男性の80～84歳と85歳以上、女性の85歳以上は、3分の1以上の人が充実感が「ない」と答えています。

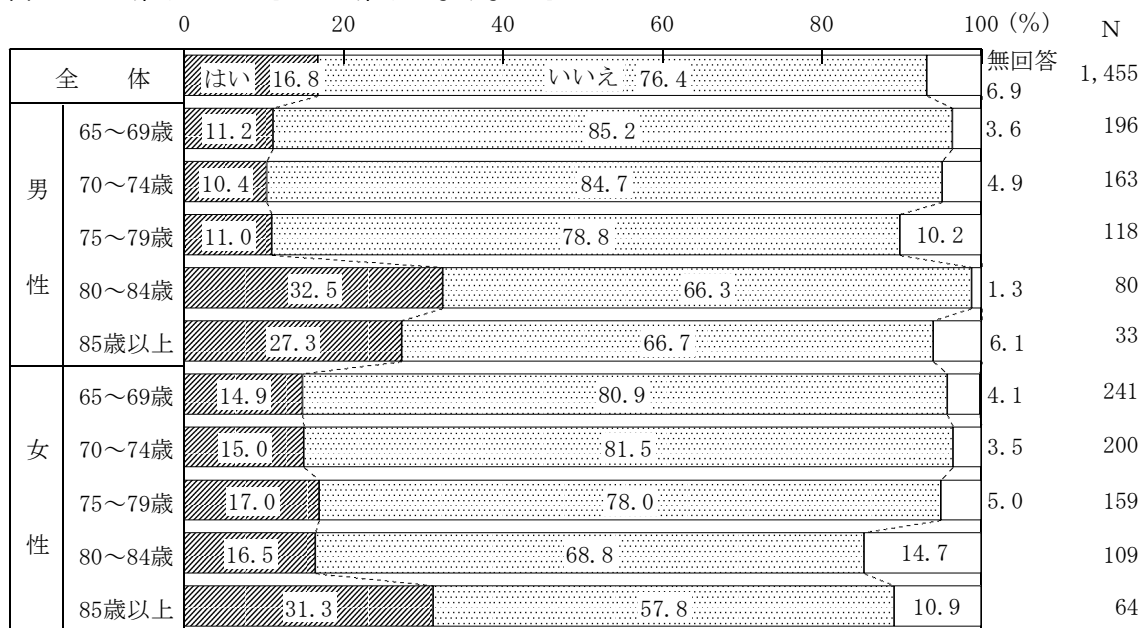
図2-82 毎日の生活に充実感がない



(10) 楽しんでいたことが楽しめなくなった

「ここ2週間、これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった」と答えているのは16.8%です。楽しめなくなったと答えている人は、男性の80～84歳、女性の85歳以上が3割を超えています。

図2-83 楽しんでいたことが楽しめなくなった

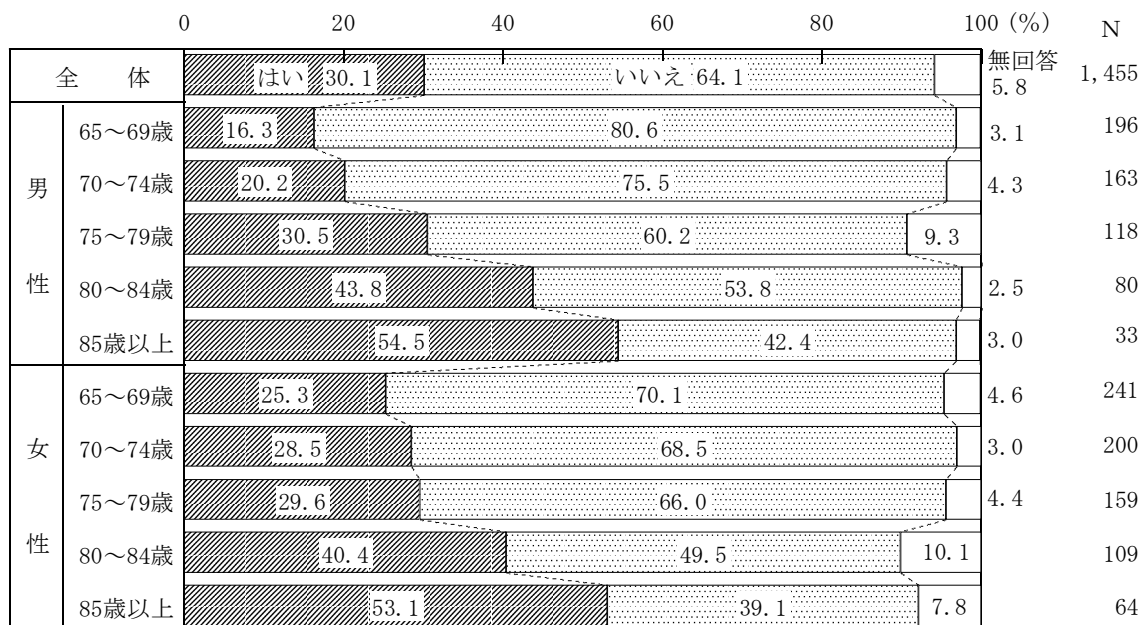




(11) 楽にできたことがおっくうになった

「ここ2週間、以前は楽にできていたことが、今ではおっくうに感じられる」と答えているのは30.1%です。おっくうになったと答えているのは、男女とも高齢になるほど高くなっています。

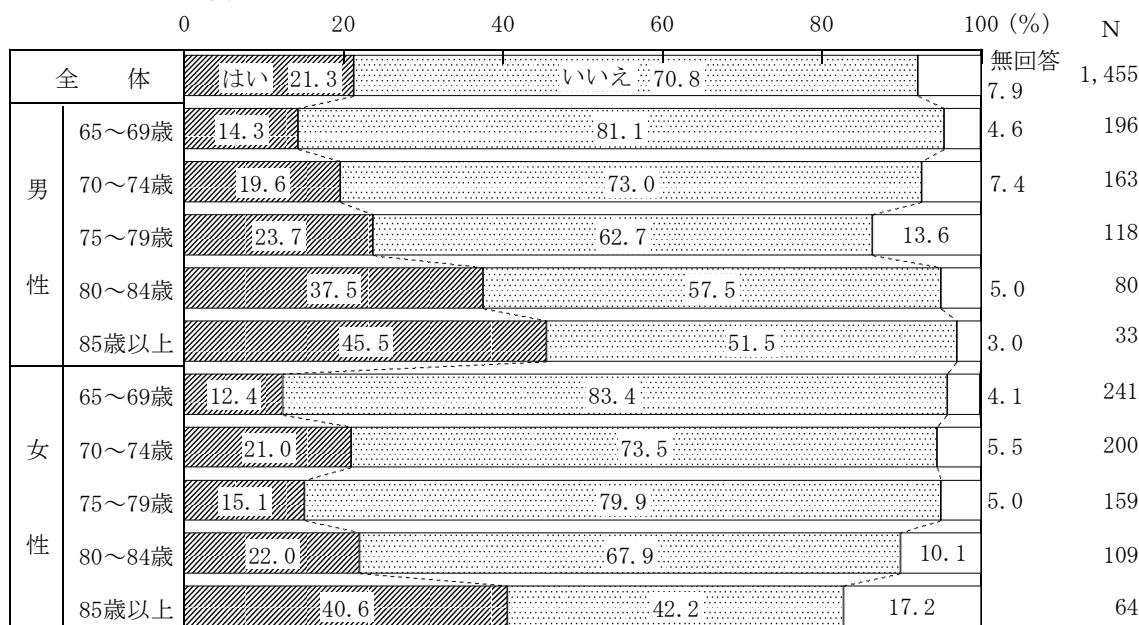
図2-84 楽にできたことがおっくうになった



(12) 自分が役に立つ人間だと思えない

「ここ2週間、自分が役に立つ人間だと思えない」と答えているのは21.3%です。役に立つ人間だと思えないと答えているのは、男女とも高齢になるほど高くなる傾向を示しています。

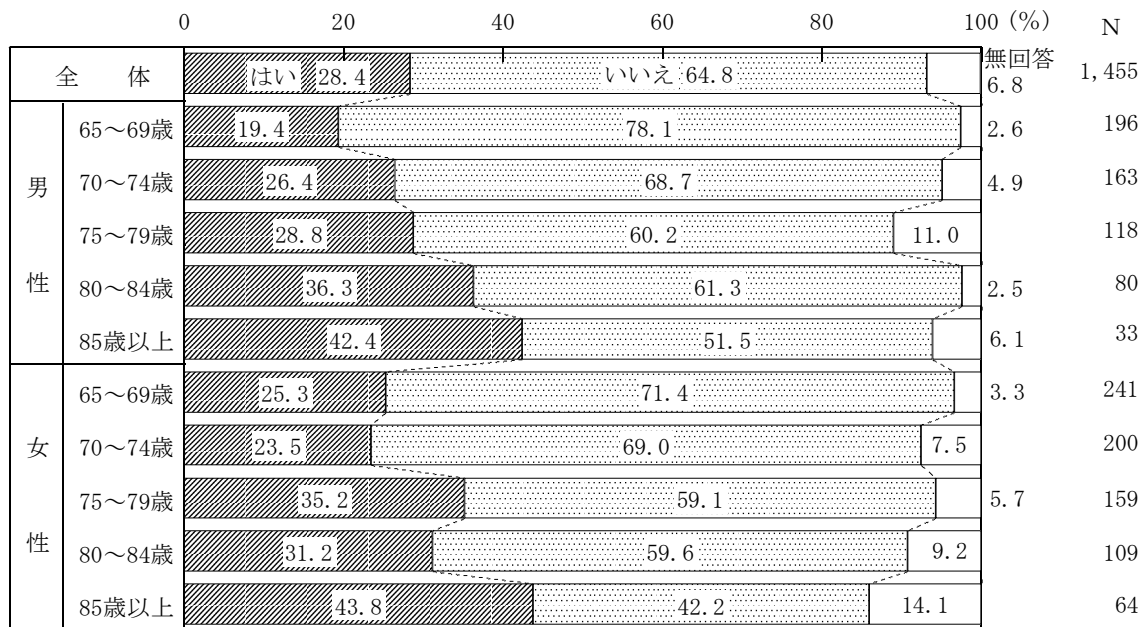
図2-85 自分が役に立つ人間だと思えない



(13) わけもなく疲れたような感じがする

「ここ2週間、わけもなく疲れたような感じがする」と答えたのは28.4%です。「わけもなく疲れたような感じがする」と答えた率は、男女とも高齢になるほど高くなる傾向を示しています。

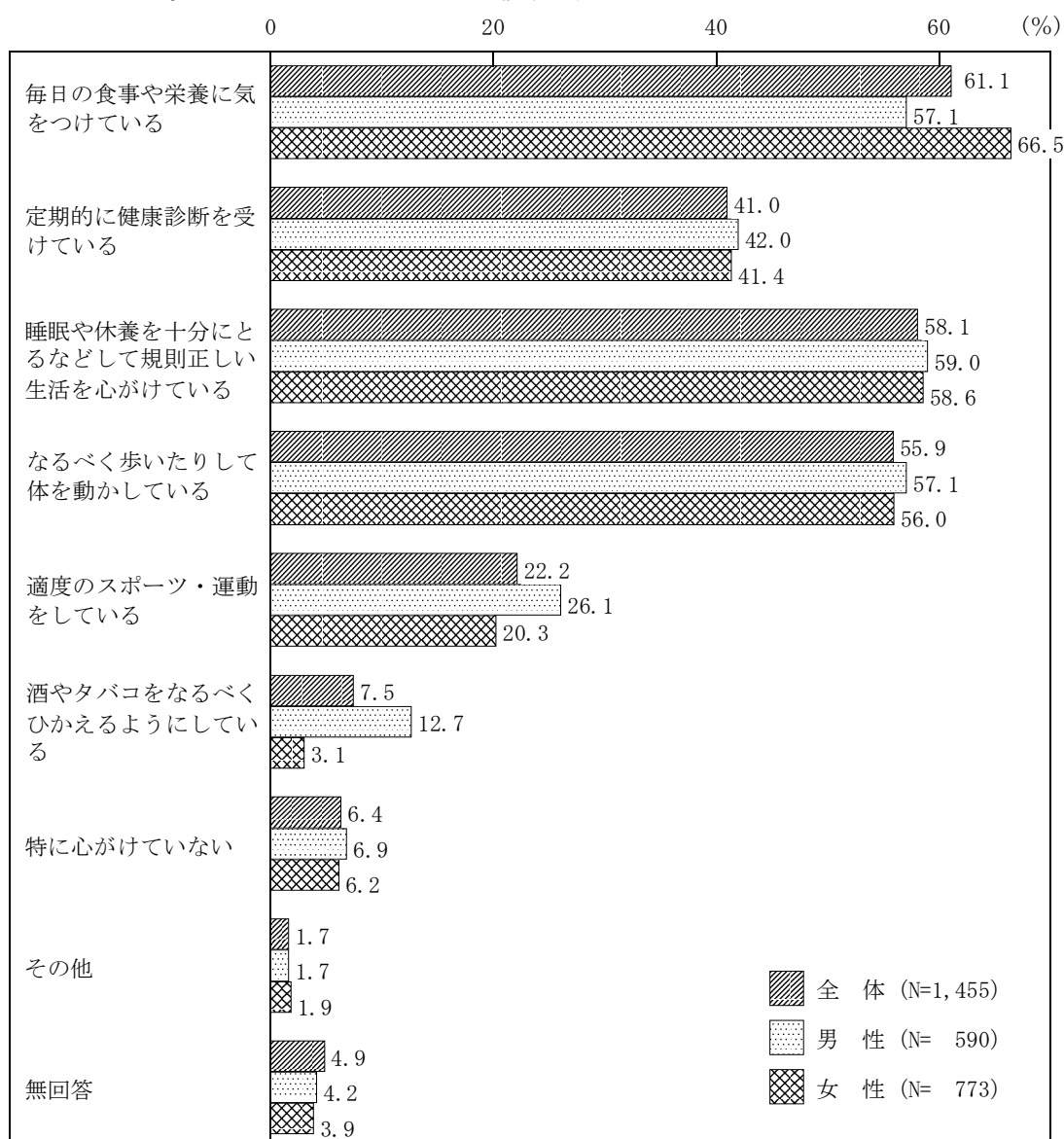
図2-86 わけもなく疲れたような感じがする



(14) 健康について心がけていること

健康づくりでどんなことに心がけているかということについては、「毎日の食事や栄養に気をつけている」(61.1%)、「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」(58.1%)、「なるべく歩いたりして体を動かしている」(55.9%)の3項目を5割以上の方があげています。「適度のスポーツ・運動をしている」「酒やタバコをなるべくひかえるようにしている」は女性より男性が高く、「毎日の食事や栄養に気をつけている」は男性より女性が高くなっています。

図2-87 健康づくりで心がけていること(複数回答)



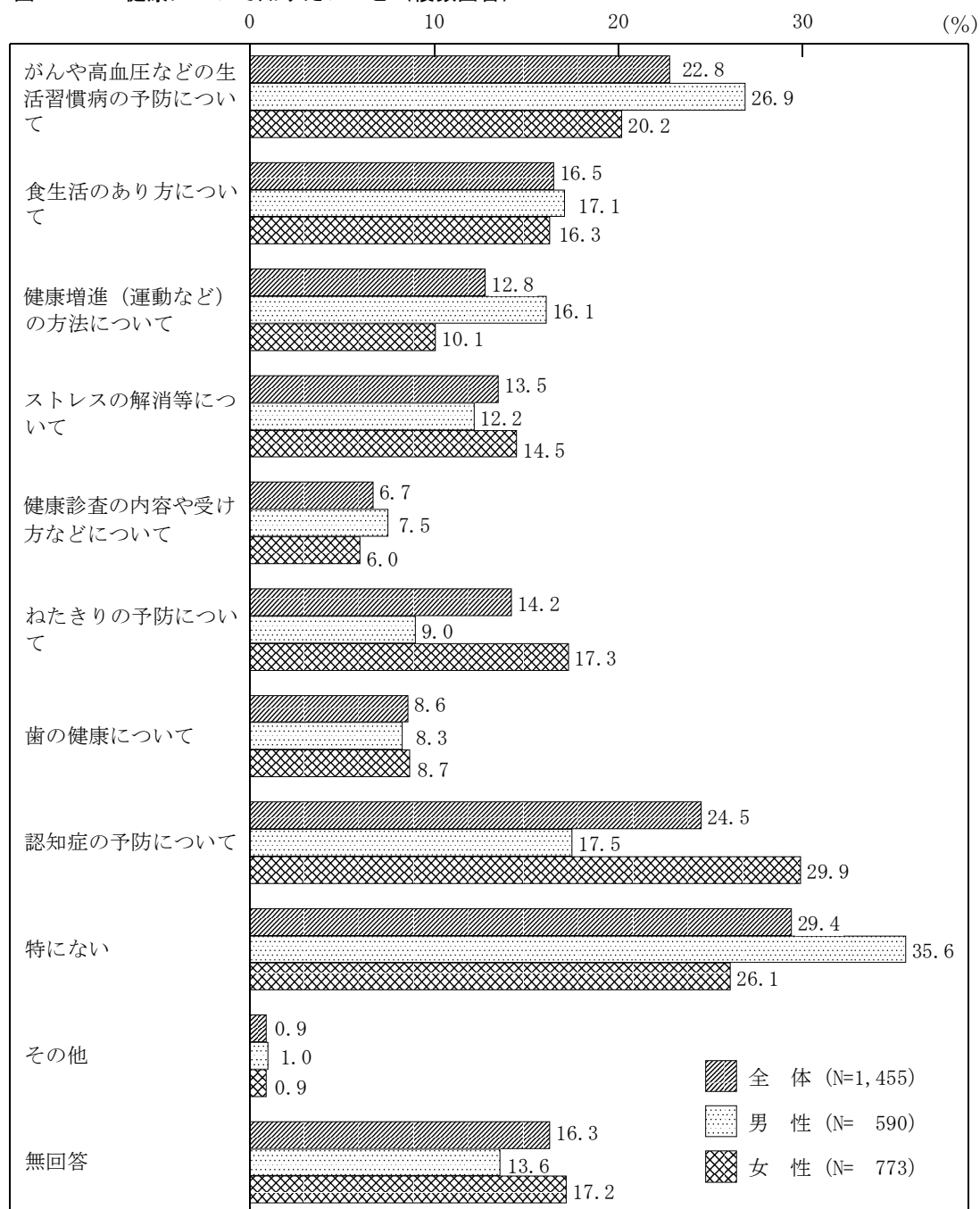
「その他」として、次の記入がありました。

- 農業（田、畑）仕事（2件）
- 体を動かすように家族の者が気をつけている。
- 公民館活動をしています。
- 自然
- 今は腰を痛めているので。
- 体調に変化があった時、原因を究明する。
- テレビの健康番組を見るようにしている。
- 薬は効がある場合も害がある場合もあるので、薬を服用しない。
- 毎日金華山に登っている。
- 週に2～3日仕事で出かけている。社会の中で活動することにより健康でいられると思う。
- サプリメント飲用
- 食事を腹八分目
- 自転車で外出買い物等
- 若い頃の体型をそのまま維持している。
- ポンプ水道工事の自営業のため、毎日修理などにトラックで飛び回っている。
- ストレスを作らないよう心掛ける。不安定な状況を作らないこと。
- 夕食後一切口に物を入れない。
- 昨年11月に転び両手首骨折しましたので、2度と転ばないよう気をつけています。
- よく噛む。

(15) 健康について知りたいこと

健康について知りたいこととして、「認知症の予防について」(24.5%) および「がんや高血圧などの生活習慣病の予防について」(22.8%) が高い率を示しています。また、「特にない」が最も高く、29.4%あります。「がんや高血圧などの生活習慣病の予防について」「健康増進(運動など)の方法について」「特にない」は、女性より男性が高く、「ねたきりの予防について」「認知症の予防について」は、女性が男性よりかなり高くなっています。

図2-88 健康について知りたいこと(複数回答)



「その他」として、次の記入がありました。

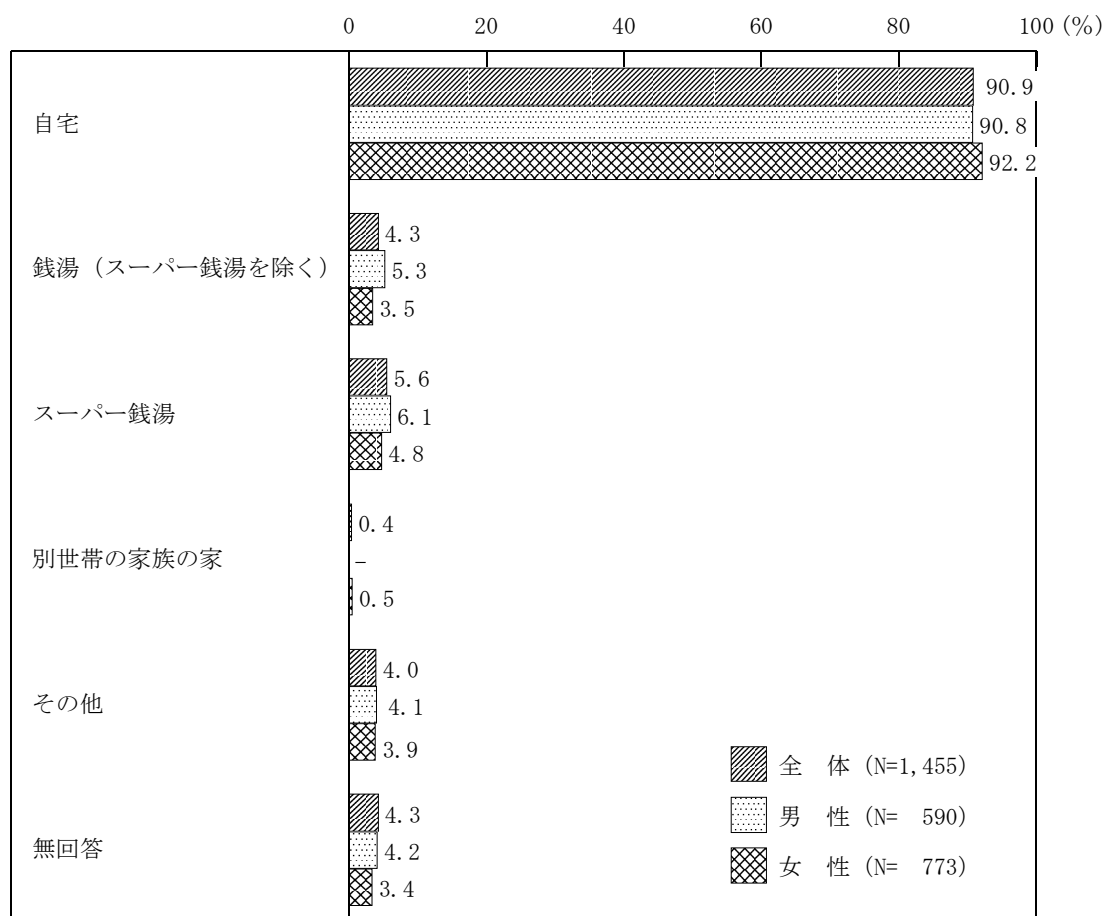
- テレビや本から知識を得る。
- 寝る時の姿勢
- 家族の者が学んでいる。
- 老人専門の医院
- 健康について聞いても張り合いがない。
- 過去にもNHKのテレビにて、血圧の高い方および糖尿病の方は気をつけないと認知症になりやすいと申しておられました。このことについてわかれば教えてください。
- 自分の体は医学書でかなり勉強したし、医師の判断も大切だが、最終的には自分自身の考えが大切だと思う。無論検査しないとわからないことや数値は知った上で。
- いつもテレビで見ている。
- 尿
- 腰痛、肩こり、耳鳴り
- テレビ、雑誌など、最初に健康相談や説明など注目している。
- 腎臓病で通院しているが、これでいいのか？ という気持ちが強い。

(16) お風呂はどこで入るか

お風呂は「自宅」で入る人が90.9%を占めており、次いで「スーパー銭湯」(5.6%)、「銭湯(スーパー銭湯を除く)」(4.3%)となっています。

「その他」として、「温泉」(22件)、「デイサービス・デイケア」(14件)、「スポーツクラブ・スポーツジム」(11件)、「老人ホーム・グループホーム」(6件)、「病院(入院中)」 「ゴルフ場の風呂」 「身体を拭くだけで風呂には危ないから入らない」 「シャワーのみ」という記入がありました。

図2-89 お風呂はどこで入るか(複数回答)

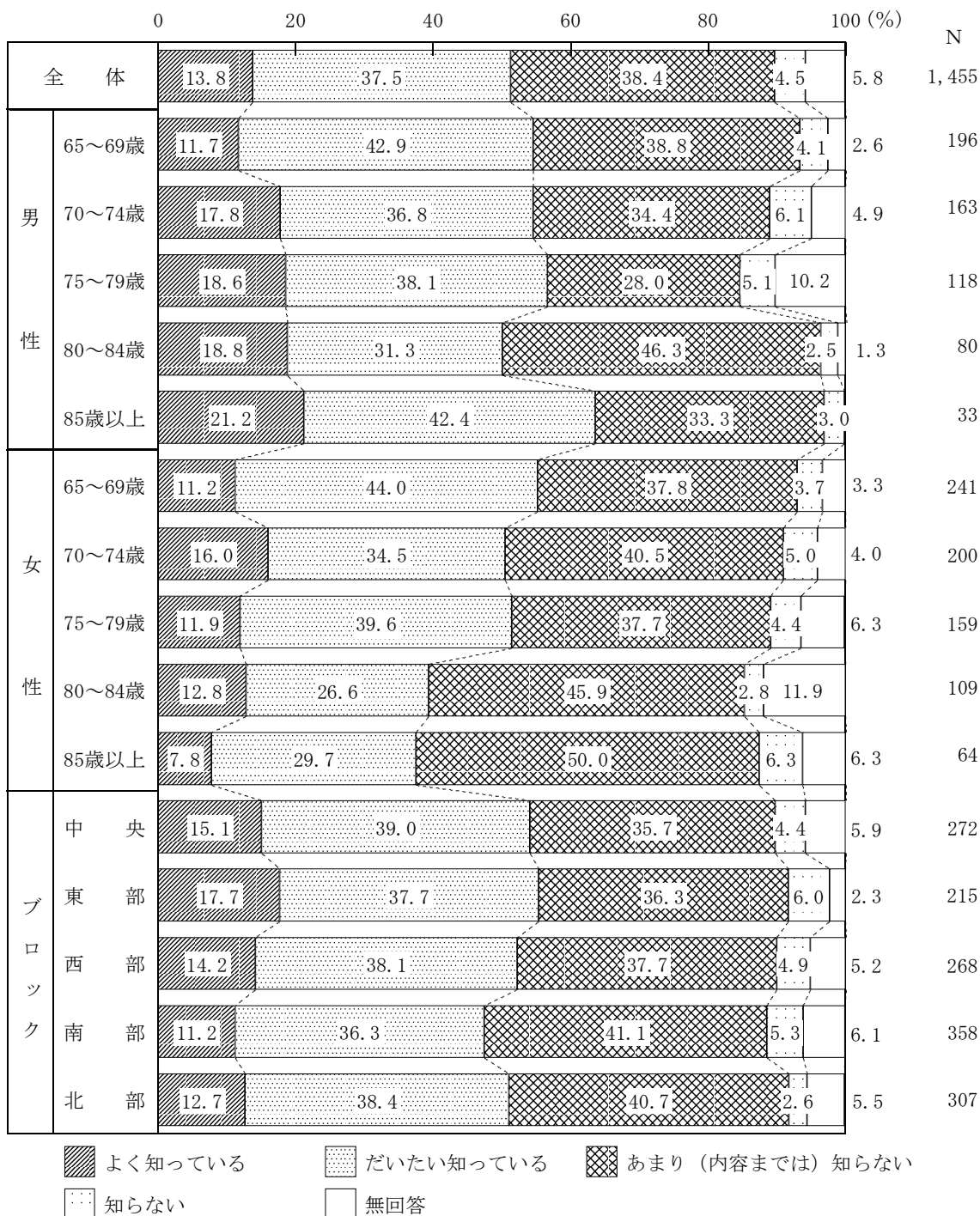


## 10 介護保険について

### (1) 介護保険制度の周知度

介護保険制度を「よく知っている」と「だいたい知っている」の合計が51.3%、「あまり（内容までは）知らない」と「知らない」の合計が42.9%となっています。「よく知っている」は、男性の85歳以上、ブロック別の東部が高くなっています。

図2-90 介護保険制度の周知度

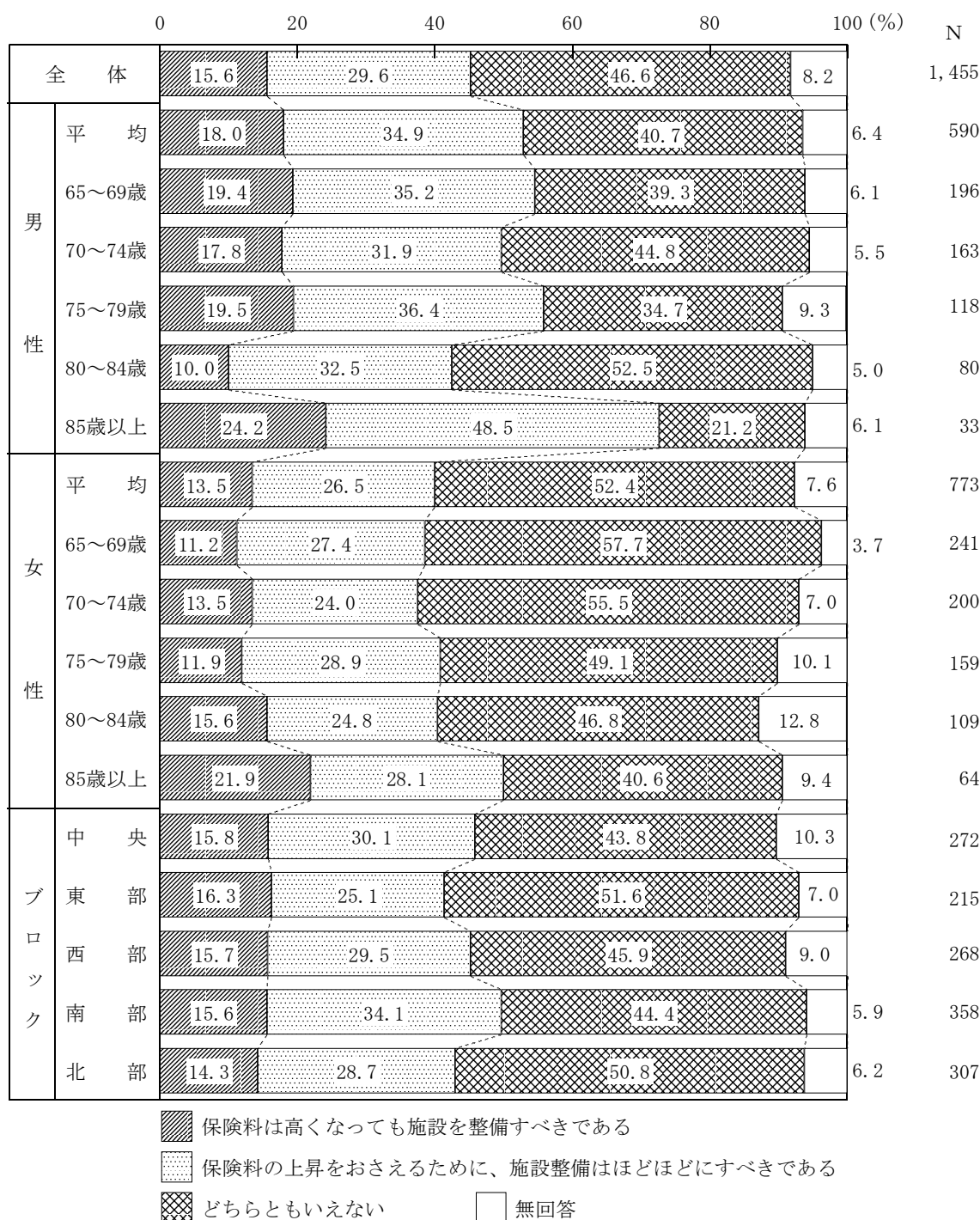




(2) 介護保険料と施設整備

施設を整備すれば介護保険料が上昇しますが、そのことについてどう考えますかと聞いたところ、「保険料は高くなっても施設を整備すべきである」(15.6%)より、「保険料の上昇をおさえるために、施設整備はほどほどにすべきである」(29.6%)が高くなっています。「保険料の上昇をおさえるために、施設整備はほどほどにすべきである」は、女性より男性が、ブロック別の南部が高くなっています。

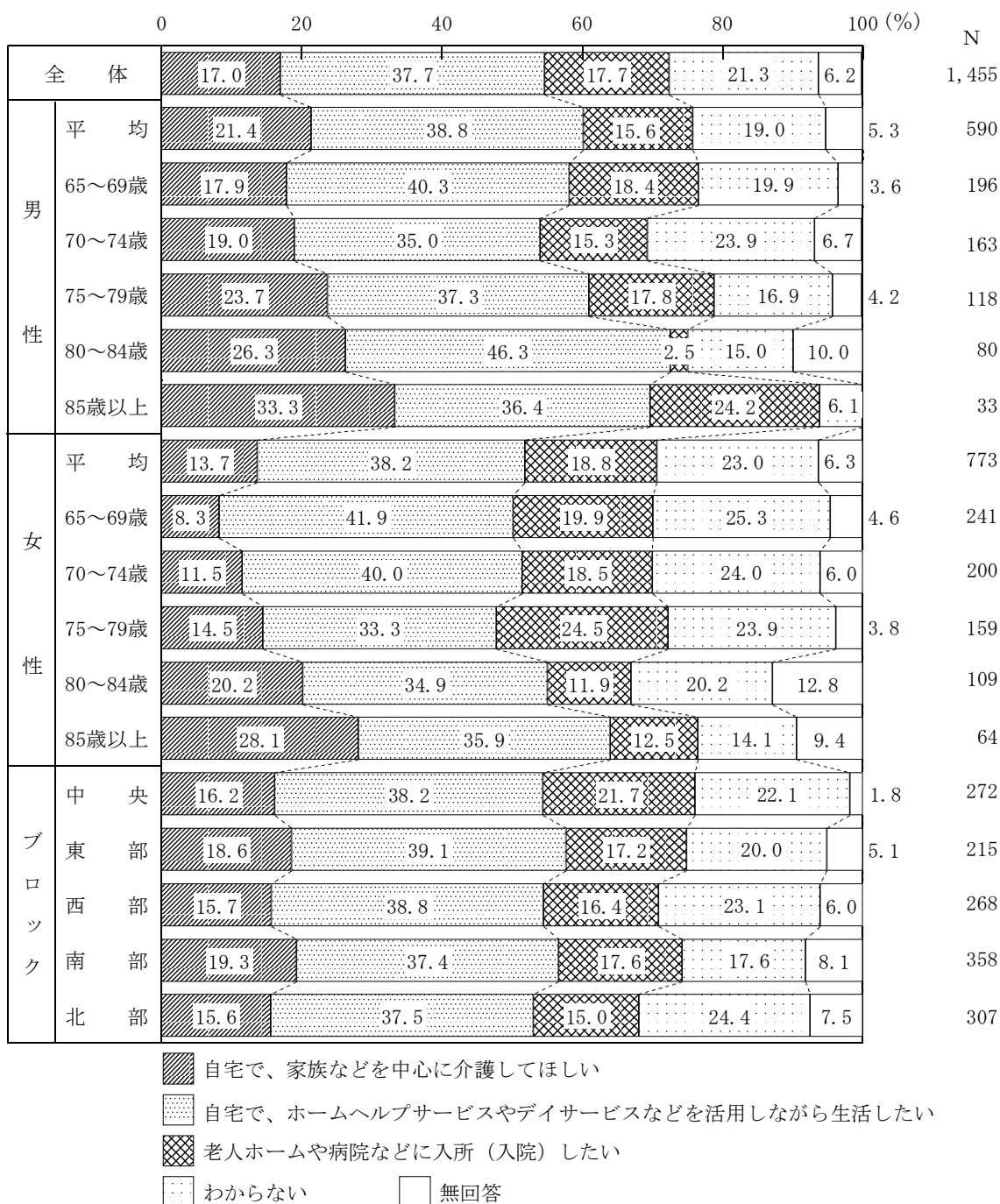
図2-91 介護保険料と施設整備



(3) 介護が必要になったとき

「今後、仮に介護が必要になった場合、どのようにしたいですか」という設問に対しては、「自宅で、ホームヘルプサービス（訪問介護）やデイサービス（通所介護）などを活用しながら生活したい」（37.7%）、「老人ホームや病院などに入所（入院）したい」（17.7%）、「自宅で、家族などを中心に介護してほしい」（17.0%）の順になっています。家族介護の希望は、性別では男性、年齢別では高年齢層ほど、ブロック別では南部が高くなっています。

図2-92 介護が必要になったとき



## 11 その他

## (1) 不安に思うこと

「生活する中で、今後不安に思うことはありますか」という設問に対しては、「病気」(74.4%)が最も高く、次いで「介護」(49.4%)、「経済苦」(34.8%)などとなっています。家族構成別のひとり暮らしは、「孤独死」「防犯・防災」が他より高くなっています。ブロック別にみると、南部の「介護」は、最も低い中央より15ポイント近く高くなっています。

表2-3 不安に思うこと(複数回答)

単位：Nは人、他は%

区 分		N	病 気	介 護	経 済 苦	防 犯 ・ 防 災	孤 独 死	そ の 他	無 回 答
全 体		1,455	74.4	49.4	34.8	13.3	10.2	2.5	4.9
男 性	平 均	590	72.7	48.6	35.4	12.0	8.0	2.0	2.5
	65～69歳	196	70.4	48.0	43.9	12.8	8.2	1.0	3.6
	70～74歳	163	68.7	49.7	35.0	12.3	9.2	2.5	2.5
	75～79歳	118	76.3	52.5	32.2	11.9	5.1	1.7	1.7
	80～84歳	80	77.5	41.3	27.5	12.5	7.5	2.5	2.5
	85歳以上	33	81.8	51.5	18.2	6.1	12.1	6.1	-
女 性	平 均	773	77.0	50.5	33.6	14.4	11.3	2.7	6.1
	65～69歳	241	79.3	49.0	44.4	13.3	8.7	2.9	1.7
	70～74歳	200	74.0	50.0	39.5	16.5	16.5	4.0	6.0
	75～79歳	159	81.1	56.0	27.7	13.8	8.8	-	7.5
	80～84歳	109	77.1	49.5	18.3	19.3	12.8	0.9	11.0
	85歳以上	64	67.2	45.3	15.6	4.7	7.8	7.8	10.9
家 族 構 成	ひ  と り	219	75.3	49.3	27.4	21.9	30.6	1.8	5.5
	夫 婦 の み	537	72.6	56.1	36.7	14.3	9.9	2.4	3.0
	そ の 他	650	75.7	44.9	35.7	10.0	3.4	2.9	5.4
ブ ロ ッ ク	中 央	272	77.2	40.1	31.6	10.3	9.2	4.0	4.8
	東 部	215	73.0	49.8	34.9	14.0	10.2	3.7	3.7
	西 部	268	70.9	49.3	34.3	13.8	11.2	1.9	7.5
	南 部	358	74.9	55.0	35.2	15.4	11.5	2.2	3.9
	北 部	307	75.2	51.5	37.1	13.0	7.2	1.3	4.2

「その他」として、次の記入がありました。

- 特になし。(14件)
- 現在生活する中で不安なし。
- 人と人のつながりが少なくなっている。
- 政治の不安定さ
- 国民年金は廃止にならないか。
- 全てが不安といえば不安
- 夫の暴力
- 特別養護老人ホームの増設
- いろいろありますが、病気にならないように気をつけてやっていきたいです。
- わからない。
- 良い施設がほしい。
- 動けなくなったとして、家の中ばかりいること。
- 人のお世話になること。
- 認知症
- 健康の維持
- 老人ホームに入れられること。
- 社会
- 岐阜には私の身内はいない。
- 死亡時の葬儀

(2) 市に力を入れてほしい介護予防

「介護予防に関して、今後、市に力を入れてほしいことは何ですか」という設問に対しては、「認知症予防」(38.4%)が最も高く、次いで「生活習慣病の予防」(29.6%)、「軽運動(筋力向上等)の推進」(28.2%)などとなっています。男性が女性より高い項目として、「軽運動(筋力向上等)の推進」「生活習慣病の予防」などがあり、その逆の項目として、「認知症予防」「日常生活の動作訓練」などがあります。

表2-4 市に力を入れてほしい介護予防(複数回答)

単位：Nは人、他は%

区分		N	軽運動(筋力向上等)の推進	食生活(栄養等)の改善	閉じこもり予防	足指・爪のケアの促進	認知症予防	日常生活の動作訓練	歯の健康づくり	生活習慣病の予防	その他	無回答
全体		1,455	28.2	19.6	19.5	4.0	38.4	16.5	8.4	29.6	5.2	19.1
性別	男性	590	33.4	18.1	20.0	2.9	34.6	14.6	8.8	34.2	6.4	15.4
	女性	773	25.4	20.4	18.8	4.5	41.0	17.6	7.5	27.2	4.7	21.5
家族構成	ひとり	219	23.7	23.7	22.4	3.2	37.4	16.0	11.0	33.3	5.0	20.1
	夫婦のみ	537	31.1	20.7	23.8	3.9	39.9	16.2	7.1	30.2	5.8	15.3
	その他	650	28.3	17.1	15.1	4.2	37.2	17.5	8.3	28.6	5.1	21.1
ブロック	中央部	272	27.2	19.5	18.4	5.5	32.4	14.0	7.7	25.4	8.1	22.4
	東部	215	25.6	16.3	21.9	1.4	36.3	14.0	8.8	31.2	4.2	20.0
	西部	268	27.6	19.0	20.5	4.1	41.0	20.5	7.8	30.2	4.9	17.5
	南部	358	29.3	22.9	17.9	2.5	41.6	16.8	7.8	30.4	4.5	19.3
	北部	307	30.9	18.9	20.5	4.9	38.4	16.6	8.8	31.9	4.6	16.6

「その他」として、次の記入がありました。

- 特になし。(21件)
- わからない。(11件)
- 自己管理以外なし。(2件)
- 上記について市に期待できるのでしょうか。(2件)
- 今の所毎日が忙しく考えられません。
- 何もしてほしくない。
- まだ勤務しておりますので不明です。
- 介護制度の不公平感
- 目が悪いので現在大変困っています(早急に)。
- 市政の伝達方法(知らない人が多い)
- 1に運動、2に食事、3に薬(薬は最後)という考えをもっとPRしてほしい。医院の薬が多すぎる。
- 指導員がいて軽運動等体力増強につながる機会の企画
- 介護施設の問題
- できないことを書くな(役所)。
- 定期的な健康診断の実施
- 感謝ということを常に心がけるようにお話してほしい。
- 介護相談等の情報を多くしてほしい。
- 地域での医師、看護師、介護者との連携による予防システムを作る。
- 公的高齢者施設の建設
- 趣味の合った人たちのサークル作りが介護予防になると思う。私は歴史が好きで、語り合える人がほしい。
- 自立精神を養い、市があまり介入しないようにする。
- ホームヘルプサービスやデイサービスの充実
- 介護を必要とするに至るまでの諸事例撲滅のための諸知識(情報)の提供
- 第2期にて筋トレサポーターになり活躍中です。
- 介護認定のあり方。体が動かないのに、お口が達者なので、なかなかいただけませんでした。
- デイサービスでもっと足を使って筋力をつけたい。
- 介護保険料が収入に対して高すぎる。全く利用していないのに。
- すべて(1~8)は自分で情報を得るよう努力している。
- 力を入れるやり方による。

(3) 災害時の支援

どうすれば災害時に身近な地域の助け合いにより要援護者の支援ができるかを聞いたところ、「ふだんから隣近所の人と付き合いをする」が75.1%ありました。性別ではあまり差異はなく、年齢別では多くの項目で若年齢層ほど高くなる傾向がみられます。

表2-5 災害時に要援護者を支援するには（複数回答） 単位：Nは人、他は%

区 分		N	ふ き だ ん か ら す 隣 近 所 の 人 と 付 き 合 い を す る	ふ い だ ん の か 話 ら し 地 域 い で 防 災 に つ い て	地 域 の 災 害 訓 練 時 に 要 援 護 者 へ の 支 援 を 行 う	災 害 時 に 要 援 護 者 の 登 録 制 度 （ 該 時 に 要 援 護 者 の 希 望 を 登 録 し て 支 援 を 受 け たい と す る 希 望 者 の 登 録 制 度 ）	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
全 体		1,455	75.1	30.0	14.5	19.7	1.9	8.6	6.4
男 性	平 均	590	76.4	31.2	16.9	22.0	2.0	7.3	4.6
	65～69歳	196	79.6	34.7	18.4	24.0	2.0	5.6	2.6
	70～74歳	163	73.0	27.0	15.3	23.3	1.8	6.1	4.9
	75～79歳	118	82.2	33.9	22.0	20.3	0.8	7.6	5.1
	80～84歳	80	70.0	26.3	10.0	18.8	3.8	10.0	10.0
	85歳以上	33	69.7	33.3	15.2	18.2	3.0	15.2	-
女 性	平 均	773	75.4	29.4	12.9	18.5	1.9	9.4	6.2
	65～69歳	241	71.8	31.1	12.0	19.5	3.3	8.3	5.0
	70～74歳	200	74.5	32.0	15.5	19.5	2.0	10.5	6.5
	75～79歳	159	86.2	32.1	13.2	20.1	-	5.7	3.8
	80～84歳	109	80.7	28.4	11.0	17.4	1.8	7.3	7.3
	85歳以上	64	56.3	9.4	10.9	9.4	1.6	23.4	14.1
家 族 構 成	ひ  と り	219	71.7	26.0	12.3	25.1	1.8	13.2	6.4
	夫 婦 の み	537	75.4	32.0	16.9	22.7	2.6	6.1	5.6
	そ の 他	650	75.8	30.2	13.2	15.8	1.4	9.2	6.8
ブ ロ ッ ク	中 央	272	74.6	27.9	10.3	19.1	2.2	10.7	4.8
	東 部	215	71.2	28.8	14.4	13.5	1.9	10.7	8.8
	西 部	268	79.1	35.1	16.8	20.1	2.2	7.1	5.2
	南 部	358	75.7	30.2	15.1	20.1	0.6	8.9	6.7
	北 部	307	74.9	28.3	16.0	23.5	2.9	6.2	5.9

「その他」として、次の記入がありました。

- 昔の制度、有線放送とか車で見回り。
- 町内、班で気をつけ合う。
- 近くの人との交際は全くなし。
- 組織づくりをするべき。
- 災害時、健康な人は先に逃げてください。災害が終わった後、助けに来てください。
- 民生委員や日赤奉仕団との連携
- 要支援者のケアシステム作り
- 昼間1人の人にも
- 支援が必要と思う全員登録
- 少し食べ物を持っている。
- 無責任は市役所である。
- 地域の人が高齢者がいることを知っているべき。
- 防災訓練があっても身体がえらくてついていけない。
- アパート住まいの人にも声かけ
- 登録と支援地図作り
- 何もしてほしくない。
- 災害時要援護者の登録制度に併せて、当人の親戚、友人等に緊急連絡を隣人ができるよう自治会に住所、電話番号登録する制度があると良い。
- 老人がいつもいる場所を聞いておく。
- 近所に介護の必要がある人がいたら、皆で助けてあげること。
- 自分でシミュレーションしながら考えておく。
- 隣接市町村からの救援体制の受け入れ ボランティアへの参加者等の役割分担 自衛隊への連絡、要請の整備 消防団、水防団等、被害に遭っていない所からいかに素早く受け入れるか、逆もあって支援できるかであると思う。
- 必要とする人の的確な把握と行政の連携
- 自治会が頼りない。
- 介護者の派遣



(4) 高齢者世帯に必要な支援

「高齢者世帯が自立した日常生活を営むうえで、どんな支援が必要だと思いますか」という設問に対しては、「見守りサービスの拡大」(45.4%)、「福祉サービスを提供する人材の育成」(30.4%)、「買い物の支援」(28.3%)などが高い率を示しています。「見守りサービスの拡大」および「福祉サービスを提供する人材の育成」は、性別の男性、家族構成別の夫婦のみの世帯、ブロック別の西部が高くなっています。

表2-6 高齢者世帯に必要な支援（複数回答）

単位：Nは人、他は%

区分	N	見守りサービスの拡大	買い物の支援	部屋や庭の掃除	ゴミ出し	配食サービス	サロン等地域住民の交流の増設	相談窓口の増設	福祉サービスの提供	高齢者専用住宅の確保	その他	無回答	
全体	1,455	45.4	28.3	19.6	13.0	26.7	14.7	19.9	30.4	20.1	2.7	11.5	
男性	平均	590	47.8	22.7	15.8	11.7	22.5	15.4	21.7	33.4	20.3	3.2	9.5
	65～69歳	196	55.1	23.0	13.8	11.2	26.0	16.3	26.0	39.3	21.4	3.1	5.1
	70～74歳	163	44.8	16.6	14.1	8.0	20.2	14.7	16.6	30.1	23.3	3.1	11.7
	75～79歳	118	43.2	28.0	21.2	12.7	27.1	19.5	21.2	33.9	19.5	1.7	14.4
	80～84歳	80	47.5	23.8	17.5	16.3	15.0	11.3	21.3	28.8	12.5	6.3	12.5
	85歳以上	33	36.4	30.3	12.1	18.2	15.2	9.1	24.2	24.2	21.2	3.0	-
女性	平均	773	44.9	33.0	22.0	13.7	30.4	14.9	19.1	28.7	20.1	2.6	11.8
	65～69歳	241	51.0	34.4	21.6	14.5	36.1	17.8	19.9	31.1	22.4	1.7	7.1
	70～74歳	200	42.0	30.5	18.5	14.0	33.5	16.5	23.5	30.0	24.0	4.5	9.5
	75～79歳	159	47.2	32.7	25.2	10.7	26.4	12.6	22.0	26.4	17.6	1.3	15.1
	80～84歳	109	39.4	33.0	22.0	12.8	22.0	12.8	13.8	19.3	14.7	1.8	21.1
	85歳以上	64	34.4	35.9	26.6	18.8	23.4	7.8	4.7	37.5	14.1	4.7	10.9
家族構成	ひとり	219	42.9	31.1	18.3	13.7	31.5	14.2	21.0	27.9	32.4	3.7	7.8
	夫婦のみ	537	48.6	28.7	18.4	11.4	29.2	14.7	20.5	33.5	19.4	2.8	9.5
	その他	650	44.2	28.5	21.2	13.8	23.4	15.4	19.4	28.9	16.6	2.6	13.5
ブロック	中央部	272	41.5	29.8	17.6	11.4	27.2	12.5	19.9	27.9	21.7	3.3	14.0
	東部	215	43.7	33.0	20.5	13.0	27.4	14.9	14.9	28.4	22.8	2.3	13.0
	西部	268	48.1	27.2	17.2	14.9	25.7	17.9	25.4	34.7	21.3	2.6	8.2
	南部	358	46.6	25.4	20.4	11.2	27.7	15.6	21.8	31.6	19.3	1.7	12.0
	北部	307	46.9	28.7	21.5	13.7	25.1	13.4	17.3	28.3	15.3	3.3	11.1

「その他」として、次の記入がありました。

- わからない。(5件)
- なし。(2件)
- 現在は必要と思わないのでわからない。
- 特別に困っていないのでわからない。
- 現在考えたことない。
- どれにも特定することができない。
- 何もしてほしくない。
- 植木等の剪定、手入れ等
- 老人が昼前楽しく遊べる施設がほしいです。
- 粗大ゴミを近くで1年に2回くらいまとめて出したい。有料で大きい物、重い物を取りに来ていただきたい。16階なので。
- 無税で最低の生活費15万支給があると良い。
- 「たすけあいの会」などの有償ボランティアに対しての経済的支援
- 相談窓口の充実
- 周りの人の理解、話し相手が一番大切
- 安心してお金のかからないホームをたくさんつくってほしいです。
- 目的は何か？
- 不燃物回収
- 何でも自分でできる。
- 地域での支え合いの組織化
- 病気の時の費用、食事
- 今のところ親子関係が良いので。
- 一人で何とか生活できる人は頑張ってもらってやってもらう。一人でやれない人は家族が考える(協力する)。
- 規則重視にとられすぎず、血の通った支援をしてください。
- 経済的支援
- 健康でコロン
- 高齢者と行政のネットワークの強化・推進・充実・振興

(5) 調査票の記入者

調査票の記入者は、「本人」が87.3%を占め、次いで「家族」の9.6%です。

図2-93 調査票の記入者

